

SUSTAINABILITY

サステナビリティ

私たちは創始者 中島董一郎の「食を通じて社会に貢献する」という精神を受け継ぎ、社会課題の解決に取り組んでいます。多様なステークホルダーとの対話や連携を通じて、持続可能な社会の実現への貢献とグループの持続的成長の実現をめざします。



トップメッセージ



サステナビリティ
マネジメント



サステナビリティ
基本方針



推進体制



重点課題



サステナビリティ
目標



サステナビリティ活動



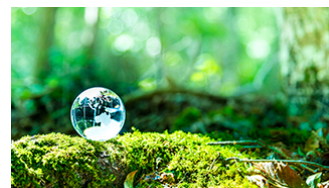
資源の有効活用・循環

- ・ 食品ロスの削減・有効活用
- ・ プラスチックの削減・再利用
- ・ 水資源の持続的利用



気候変動への対応

- ・ CO₂排出量の削減



生物多様性の保全

- ・ 生物多様性の保全活動



食と健康への貢献

- ・ 健康寿命延伸への貢献
- ・ 子どもの心と体の健康支援



持続可能な調達

- ・ 持続可能な調達の推進



人権の尊重

- ・ 人権尊重への取り組み
- ・ 多様な人材の活躍
- ・ 健康経営・労働安全衛生

ガバナンス

安全・安心

キーワードから見る取り組み

再生可能エネルギー

循環型経済

サプライチェーン

食を通じた社会貢献

健康

ユニバーサルデザイン

コンプライアンス

ダイバーシティ

キューピーグループ オフィシャルブログ



2025/06/23

食育

「食と運動」で健康づくり キューピー×セントラルスポーツコラボイベントを開催



2025/06/20

食育

社会

WFPウォーク・ザ・ワールド for アフリカ 2025 名古屋 ～社会貢献を自分ごとに～



2025/06/18

食育

社会

マヨネーズ教室でパキッが活躍!「パキッ」の瞬間が大人気



2025/06/17

食育

キューピー マヨネーズ100周年従業員家族見学会 @キューピー 神戸工場

更新情報

[一覧を見る](#)

2025/05/29

「サステナビリティ」を年次更新しました

2024/11/28

「キューピーグループ環境ビジョン2050」を策定しました

2024/11/18

「フレイル予防を心がけよう!」を公開しました

ニュースリリース

[一覧を見る](#)

2025/06/20



キューピー(株)と味の素(株) 使用済みマヨネーズボトル回収実証実験の進捗を報告 (484.9 KB)

2025/05/30 No.48

「大人の食育」推進に向けた新たな挑戦 官民連携食育プラットフォームに参画

2024/09/30

>「キューピーの自由研究」2024年度受賞作品をアップしました

2024/07/08

>「食生活アカデミー キューピーの自由研究」を更新しました

2025/05/29 No.47

> 経営の基本的な考え方と連動し、中期経営計画を反映「サステナビリティサイト」を更新

2025/05/01

 キューピーとカゴメが未利用野菜資源のバイオ炭化で共同研究を開始(367.1 KB)

2025/04/25 No.40

> キューピーみらいたまご財団 2025年度助成証書授与式を開催

サステナビリティ情報

 開示方針 >	 各種報告書 >	 対照表 >
 ESGデータ集 >	 社外からの評価 >	 各種方針 >
 イニシアチブ・加盟団体 >		

 社会・環境活動の歴史 >	 キューピーグループ オフィシャルブログ >	 グループ各社の サステナビリティ活動 >
--	--	---

サステナビリティ

サステナビリティトップ >

トップメッセージ >

サステナビリティ
マネジメント +

資源の有効活用・循環 +

気候変動への対応 +

生物多様性の保全 +

食と健康への貢献 +

持続可能な調達 +

人権の尊重 +

ガバナンス +

安全・安心 +

開示方針 >

各種報告書 >

対照表 >

ESGデータ集 >

各種方針 >

イニシアチブ・加盟団体 >

社会・環境活動の歴史 >

キューピーグループ
オフィシャルブログ >

グループ各社の
サステナビリティ活動 >

トップメッセージ

「愛は食卓にある。」への想いを大切に、
おいしさ・やさしさ・ユニークさをもって
サステナビリティに取り組むことで、
社会価値と経済価値を創出し、
社会と企業の持続的成長をめざします

キューピー株式会社 代表取締役 社長執行役員

高宮 満



キューピーグループは、サステナビリティという概念ができる以前から創始者 中島董一郎の「食を通じて社会に貢献する」という考えのもと、社会課題の解決に取り組んできました。「めざす姿」「2030ビジョン」を将来のありたい姿とし、2025-2028年度中期経営計画では、“Change & Challenge”をテーマに、活動をさらに進化させていきます。

キューピーグループのサステナビリティ活動は、国連の持続可能な開発目標(SDGs)を参考にサステナビリティに向けた6つの重点課題を特定して、2030年度目標を設定しています。中期経営計画においては、「協業、投資、グローバル」をテーマに、食と健康や地球環境にまつわる課題に積極的に取り組みます。

食と健康への貢献においては、サラダの魅力をさらに広げる「サラダファースト」の取り組みとして、世界中でサラダの健康価値や情緒的価値を発信し、広く普及することで、世界の人々の健康寿命延伸に貢献します。また、次世代に笑顔をつなぐ食育活動や社会貢献活動を積極的に推進します。また、世界的な課題である食品ロス削減やプラスチックの削減・再利用については、他企業や地域社会と協業することで資源循環ができる社会をめざします。食品ロスは、廃棄量の削減から再資源化・有価値化へと取り組みのステージを上げていきます。プラスチックの削減・再利用は、グローバル規模で取り組みを強化します。海外ではドレッシング容器に再生PET樹脂を30%含むボトルの採用が始まっており、日本国内では使用済みマヨネーズボトルとドレッシングボトルの資源循環(ボトルtoボトル)に向けた取り組みを開始しました。

持続可能な社会の実現に向け、キューピーグループはサラダ、ウェルネス、サステナビリティを価値創造のドメインと定めてグローバル視点での取り組みや投資を進め、社会価値と経済価値を創出します。

> サステナビリティ目標

サステナビリティ

サステナビリティトップ >

トップメッセージ >

サステナビリティ
マネジメント

重点課題と推進体制 >

環境マネジメント >

ステークホルダーとの
対話 >

社外からの評価 >

資源の有効活用・循環 +

気候変動への対応 +

生物多様性の保全 +

食と健康への貢献 +

持続可能な調達 +

人権の尊重 +

ガバナンス +

安全・安心 +

開示方針 >

各種報告書 >

対照表 >

ESGデータ集 >

各種方針 >

イニシアチブ・加盟団体 >

社会・環境活動の歴史 >

キューピーグループ
オフィシャルブログ >

サステナビリティマネジメント

キューピーグループは、持続可能な社会への貢献とグループの持続的な成長をめざし、「キューピーグループ サステナビリティ基本方針」をはじめとした各種方針に基づき、積極的に活動を推進しています。私たちは、ステークホルダーの皆様との対話を大切にしながら、「キューピーグループ 2030ビジョン」そして「めざす姿」の実現に向けて邁進しています。

2030年までの経営の基本的な考え方として、「サラダ」「ウェルネス」「サステナビリティ」という3つのドメインを軸に、社会価値と経済価値の創出を両輪とし、キューピーらしい新たな価値を生み出していきます。



重点課題と推進体制

キューピーグループのサステナビリティ基本方針や取り組む重点課題、サステナビリティ目標達成に向けた推進体制を示します。



環境マネジメント

キューピーグループは、環境方針のもと事業活動における環境影響に配慮した取り組みを行っています。



ステークホルダーとの対話

ステークホルダーの皆様への姿勢と主な対話の手段についてご紹介します。



社外からの評価

キューピーグループの社外からの評価についてご紹介します。

サステナビリティ

サステナビリティトップ >

トップメッセージ >

サステナビリティ
マネジメント

重点課題と推進体制 >

環境マネジメント >

ステークホルダーとの
対話 >

社外からの評価 >

資源の有効活用・循環 +

気候変動への対応 +

生物多様性の保全 +

食と健康への貢献 +

持続可能な調達 +

人権の尊重 +

ガバナンス +

安全・安心 +

開示方針 >

各種報告書 >

対照表 >

ESGデータ集 >

各種方針 >

イニシアチブ・加盟団体 >

社会・環境活動の歴史 >

キューピーグループ
オフィシャルブログ >

重点課題と推進体制

キューピーグループ サステナビリティの考え方

キューピーグループ サステナビリティ基本方針

サステナビリティ推進体制

サステナビリティに向けての重点課題

重点課題特定のプロセス

サステナビリティ目標

従業員への浸透

キューピーグループ サステナビリティの考え方

キューピーグループは、「おいしさ・やさしさ・ユニークさ」を持って世界の食と健康に貢献することで、社会に貢献し続ける企業でありたいと考えています。サステナビリティ活動を重要な活動と位置づけ、グループ理念と規範の実践を通じて、持続可能な社会の実現に貢献するとともに、グループの持続的な成長の基盤として、活動を推進します。

キューピーグループ サステナビリティ基本方針

「愛は食卓にある。」への想いを大切に、
さまざまな課題に対して「おいしさ・やさしさ・ユニークさ」をもって取り組み、
解決をめざします。そして商品の設計、原料調達から、生産、販売、消費までの
バリューチェーン全体を通じて人と環境をおもいやり、
笑顔の溢れる未来を創ります。

食と健康への貢献

- ・ サラダとタマゴを中心に、食生活に関わる栄養・健康価値を追究し、広く普及することで、世界の人々の健康寿命延伸に貢献します。
- ・ 未来を創る子どもたちの心と体の健康を、食を通じて応援します。

資源の有効活用・循環

- ・ 卵のすべてを有効に活用する世界で唯一のメーカーとして、技術を磨き、価値を創造します。
- ・ 食べ方提案と未利用部の活用により、世界的にユニークな「野菜活用メーカー」をめざします。
- ・ プラスチックにおける循環型社会の実現のため、商品の環境配慮設計や社外との協働を進めます。
- ・ 水は限りある貴重な資源と認識し、効率的な利用と取水・排水における環境負荷を低減します。
- ・ 需要情報と生産・輸配送情報のマッチング技術を深耕し、食品ロスを削減します。

気候変動への対応

- ・ 原料調達から消費まで、バリューチェーン全体のCO₂排出量削減をめざします。

生物多様性の保全

- ・ 生物多様性の負の影響を最小限に抑え、生態系の回復、再生に努めます。

持続可能な調達

- ・ 安全性はもとより、環境や人権への影響に配慮した安定調達をお取引先と協働して進めます。

人権の尊重

- ・ 従業員のダイバーシティ&インクルージョンを推進するとともに、ビジネスに関わるすべての人の人権を守ります。

2022年制定、2024年12月改訂

サステナビリティ推進体制

サステナビリティ委員会は、担当取締役を委員長とし、サステナビリティ目標の達成に向けた方針・計画策定および取り組みを推進しており、年4回委員会を開催しています。

重点課題に対する目標・取り組みについて、分科会や連携するプロジェクトで検討し、グループ内への浸透と定着を図っています。

また、リスクマネジメント委員会とも連携して、環境変化に対応し、経営基盤の強化を進めていきます。



サステナビリティに向けての重点課題

キューピーグループでは、「キューピーグループ 2030ビジョン」の実現やSDGs[※]への貢献など、2030年からバックキャスト思考で検討し、以下のサステナビリティに向けての重要課題を特定しました。

- ・ 食と健康への貢献
- ・ 資源の有効活用・循環
- ・ 気候変動への対応
- ・ 生物多様性の保全
- ・ 持続可能な調達
- ・ 人権の尊重

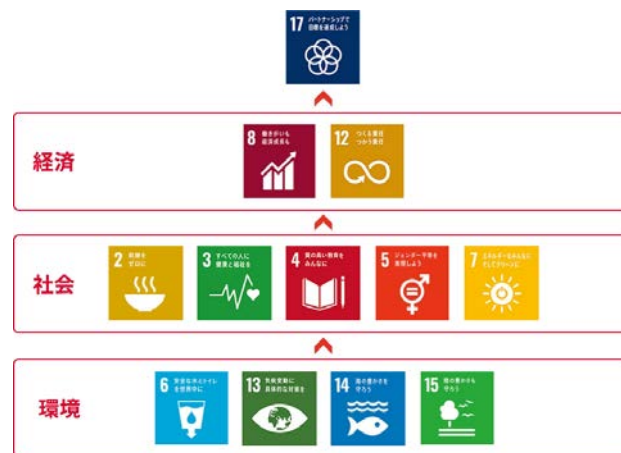
サステナビリティに向けての重点課題は、持続可能な社会の実現への貢献とグループの持続的な成長をめざす上で、事業と社会の双方にとって重要と考えています。社会・地球環境変化に応じて、定期的に重点課題の見直しを行います。



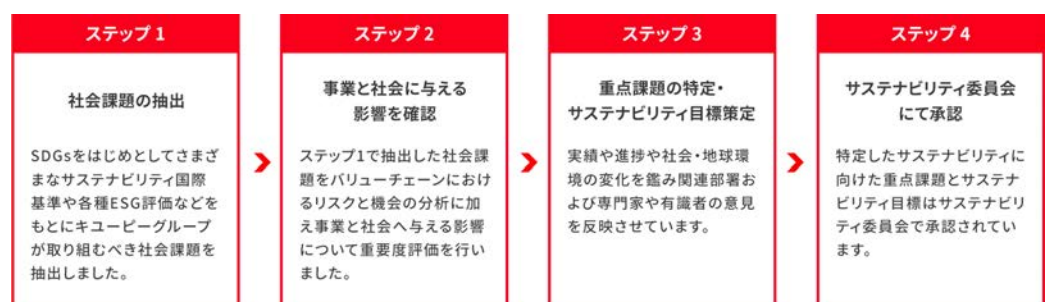
※ 持続可能な開発目標 (SDGs)

SDGs (Sustainable Development Goals 持続可能な開発目標) は、2015年に国連で採択された国際社会共通の目標です。持続可能な社会の実現に向けて2030年までに達成すべき17の目標で構成されています。

キューピーグループが貢献するSDGs項目



重点課題特定のプロセス



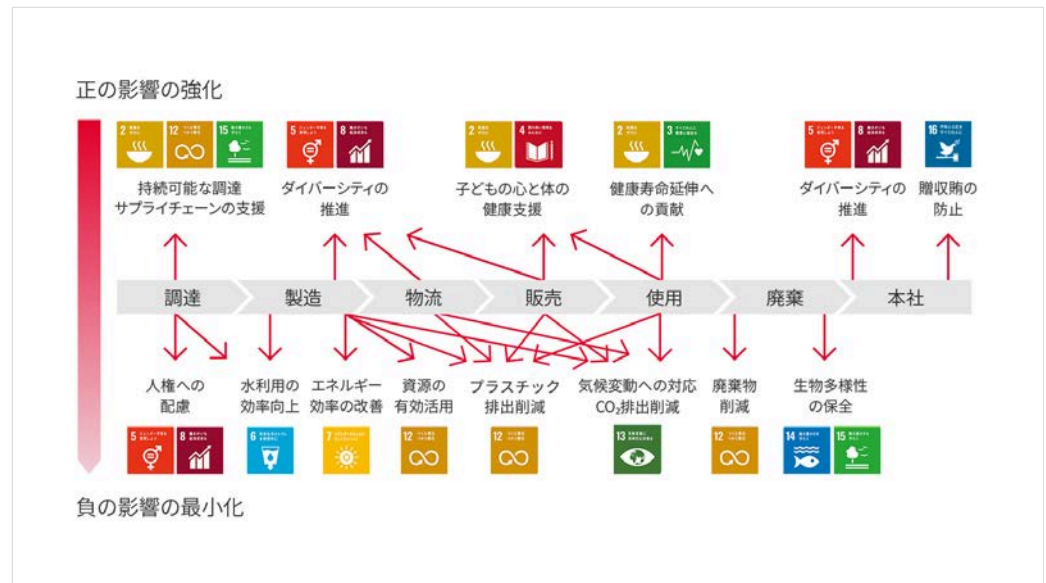
キューピーグループが取り組むべき社会課題の抽出

キューピーグループが事業を通じて取り組むべき社会課題は、持続可能な開発目標 (SDGs)、サステナビリティの国際基準GRI、ISO26000、SASBおよび各種ESG評価などを参考に抽出しています。

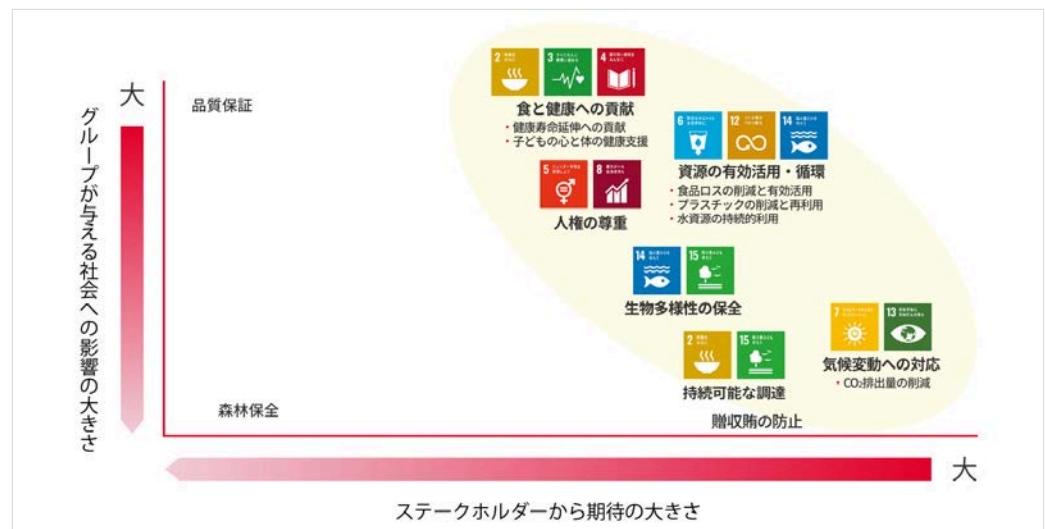
事業と社会に与える影響

バリューチェーン全体およびステークホルダーを網羅的に勘案し、バリューチェーンにおけるリスクと機会の分析に加え、社会課題ごとにステークホルダーからの期待の大きさとグループが与える社会への影響の大きさを評価しサステナビリティに向けての重点課題を特定しました。

バリューチェーンにおけるリスクと機会



サステナビリティに向けての重点課題の特定



サステナビリティ目標

サステナビリティ目標は、サステナビリティに向けた重点課題にひも付け、キュービーグループとして取り組むテーマを指標化したものです。

従業員一人ひとりが、サステナビリティの意識と視点を持ち、キュービーグループの理念と規範の実践により、目標達成に向けて取り組んでいきます。

サステナビリティ目標と実績

重点課題	取り組みテーマ	指標	2024 年度 実績	2028 年度 目標	2030 年度 目標
 食と健康 への貢献	健康寿命 ＞ 延伸への貢献	お客様の健康な食生活に貢献するため、サラダの喫食機会向上、タマゴの付加価値化を中心に取り組みを推進			
	 子どもの心と 体の健康支援	私たちの活動で創る 子どもの笑顔の数 (2019年度からの累計)	46.3 万人	80万人 以上	100万人 以上
	資源の 有効活用・循環 	食品残さ 削減率 (2015年度比)	60.6%	63% 以上	65% 以上
		野菜未利用部 有効活用率 主要野菜： キャベツなど (当年)	85.3%	88% 以上	90% 以上
		商品廃棄量 削減率 (2015年度比)	65.9%	70% 以上	70% 以上
		プラスチック 排出量削減率 (2018年度比)	22.3%	25% 以上	30% 以上
		水使用量 (原単位) 削減率 (2020年度比)	7.8%	8% 以上	10% 以上
	 気候変動 への対応	CO ₂ 排出量 削減率 (2013年度比)	44.4%	46% 以上	50% 以上
	 生物多様性 の保全	持続可能な紙の調達率2 025年度までに100% (容器包材、印刷冊子、 販促物、事務用品)	98.4%	100%	100%
	 持続可能な調達	お取引先との協働によって 「持続可能な調達のための基本方針」を推進			
	 人権の尊重	ビジネスに関わるすべての人の人権を尊重するために 「キューピーグループ 人権方針」を推進			

※「食品残さ削減率」の指標には「野菜未利用部有効活用率」も含まれています。

※サステナビリティ目標は国内の数値となっています。

※2025年度より「健康寿命延伸への貢献」の指標を変更しています。

※2025年度より「CO₂排出量削減率」について、基準年の算出データの見直しを行い遡及適用後の数値となっています。

従業員への浸透

社会の持続可能性と企業の持続的成長には、従業員一人ひとりが、方針を理解し共感することが重要と考えています。

社内広報

統合報告書などを従業員教育へ活用しています。また、社内広報ではキューピーグループ社内報でサステナビリティ情報を発信しています。



統合報告書

キューピーグループ オフィシャルブログ

2007年3月にスタートした社会・環境への取り組みを社外発信する「キューピーグループ オフィシャルブログ」では、実際に取り組むグループ従業員が記事を執筆することで、従業員一人ひとりがサステナビリティへ共感することをめざしています。

[> キューピーグループ オフィシャルブログ](#)

サステナビリティ

サステナビリティトップ >

トップメッセージ >

サステナビリティ
マネジメント

重点課題と推進体制 >

環境マネジメント >

ステークホルダーとの
対話 >

社外からの評価 >

資源の有効活用・循環 +

気候変動への対応 +

生物多様性の保全 +

食と健康への貢献 +

持続可能な調達 +

人権の尊重 +

ガバナンス +

安全・安心 +

開示方針 >

各種報告書 >

対照表 >

ESGデータ集 >

各種方針 >

イニシアチブ・加盟団体 >

社会・環境活動の歴史 >

キューピーグループ
オフィシャルブログ >

環境マネジメント

環境マネジメントの考え方

キューピーグループ 環境方針

環境マネジメント推進体制

環境マネジメントシステム

環境法規の遵守

環境監査

事業活動における環境影響

地域への環境配慮

環境コミュニケーション

環境マネジメントの考え方

キューピーグループの事業は、豊かな自然の恵みに支えられています。しかし、地球温暖化、プラスチックによる海洋汚染、生物多様性の喪失など環境問題は深刻化し、企業活動にも大きな影響を及ぼしています。キューピーグループは長年、「品質第一主義」を土台に、事業活動の環境負荷低減に取り組んでいます。

環境ビジョン

2025年から始まる11次中期経営計画を機に「キューピーグループ 環境ビジョン2050」を策定しました。脱炭素社会の実現、循環型社会の構築、生物多様性の保全を柱に環境活動を推進し、持続可能な社会の実現に貢献します。

キューピーグループ 環境ビジョン2050



キューピーグループ 環境方針

環境理念・行動指針からなるキューピーグループ 環境方針は、国内外での環境保全の意識の高まりを受けて制定しました。キューピーグループ サステナビリティ基本方針と連動し、取り組みを推進します。

キューピーグループ 環境方針

商品の設計、原料調達から、生産、販売、消費までの
バリューチェーン全体の活動において環境配慮に努めます。

- 省資源、省エネルギー、廃棄物の削減、再資源化の推進と技術開発に努めます。
- 環境の影響に配慮した商品開発と、容器包装の適正化を推進します。
- 自主的な基準を定めて環境保全に取り組み、法規制の遵守はもとより社会的要請に応える環境管理体制の整備と充実を図ります。

1998年制定、2022年改訂

重点課題と目標の設定

キューピーグループでは、地球環境への取り組みとして「資源の有効活用・循環」「気候変動への対応」「生物多様性の保全」のそれぞれの重点課題の取り組みについて指標（サステナビリティ目標）を設け、実践につなげています。

＜重点課題と推進体制

環境マネジメント推進体制

キューピーグループでは、サステナビリティ担当役員を委員長とするサステナビリティ委員会を開催しています。環境面では、サステナビリティに向けての重点課題の解決に向け、テーマごとに分科会・連携プロジェクトを設け、グループ全体への浸透と定着を図り、取り組みを推進しています。

環境マネジメントシステム

キューピーグループでは、環境保全活動のPDCAサイクルを回すための基本ツールとして、各事業所でISO14001あるいはこれに準じた独自のシステムを導入しています。

ISO14001 認証取得状況

国内グループ生産68事業所中15事業所がISO14001認証を取得しています（2024年11月末現在）。

環境法規の遵守

キューピーグループの各事業所は、環境に関わる法令・条例などの規制の遵守はもちろん、独自の基準に基づき管理・対応を適正に行っています。

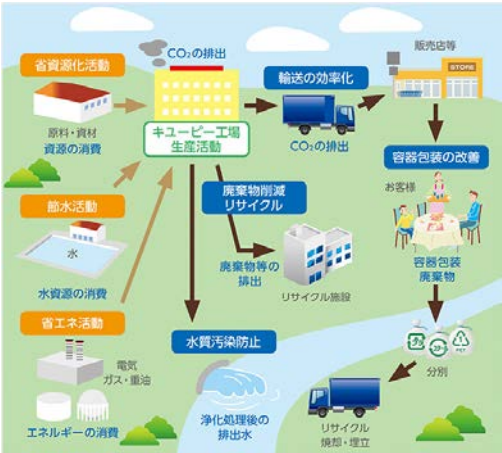
※ 2024年度は、関連法規などの違反や事故の発生はありませんでした。

環境監査

キューピーグループは、関連法規などの遵守、管理推進体制の整備、施設管理状況などについての基準を定め、定期的な内部監査を実施することで、それらを徹底するとともに環境保全活動を推進しています。この他、ISO14001認証取得事業所では、規格に基づいた外部機関による審査を受け、要求事項に適合した仕組みや運用を確認しています。

事業活動における環境影響

商品の生産工程では、原料・資材・水などの資源、電気・ガス・重油などのエネルギーが消費され、産業廃棄物や水、CO₂などが排出されます。また、商品輸送時のエネルギー使用に伴う環境負荷や、お客様が使用された商品の容器包装は廃棄物になります。そうした事業活動に伴う環境への負荷を正しく認識し、商品の設計、原料調達から、生産、販売、消費までのバリューチェーン全体の活動で、持続可能な地球環境に配慮し、省エネルギー・省資源、廃棄物削減、容器包装の改善、輸送の効率化、汚染防止などの環境保全活動を推進しています。



キューピーグループ生産部門での物質とエネルギーの流れ

キューピーグループ生産部門における物質とエネルギーの流れ(2024年度)

インプット

エネルギーの使用	購買電力	1,707 千GJ(199,844千KWh)
	燃料 ^{※1}	973 千GJ
	エネルギー合計	2,681 千GJ
水の使用	水(地下水、水道水)	7,012 千m ³

アウトプット

大気への排出	CO ₂	142.2 千トン
	NO _x	33.1トン
	SO _x	6.1トン

水域への排出※2	排出量	5,309 千m ³
廃棄物の排出	排出量(再資源化率)	34.0 千トン(95.0%)

※1 発電燃料含む
※2 河川、公共下水道含む
対象: キューピーグループ生産工場

[> ESGデータ集](#)

廃棄物排出量の削減

廃棄物排出量の削減目標

- 総量および生産数量当たりの原単位 前年比減

キューピーグループの工場から排出される主な廃棄物は、製造工程から排出される食品残さや包装資材のロスとしての廃プラスチック類、排水処理設備における排水処理後の汚泥などがあります。

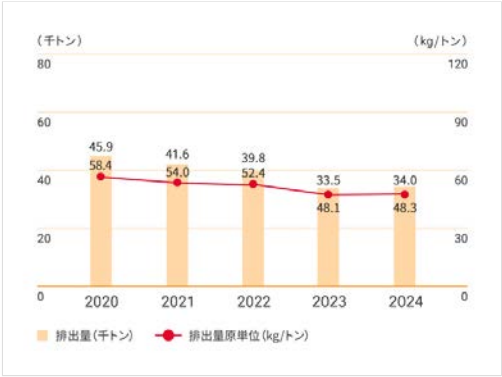
キューピーグループでは、製造工程における歩留まりの改善や、容器包装の改善などによる廃棄物の発生抑制を第一として取り組んでいます。

また、卵殻の肥料化や野菜未利用部を含む食品残さの社内再生による再資源化(堆肥化・飼料化)や、廃棄物などとして外部に再資源化(堆肥化)を委託することで、工場で発生する廃棄物などの再資源化率100%(単純焼却・埋立て処分ゼロ)に取り組んでいます。

2024年度の再資源化率は96.9%となっています。また、再資源化率100%達成工場は、グループ生産68事業所中28事業所となっています。

[> ESGデータ集](#)

廃棄物排出量※



対象: キューピーグループ生産工場
※ グループ内で再資源化している副産物を除く

地域への環境配慮

キューピーグループの事業所では、近隣にお住いの皆さまや、地域の環境に配慮して操業を行っています。

水質汚濁の防止

排水処理設備で浄化処理後の排水は自主管理基準を定めて水質などを管理し、地域ごとの基準を遵守しています。また、液体原料・燃料のタンクなどには漏洩防止設備を設置するとともに、万が一の公共水域への排出、地下浸透などを想定した訓練を行っています。

大気汚染の防止

ボイラーやコジェネレーションなどは、適切な運転管理に努めるとともに、定期点検・メンテナンス、ばい煙測定を実施しています。また、ボイラーなどの燃料についても、ばいじんや硫黄酸化物の発生が少ないガスへの転換を進めています。

騒音防止と臭気対策

排水処理や調理の際に発生する臭気対策として、工程改善や脱臭装置の整備を行っています。また、騒音防止のため、防音壁の設置や設備導入時の騒音評価、従業員や納入業者への指導などを実施しています。

環境コミュニケーション

キューピーグループの事業活動は、原材料をはじめとした豊かな自然の恵みのもとに成り立っています。持続可能な社会を引き継ぐために、事業活動が与える自然への影響に十分に配慮し、環境負荷低減活動や環境保全活動の充実を図り、環境活動を通じてステークホルダーの皆様とコミュニケーションを深めることを目的に、情報発信に努めます。

キューピーグループecoラベル

2024年2月より、キューピーグループ独自のecoラベルを表示しています。環境に配慮した商品であることをお客さまに分かりやすくお伝えすることを目的に容器包装に対する環境配慮基準を定め、基準を満たした商品に付与します。

 [キューピーグループecoラベル付与商品一覧 \(348KB\)](#)



ラベル一例

デザインに込めた想い

キューピーグループは「愛は食卓にある。」への想いを大切に、さまざまな課題に対して「おいしさ・やさしさ・ユニークさ」をもって取り組み、解決をめざしています。その取り組みの一環として、環境に配慮した商品に付与するエコラベルのデザインにも「愛は食卓にある。」の想いを込めました。

食卓に不可欠なお皿とスプーンとフォーク、そして中央にecoのロゴを添えて「環境へのやさしさ」を伝え、oの文字にはアクセントとして葉っぱをつけました。

キューピーグループecoラベル付与基準

付与項目	ラベル付与基準
プラスチック削減	プラスチック使用量を5%以上削減(2018年を基準として)
再生プラスチック	プラスチック使用量に占める再生プラスチック材料を重量比で25%以上使用
バイオマスプラスチック	プラスチック使用量に占めるバイオマスプラスチック材料を重量比で10%以上使用

表示例



環境教育

キューピーグループでは、従業員の環境保全に対する意識を高め、取り組みを推進するために環境教育を行っています。

関係部署と連携を取り、環境実務に即した内容で要望のある講座を実施しています。

排水処理管理、廃棄物管理などの教育は定期的を実施しています。

各事業所でも、環境問題に関する一般教育や緊急事態を想定した訓練などを行っています。

サステナビリティ

サステナビリティトップ >

トップメッセージ >

サステナビリティ
マネジメント

重点課題と推進体制 >

環境マネジメント >

ステークホルダーとの
対話 >

社外からの評価 >

資源の有効活用・循環 +

気候変動への対応 +

生物多様性の保全 +

食と健康への貢献 +

持続可能な調達 +

人権の尊重 +

ガバナンス +

安全・安心 +

開示方針 >

各種報告書 >

対照表 >

ESGデータ集 >

各種方針 >

イニシアチブ・加盟団体 >

社会・環境活動の歴史 >

キューピーグループ
オフィシャルブログ >

ステークホルダーとの対話

キューピーグループは、私たちの活動を支えていただいているお客様、従業員、お取引先、株主・投資家、地域社会などのステークホルダーの皆様との対話において、グループ理念・規範の考え方を実践していきます。

※2024.11.30時点の実績

	ステークホルダーへの姿勢	主な対話の手段(2024年度実績)
> お客様	行動規範のもと、品質を最優先に安全・安心な商品をはじめ、すべての活動の質を高め、お客様の信頼にお応えしていきます。	・お客様相談室(お客様の声 23,100件／年) ・消費者志向自主宣言 ・コミュニティサイト「キューピー マヨネーズ ファンクラブ」(会員数140,031人)
> 従業員	倫理規範のもと、人権を尊重し差別やハラスメント行為を行わず、また行動規範のもと、従業員一人ひとりの個性や成長する意欲を尊重するダイバーシティを推進していきます。	・従業員意識調査(2年に1回) ・労使委員会による対話 ・役員による事業所訪問 ・キャリア自己申告(1回／年) ・上司と部下の面談を通した人材育成
> お取引先	倫理規範のもと、公正・自由な競争を行うとともに、透明で健全な関係を築き、相互の発展につなげます。	・営業活動を通じたお取引先とのコミュニケーション ・原材料調達先への定期・不定期訪問および現場交流会 ・生産農家・団体との取り組み
> 株主・投資家	倫理規範のもと、透明で健全な関係を築いていくとともに、当社グループをより理解していただけるよう努めます。	・定時株主総会(1回／年) ※事前にご意見をいただける工夫 ・アナリスト向け決算説明会(2回／年)
> 地域社会	行動規範のもと、食育を中心とした社会貢献活動を積極的に行うことで、社会・地域とのより良い共生を図っていきます。	・オープンキッチン(工場見学)とマヨテラスの見学(64,385人／年) ※オンライン含む ・マヨネーズ教室(食育活動)、SDGs教室(9,447人／年) ※オンライン含む ・食をテーマにした講演会(123回／年) ※オンライン含む ・介護に関するイベント(80回／年) ・国内外各エリアにおける地域とのコミュニケーション

対談

DXで未来を創造する
～キュービーグループの挑戦～

キュービーグループは、今年度からスタートした2025-2028年度中期経営計画において「Change & Challenge」をテーマに掲げ、競争力を高めるべく、バリューチェーン全体でIT・デジタル化を進め、中長期的な価値を生みだせるビジネスモデルを再構築する「価値創造プロセスの進化」に取り組んでいます。まさにDX（デジタルトランスフォーメーション）です。その現状と未来について、高宮と各部門でDXを推進するメンバーが語り合いました。



キュービー株式会社 マーケティング本部 由井 敬子
キュービー株式会社 生産本部 吉田 航平
キュービー株式会社 代表取締役 社長執行役員 高宮 満
キュービー株式会社 デジタル推進本部 林 陽子
キュービー株式会社 販売戦略本部 奥野 陽亮

◆ DXで価値創造プロセスを進化させ、
次なる挑戦をしていきたい

高宮 DXは当社グループの持続的な成長と社会への貢献のためには不可欠です。急速に変化する社会環境の中で、お客様のニーズに迅速に応え、新たな価値を創造し、提供し続けるためには、デジタル技術を活用した事業変革が必須です。私は、さまざまな経営者や有識者の方とお会いする機会がありますが、何人もの方にDXについて指南され、覚悟を持って本気で向き合うようアドバイスをいただきました。DXの重要性を認識し、全社を挙げてその推進に取り組んでいます。DXで価値創造のプロセスが進化し、企業体質も変革し、新たに生まれた

資源を使って次なる挑戦ができるようにしていきたい、そのように考えています。

由井 私たちマーケティング部門では、商品のヒット率をいかに上げられるかは重要な視点になります。顧客起点の商品開発や販促施策では、デジタルをうまく活用し、プロセスや検証手法の高質化に取り組んでいます。例えば、AIペルソナと壁打ちすることでアイデアをどんどんブラッシュアップできないか、市場動向の分析や消費者の嗜好に合わせた提案などもAIを活用して効率的にできないかなどです。

変化の激しい外部環境や生活者ニーズを的確に捉えるため、従来とは異なるアプローチで、目的に応じた最

適な手法を模索しています。

奥野 営業部門では、2024年10月に国内の組織を大きく変えました。現場が使うツールや仕組みも変えて、めざす営業スタイルを実現したいと考えています。当社の



営業は個々にはうまくコミュニケーションや折衝をしながらお取引先に提案する力を持っているのですが、暗黙知が多く、属人化している点が課題です。過去の営業データや顧客情報を分析し、最適な提案内容や訪問タイミングを提示できるように、AIを活用した営業支援ツールの開発を進めています。



さらに、過去の取引履歴や成功事例を基に適切なアドバイスをAIが提供してくれるようになれば、経験の浅い人でも自信を持って営業活動ができるようになります。「営業はやりがいがある」「挑戦したい仕事だ」と感じる人を増やしていきたいなと思います。

林 デジタル推進本部は、皆さんのDX推進のハブだと考えています。変革を描く思考を持つ人を増やし、大き



く描いて力強く実行していける人がいろいろな部署にいれば、それだけで継続的な成長が可能になるのではないかと思います。起爆剤として活動しています。

◆ 基幹システムの刷新から加速させるDX

高宮 当社グループのDXを推進していく大きな転換点となったのが、新基幹システム「SAP」の導入です。約

新基幹システムの活用による業務の効率化

当社グループは、2024年度に長年使用してきた基幹システムの刷新を完了しました。この刷新により、生産・営業・会計・物流の各業務をシンプル化・標準化し、グループ全体でデータを一元管理する環境が整い、各部門でデータを可視化できるDX推進の基盤が確立されました。データ活用の具体的な事例も出てきています。例えば、生産現場では、ライン単位での詳細な原価分析が可能となり、データ（事実）に基づいた迅速な改善活動を展開しています。このようなデータを活用した意思決定により、業務の進め方・速さ・精度が向上し、より効率的な経営スタイルへの転換が進んでいます。

VOICE



羽賀 元紀
株式会社ゴットデカ

基幹システムの刷新によりデータが標準化され、データ可視化のためのAI活用や分析システムの構築が容易になりました。製造、購買、設備などは熟練者の知識を蓄積し、リアルタイムデータと組み合わせ、AIの推論による分析・提案の自動化や、業務を自動実行するAIエージェントの検証も進めています。最新の知見を取り入れながら、ゴットデカの知識やノウハウを次世代に継承し、工場の課題解決に取り組んでいます。



170億円を投下したこのプロジェクトは、単なるシステム刷新ではありません。「情報」という大切な資源を活かし、シンプルでしなやかな経営スタイルを創ることをコンセプトに、業務プロセスの標準化とシンプル化を通じて、全社的な変革を促す重要な取り組みでした。

■ 林 2024年度はデータを蓄積する分析基盤や分析・可視化するBIツール、生成AIなど道具立てを進めてきました。また、SAPの導入により、各部門のデータが統合され、リアルタイムでの情報共有が可能になりました。これらが各部門でのDX推進の土台となっています。

吉田 生産部門では、SAPの導入によって、これまでより多様な粒度で情報が取得できるようになり、事象の解像度がものすごく上がりました。得られた情報をどう関係者と共有しながら日々の判断に活用していくか、ドリルダウンして原因を追究していくか、を模索しています。

プロセスが変わってきたと感じていますので、地道に取り組んでいきます。

■ 奥野 営業部門でもSAPの導入で取得できるようになったさまざまな数字をダッシュボード化して、共有しようとしています。

高宮 客観的な数値が瞬時に提示されれば、バリューチェーンの各部門で一緒に議論ができ、仕事のスピードも質も大きく変わります。バリューチェーン全体でデータを共有し、相乗効果を生み出す。SAPの導入は、その一歩となりました。

吉田 過去の実績を可視化して、原因追及しながら議論を深め、次の動きにつなげていくことは取り掛かり始めていますが、将来的に実現したいのは、未来の原価シミュレーションです。社内外のさまざまな変化や資源投下の仕方によってどのような結果になりそうか、視覚的に把握できるようにしたいです。そうすることで決裁の質もスピードも上げていけると考えています。

■ 林 デジタル推進本部では、部門間の連携をさらに強化するため、バリューチェーン全体でめざす姿を考えながら「最高の顧客体験創出」「商品構成最適化」といった全社横断型のDXプロジェクトを推進しています。顧客理解の深化、商品創出の仕組み刷新、商品ポートフォリオマネジメントなど、デジタルの力を最大限活用した仕組みの構築を進めていきたいと考えています。

◆ デジタルを武器に、変革志向の企業風土へ

■ 林 社内にはデジタルへの苦手意識や「デジタル化は誰かがやってくれる」と思っている人も正直、一定数います。営業をやっていた自分が、デジタルによる未来にわくわくし、DXの重要性を感じて公募で異動してきて1年以上経ちました。営業現場の視点をもちながらDXを推進できるのは、大きな強みだと感じています。

2024年6月にキュービーグループ版生成AI「Q-unity®」をローンチしました。使用可能な環境にいるグループ社員約8千名のうち、半数以上がまずは使ってみた、という状態です。もっとデジタルやAIが自分の身近な存在であることを感じてもらえればとの想いで、勉強会や個別サポートを日々実施しています。

また、DX人材はデジタルに強い人ではなく、変革を推進でき、デジタルを使い競争力を高めることができる



人材だと考えています。そのような想いのある人がデジタルスキルを身に付けると、格段にアップデートできると思います。DXを進めるにあたって、デジタルやITツールの細かいことは一旦横に置いて、とにかく創出したい未来を語り合い、想像することから入っていくようにしています。

■ 奥野 DXを進めることで、これまで不可能だと思っていたことにも、新しい視点で挑戦しようという前向きな姿勢が生まれてきているのは、とても良い傾向だと感じています。

■ 由井 そうですね。何か課題が発生した時でも、前例踏襲ではない発想で、ありがたい姿からバックキャストで考えることが増えています。デジタルの力で変えてよい、変えていくぞ、そんな風土が醸成されてきていると感じます。

吉田 データを可視化したダッシュボードに、お客様の嗜好や取引先の状況等の定性的な情報を組み合わせると、お客様を含めたバリューチェーン全体での価値創造に向けて、いろいろな部門の人がもっともっと深く話し合える企業風土になっていくと思います。そんな取り組みも進めていきたいと考えています。

高宮 皆さんの話を聞いていると、DXが単なる業務効率化だけでなく、健全な危機感のもと、従業員の意識改革や企業文化の変革にもつながっていることがよく分かります。さまざまな課題に向き合いながら、合理化を進めた上での価値創造のあり方、リスクマネジメント、人手不足への対応、新規ビジネスの創出などがDXによって加速すると期待しています。

ただし、忘れてはいけないのは、デジタル技術やITツールの活用は目的ではないということです。私たちのめざすところは、お客様の日々の暮らしに寄り添い、より豊かで健康的な食生活の実現に貢献することです。デジタル技術はその実現を加速させる重要な要素ですが、最終的にはそれを使いこなす人材の創造性と、お客様への思いやりが成功の鍵を握ると考えています。

ヒトの創造力を「データ×AI」で強化し、バリューチェーンとサプライチェーンを最適化する。これが当社グループのDXの姿です。進化するデジタル技術はうまく使いながら、私たちは情熱的なことを大事にした仕事をし、お客様や社会の役に立ち続けられると、こんな素敵なことはありません。今回の座談会を通じて、当社グループのDXが着実に進展し、価値創造プロセスが進化し始めていることが実感できました。また、部署横断で1つのテーマをこのようにポジティブに会話できることも大変うれいので、今後が大変楽しみです。



サステナビリティ

サステナビリティトップ >

トップメッセージ >

サステナビリティ
マネジメント

重点課題と推進体制 >

環境マネジメント >

ステークホルダーとの
対話 >

社外からの評価 >

資源の有効活用・循環 +

気候変動への対応 +

生物多様性の保全 +

食と健康への貢献 +

持続可能な調達 +

人権の尊重 +

ガバナンス +

安全・安心 +

開示方針 >

各種報告書 >

対照表 >

ESGデータ集 >

各種方針 >

イニシアチブ・加盟団体 >

社会・環境活動の歴史 >

キューピーグループ
オフィシャルブログ >

社外からの評価

ESG関連指標

評価

認定

表彰

ESG関連指標

FTSE4Good Index

FTSE4Good Global Indexは、FTSE Russellが提供するESG（環境・社会・ガバナンス）に配慮した投資指標で、投資家が企業の持続可能性を評価するための基準として使用されます。

キューピーは、2024年から組み入れの要件を満たし、本インデックスの構成銘柄に選定されました。

> [FTSE4Good Index Series ウェブページ](#)



FTSE4Good

FTSE Blossom Japan Index

FTSE Blossom Japan Indexは、FTSE Russellが作成した、日本企業のESG（環境・社会・ガバナンス）対応を評価するインデックスで、年金積立金管理運用独立行政法人（GPIF）が採用している投資指標です。キューピーは、2024年から組み入れの要件を満たし、本インデックスの構成銘柄に選定されました。

> [FTSE Blossom Japan Indexウェブページ](#)



FTSE Blossom
Japan Index

FTSE Blossom Japan Sector Relative Index

FTSE Blossom Japan Sector Relative Indexは、サステナブル投資のファンドや他の金融商品の作成・評価に広く利用されます。キューピーは、第三者調査の結果、2022年からFTSE Blossom Japan Sector Relative Index組み入れの要件を満たし、本インデックスの構成銘柄に選定されました。

＜ [FTSE Blossom Japan Sector Relative Index](#) ウェブページ  ＞



**FTSE Blossom
Japan Sector
Relative Index**

MSCI日本株ESGセレクト・リーダーズ指数※

米国のMSCI(モルガン・スタンレー・キャピタル・インターナショナル)社が提供するESG投資インデックスです。「MSCI日本株 IMI指数」を親指数とし、各業種からESG評価に優れた企業により構成されています。年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)の運用対象として採用されており、キューピーは2024年より構成銘柄に選定されています。

**2024 CONSTITUENT MSCI日本株
ESGセレクト・リーダーズ指数**

※ キューピー株式会社のMSCIインデックスへの組み入れや、MSCIのロゴ、商標、サービスマークやインデックス名の使用は、MSCIまたはその関係会社によるキューピー株式会社の後援、宣伝、販売促進ではありません。MSCIインデックスはMSCIの独占的財産です。MSCIおよびMSCIインデックスの名称とロゴは、MSCIまたはその関係会社の商標またはサービスマークです。

MSCI日本株女性活躍指数(WIN)※

女性活躍推進法により開示される女性雇用に関するデータに基づき、多面的に性別多様性スコアを算出し、各業種から性別多様性スコアの高い企業を選別しています。年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)の運用対象として採用され、キューピーは2017年の初回から2019年までと2022年から連続して構成銘柄に選定されています。

**2024 CONSTITUENT MSCI日本株
女性活躍指数(WIN)**

※ キューピー株式会社のMSCIインデックスへの組み入れや、MSCIのロゴ、商標、サービスマークやインデックス名の使用は、MSCIまたはその関係会社によるキューピー株式会社の後援、宣伝、販売促進ではありません。MSCIインデックスはMSCIの独占的財産です。MSCIおよびMSCIインデックスの名称とロゴは、MSCIまたはその関係会社の商標またはサービスマークです。

S&P/JPX カーボン・エフィシエント指数

年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)が選定したESG投資のための株式指数「S&P/JPX カーボン・エフィシエント指数」の構成銘柄に採用されています。環境評価のパイオニア的存在であるTrucostによる炭素排出量データをもとに、世界最大級の独立系指数会社であるS&Pダウ・ジョーンズ・インデックスが指数を構築しています。同業種内で炭素効率性が高い企業、温室効果ガス排出に関する情報開示を行なっている企業の投資比重を高めた指数です。キューピーは2020年より連続して構成銘柄に選定されています。

**S&P/JPX
カーボン
エフィシエント
指数**

SOMPOサステナビリティ・インデックス

SOMPOアセットマネジメント株式会社が、独自の評価に基づきESGの取り組みに優れる約300銘柄を採用し、毎年見直しを行うインデックスです。当インデックスに追随する「サステナブル運用」は、複数の年金基金・機関投資家が採用しています。キュービーは2019年より連続して選定されています。



評価

CDP

CDPは英国を拠点とし、気候変動などの環境分野に取り組む国際NGOです。世界の主要な企業・都市に対して、気候変動や水管理などにどのように取り組んでいるかについて情報開示を求め、調査・評価を行っています。

キュービーグループは2024年、気候変動および水セキュリティにおいて「B」評価を獲得しました。また、森林（パーム油）は「C」、森林（木材）は「C」の評価を受けました。



認定

健康経営優良法人

キュービーは、優良な健康経営を実践している法人として健康経営優良法人2025(大規模法人部門)の認定を受けました。昨年に続き、4年連続の認定となります。キュービーグループ全体で、健康経営認定に取り組んでおり、2024年12月現在、グループの半数以上の18社が認定されています。

健康経営優良法人(大規模)3社

健康経営優良法人(中小規模)3社

健康優良企業 銀の認定12社

※ 健康経営優良法人認定制度とは

地域の健康課題に即した取り組みや、日本健康会議が進める健康増進の取り組みをもとに、特に優良な健康経営を実践している法人を顕彰する制度。



プラチナくるみん[※]認定

キュービーは「子育てサポート企業」として厚生労働大臣の認定(くるみん認定)を通算7回受けています。2018年5月にプラチナくるみん[※]の認定を受けました。

※ プラチナくるみんとは

2015年4月1日より、くるみん認定を既に受け、相当程度両立支援の制度の導入や利用が進み、高い水準の取り組みを行っている企業を評価しつつ、継続的な取り組みを促進するため、新たにプラチナくるみん認定がはじまりました。



「健康な食事・食環境」認証制度で「3つ星」を取得

キューピーは、「健康な食事・食環境」コンソーシアムが進める第1回「健康な食事・食環境」認証制度の給食部門に応募し、グループオフィス「仙川キューポート」内の社員食堂での取り組みが、最高ランクの「3つ星」認証を受けました。

＞「仙川キューポート」の社員食堂が第1回「健康な食事・食環境」認証制度で「3つ星」を取得しました



表彰

2025年	＞ Motivation Team Award2025 優秀賞 キューピー 研究開発本部 未来創造研究所の取り組み 
2024年	＞ 食品産業新聞社主催 食品産業技術功労賞 サステナビリティ部門卵に関する取り組み  ＞ 2024日本パッケージングコンテスト 食品包装部門賞 100%再生PET樹脂のドレッシングボトル ＞ 第9回介護食品・スマイルケア食コンクール 噛むことに問題がある人(咀嚼困難者)向けの食品部門 金賞 やさしい献立 やわらかごはん ＞ 第45回食品産業優良企業等表彰 環境部門 農林水産大臣賞 マヨネーズ残さをバイオガス発電に有効活用
2023年	＞ SDGs・災害食大賞©2023ローリングストック部門最優秀賞 キューピー「やさしい献立」シリーズ ＞ 令和5年度リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰リデュース・リユース・リサイクル推進協議会会長賞 マヨネーズ残さをバイオガス発電に有効活用 ＞ 第11回食品産業もったいない大賞農林水産省大臣官房長賞 マヨネーズ残さをバイオガス発電に有効活用
2022年	＞ 第6回食育活動表彰「農林水産大臣賞」受賞 ＞ 第72回大会日本食品保蔵科学会 産業技術功労賞「冷圧フレッシュ製法®」 日本食品工学会第23回年次大会 技術賞「冷圧フレッシュ製法®」 ＞ 2022 日本パッケージングコンテスト 包装部門賞 食品包装部門賞「キューピー平飼い卵 マヨネーズ」 ＞ 2022 日本パッケージングコンテスト 包装技術賞 アクセシブルデザイン包装賞「レンジでチンするハッピーレシピ」 ＞ 2022日本パッケージングコンテスト ジャパンスター賞 公益社団法人日本包装技術協会会長賞「ヴェルデ ピーナッツホイップ、チョコホイップ」 ＞ 2022年度グッドデザイン賞「H O B O T A M A」シリーズ3品
2021年	＞ 令和2年度「知財功労賞」特許庁長官表彰 ＞ サステナアワード2021 みどりの食料システム推進賞  ＞ サプライチェーンイノベーション大賞2021

2020年

- ＞ 第7回「食品産業もったいない大賞」農林水産省 食料産業局長賞
- ＞ 第2回日本オープンイノベーション大賞 農林水産大臣賞
- ＞ UCDAアワード2020 特別賞 [📄](#)
- ＞ 第3回「SUSTAINA ESG AWARDS 2020」総合部門ブロンズクラス [📄](#)

サステナビリティ

サステナビリティトップ >

トップメッセージ >

サステナビリティ
マネジメント +

資源の有効活用・循環 -

食品ロスの削減・有効活用 >

プラスチックの削減・再利用 >

水資源の持続的利用 >

気候変動への対応 +

生物多様性の保全 +

食と健康への貢献 +

持続可能な調達 +

人権の尊重 +

ガバナンス +

安全・安心 +

開示方針 >

各種報告書 >

対照表 >

ESGデータ集 >

各種方針 >

イニシアチブ・加盟団体 >

社会・環境活動の歴史 >

キューピーグループ
オフィシャルブログ >

資源の有効活用・循環

キューピーグループの事業活動は、原材料をはじめとした豊かな自然の恵みのもとに成り立っています。限りある資源を大切に使い、商品の設計、原料調達から、生産、販売、消費までのバリューチェーン全体において、地球環境の持続可能性に配慮した取り組みをグループ一丸となって推進していきます。



サステナビリティ目標

重点課題	取り組みテーマ	指標	2030年度目標
資源の有効活用・循環	食品ロスの削減・有効活用	食品残さ削減率 (2015年度比)	65%以上
		野菜未利用部有効活用率 主要野菜:キャベツなど (当年)	90%以上
		商品廃棄量削減率 (2015年度比)	70%以上
	プラスチックの削減・再利用	プラスチック排出量削減率 (2018年度比)	30%以上
	水資源の持続的利用	水使用量(原単位)削減率 (2020年度比)	10%以上



➤ **食品ロスの削減・有効活用**
容器の改良・賞味期間の延長などでの食品ロス削減に加え、食資源の有効活用に取り組んでいます。



➤ **プラスチックの削減・再利用**
品質第一主義を守りながら、容器の軽量化・薄肉化や再生材の採用



➤ **水資源の持続的利用**
人々の生活やさまざまな産業を支える大切な水資源について、効率的な活用に取り組んでいます。

グループ各社の
サステナビリティ活動

など商品・サービスにおける環境
負荷低減に取り組んでいます。



サステナビリティ

サステナビリティトップ >

トップメッセージ >

サステナビリティ
マネジメント +

資源の有効活用・循環 -

食品ロスの削減・有効活用 >

プラスチックの削減・
再利用 >

水資源の持続的利用 >

気候変動への対応 +

生物多様性の保全 +

食と健康への貢献 +

持続可能な調達 +

人権の尊重 +

ガバナンス +

安全・安心 +

開示方針 >

各種報告書 >

対照表 >

ESGデータ集 >

各種方針 >

イニシアチブ・加盟団体 >

社会・環境活動の歴史 >

キューピーグループ
オフィシャルブログ >

食品ロスの削減・有効活用

食品ロスの削減・有効活用の考え方

食品ロス削減への対応

有効活用の推進

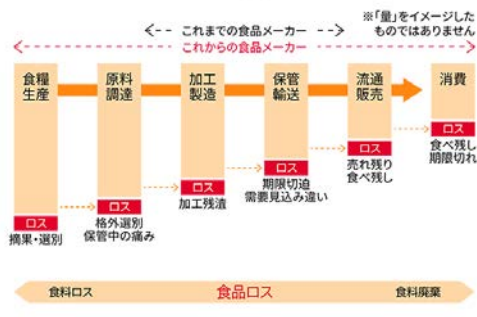
食品ロスの削減・有効活用の考え方

限りある食資源を利用する食品メーカーの重要な責任として、キューピーグループでは食品ロスを削減して、資源の有効活用に努めてきました。

近年、気候変動により原料となる農作物などの収量や品質へ影響が生じるなど、食品ロス削減の重要性は一層高まっています。また、お客様をはじめとするステークホルダーからの食品ロス削減への関心も高まっており、その期待に応え続けたいと考えています。

キューピーグループは、サステナビリティに向けた重点課題「資源の有効活用・循環」の取り組みテーマのひとつに食品ロスの削減・有効活用を掲げ、食品残さ削減、野菜未利用部の有効活用、商品廃棄の削減に注力して取り組んでいます。

サプライチェーンにおける食品ロス



サプライチェーンの各段階で発生する食品ロス

食品ロス削減への対応

キューピーグループでは、サプライチェーンの各段階でさまざまな工夫を重ね、グループ内で連携し、食品ロス削減を実現していきます。

製造における食品ロス対応

キューピーグループでは、効率的な製造ラインの配置や商品設計の工夫などで食品ロスを最小限に抑えるための取り組みを行っています。

さまざまなサラダ・惣菜を製造するデリア食品では、製造工程ごとに生産重量が適正であったかを計量・確認するシステムを導入してデータ化し、現状把握や要因分析、対策を繰り返すことで食品ロスを最小限にするよう取り組んでいます。

商品における食品ロス対応

キューピーグループでは、製法や容器包装の改良による賞味期間延長と賞味期限の「年月表示」切り替えを通して、食品ロス削減に取り組んでいます。

また、サラダクラブでは野菜の収穫量が増える旬の時期に増量企画を実施することで消費促進を図り、産地での食品ロス削減への支援を行っています。

開始時期	対象	内容
2024年12月	キューピー マヨネーズ 450g、350g	12カ月から13カ月に延長、賞味期限を年月表示
2024年10月	サラダクラブ「Select SALAD」シリーズ 3品	消費期限を1日延長(加工日に加え4日間)
2024年6月	サラダクラブ「カットレタス」「リーフミックス」「リーフミックス ビッグパック」増量企画全国(北海道・東北・沖縄県を除く)	最盛期の産地廃棄(フードロス)削減への支援
2024年2月	ヴェルデ トーストスプレッドシリーズ全品	13カ月から19カ月に延長 ただし、バジルのみ11カ月から13カ月に延長
2024年2月	サラダクラブ 千切りキャベツ ミックスサラダ増量企画(九州エリア)	最盛期の産地廃棄(フードロス)削減への支援
2024年2月	サラダクラブ 千切りキャベツ増量企画(全国)	最盛期の産地廃棄(フードロス)削減への支援
2024年2月	サラダクラブ シュレッドレタス増量企画(沖縄)	最盛期の産地廃棄(フードロス)削減への支援
2024年2月	サラダクラブ 千切りキャベツ ミックスサラダ ブロッコリースーパースプラウト彩りミックスサラダ増量企画(東海・北陸エリア)	最盛期の産地廃棄(フードロス)削減への支援
2023年12月	キューピー 3分クッキング 和えの素 3品	7カ月から12カ月に延長
2023年9月	キューピー やさしい献立5品	19カ月から25カ月に延長
2023年9月	キューピー あえるパスタソース8品	11カ月から12～19カ月に延長
2023年6月	サラダクラブ カットレタス増量企画(全国)	最盛期の産地廃棄(フードロス)削減への支援
2023年5月	GREEN KEWPIE ドレッシング2品	8カ月から10カ月に延長
2023年3月	サラダクラブ ヤングコーン	19カ月から24カ月に延長
2023年3月	キューピー デリフィットマヨネーズ 190kg	60日から75日に延長
2023年1月	サラダクラブ 千切りキャベツ ミックスサラダ ブロッコリースーパースプラウト彩りミックスサラダ増量企画(東海・北陸エリア)	最盛期の産地廃棄(フードロス)削減への支援

2023年1月	キューピー 鉄分入りソフトおせんべい	6カ月から12カ月に延長
2022年9月	キューピー あえるパスタソースシリーズ全品	「年月表示」に変更 賞味期間延長
2022年9月	キューピー やさしい献立シリーズ31品	賞味期間を25カ月に延長
2022年6月	サラダクラブ カットレタス増量	生産体制の維持や産地廃棄（フードロス）削減への支援
2022年3月	サラダクラブ加熱用カット野菜 炒めるキャベツ	業界最長クラス 消費期限7日間を実現（加工日＋7日間）
2022年2月	キューピー 3分クッキング 野菜をたべよう！スープの素シリーズ	「年月表示」に変更 賞味期間を12カ月から13カ月に延長
2022年	ポテトサラダなどの惣菜	冷圧フレッシュ製法®※による日持ち延長 ※ 食品を低温・高圧処理することで、より素材本来の食感や色味を残し、味わいを維持しながら日持ちを延長できる当社独自の技術

商品廃棄の削減

商品廃棄の主な原因は、需要予測による生産と販売実績とのギャップや流通段階での売れ残りによる返品が生じることなどです。各社各部門が連携するのはもちろんのこと、フードバンクへの寄贈も積極的に行うことで課題解決に向け取り組んでいます。

需給調整の精度アップへ向けた生産・販売・物流の連携

2015年より関係部署が集まり、隔月に1度のワーキンググループを開催しています。ここでは「商品在庫」に着目し、製造から流通に至る過程でのさまざまな課題や解決策を話し合います。この活動により、社内の食品ロス削減に対する意識も変化したことで、計画的な生産が実現し、商品在庫の適正化によって、廃棄削減につながっています。

お取引先と連携した返品削減の取り組み

関東地区の一部の販売店・卸店と連携し、売れ残りにより廃棄される商品の削減に取り組みました。各店舗の商品の販売傾向を見直して、商品の納入の最適化を図り、取り組みが難しいと言われていた返品ゼロを実現しました。

現在は、この取り組みを水平展開し、社内外の連携を進めながらサプライチェーン全体での商品廃棄削減に取り組んでいます。

食品ロス削減のためのメニュー提案

食品ロス削減に向けた取り組みを、お客様が毎日の食生活の中で実践する支援をしたいと考えています。野菜の外葉や芯などは捨ててしまいがちな部位ですが、少しの工夫でおいしい食材として活用することをおすすめしています。傷や外敵などから野菜を守るために成長が盛んな部位にあたることで、他の部位とは違う栄養

養や機能に優れている場合もあります。

料理メニューを紹介する「とっておきレシピ」サイトで、2019年から東京家政大学の皆さんが考案してくれたキャベツの芯、レタスの外葉、ブロッコリー茎の活用レシピをご紹介します。

キャベツの芯をかしこく使いこなす



キューピーの1社提供番組「キューピー3分クッキング」では、“簡単、便利、毎日の献立づくり”に役立つレシピを時代に合わせて提供しています。環境への配慮が日常的になってきたこともあり、番組でも「エコ」を取り入れていきます。

食材を無駄なく上手に活用する工夫や、省エネにつながるアイデアなど、毎日の料理に手軽に取り入れられる「エコ」なレシピをご紹介します、「エコ」に取り組むきっかけを提供していきます。



「プラスエコ」ロゴ

有効活用の推進

キューピーグループは、ステークホルダーとの協働により、さまざまな取り組みを進め食資源の有効活用に取り組んでいます。

食品残さを活用したバイオガス発電※の取り組み

キューピーグループでは、多品種のマヨネーズを製造する工程で、異なる商品の製造への切り替え時に、配管から排出されるマヨネーズなどの食品残さが発生します。製造過程で発生する食品残さをバイオガス発電へ活用することに成功しました。

この取り組みは、キューピーの五霞工場、中河原工場、泉佐野工場、神戸工場、およびグループ会社の株式会社ケイパックで行っています。

※ バイオガス発電とは、養豚農家で出る家畜の排泄物と食品残さを混合してメタン発酵後、そこで生成されたバイオガスを利用して発電する仕組み。

家畜のふん尿とマヨネーズなどの「黄金比」を見つけ出し、ようやく安定したガス量を確保へ



製品の切り替え時などに、配管などからマヨネーズの廃棄物が出る



発酵タンク



ガスの発電機

＞ 令和5年度リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰で「リデュース・リユース・リサイクル推進協議会会長賞」を受賞

＞ 第11回「食品産業もったいない大賞」マヨネーズ残さをバイオガス発電に活用する取り組みが農林水産省大臣官房長賞を受賞

＞ 第45回 食品産業優良企業等表彰 環境部門で「農林水産大臣賞」を受賞

＞【サステナビリティピックス】マヨネーズで発電?「もったいない」を価値あるものへ

野菜未利用部の有効活用

キューピーグループでは、サラダ・惣菜の加工時に生じる野菜の芯やへた、外葉や皮などの未利用部の有効活用に取り組んでいます。

葉物野菜の未利用部

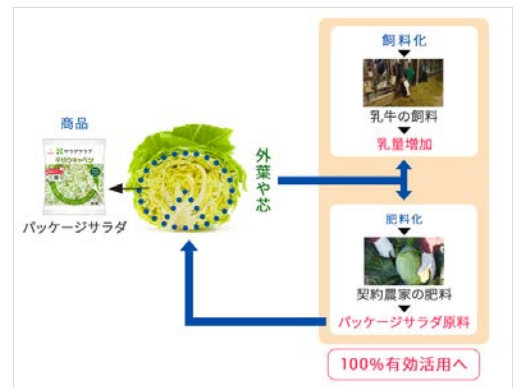
2017年度、カット野菜工場のグリーンメッセージでは、これまで事業規模では難しいとされたキャベツ・レタスの葉物野菜の飼料化に成功しました。東京農工大学とキューピーの共同研究※で、この飼料を与えた乳牛は乳量が増加することが報告されています。また、サラダクラブでは、パッケージサラダを製造する際に直営7工場で発生する野菜の外葉や芯などの未利用部を堆肥や飼料として契約農家などで活用いただいています。

※ 日本畜産学会第124回大会(2018年3月)発表

＞平成30年度リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰 キューピーグループが内閣総理大臣賞を受賞

＞第6回「食品産業もったいない大賞」キューピーグループが農林水産賞食料産業局長賞を受賞

＞サラダクラブ サステナビリティ [📄](#)



キャベツ未利用部の有効活用

じゃがいもの未利用部

ポテトデリカとデリア食品グループの旬菜デリ 昭島事業所では、ポテトサラダの製造工程で発生するじゃがいもの皮（ポテトピール）やトリミングくずの部分を、特殊な技術を活用して液状にして、養豚向けの飼料にしています。

この技術は、養豚業界の課題である国産の安全な飼料の生産や安定流通につながり、食品残さを使った循環型社会の構築にも貢献しています。

＞デリア食品 サステナビリティ [📄](#)

＞ポテトデリカ サステナビリティ [📄](#)



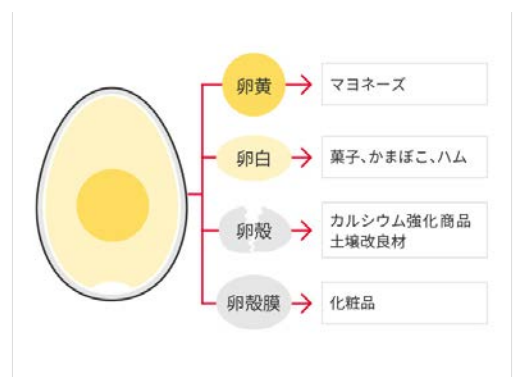
じゃがいも未利用部の有効活用

卵の100%有効活用

キューピーグループでは、マヨネーズ以外にもさまざまなタマゴ加工品を生産しており、日本で生産される卵の約10%を使用しています。

「キューピー マヨネーズ」は、卵黄を使用し、卵白はかまぼこなどの水産練り製品や、ケーキなどの菓子の食品原料として使われます。

また、年間約2万8千トン発生する卵殻は土壌改良材やカルシウム強化食品の添加材などに有効活用しています。卵殻膜は、化粧品などへの高度利用に取り組んでいます。



卵の有効活用

＞ 令和元年度リデュース・リユース・リサイクル推進
功労者等表彰キューピーグループが農林水産大臣
賞を受賞

＞ 第7回「食品産業もったいない大賞」キューピーグ
ループが農林水産賞食料産業局長賞を受賞

卵殻は米を強くし、ヒトの骨も強くする

東京農業大学 応用生物科学部 辻井良政教授、加藤拓教授と共同で、卵殻の肥料としての価値を研究しています。現在までに、水田に卵殻を施肥することで、猛暑などの天候不順による水稻への影響を低減し収穫量を改善すること、米の品位が向上することが分かってきました。米の作付面積は日本の耕地面積の中で最も大きい※ため、将来的には、キューピーグループだけでなく日本全体の卵殻の有効活用も期待できます。

また、ベトナムのハノイ国立栄養研究所との共同研究では、卵殻カルシウム(食用微細化卵殻粉、炭酸カルシウムを主成分とする生体素材)がヒトの骨量を増加させることを確認しました。卵殻は、高齢化で世界的に課題となる骨粗しょう症の解決に貢献できる素材です。現在ベトナムでは、卵殻カルシウムを配合した栄養強化食品の販売とあわせ学校や病院への啓発と提案を進め、子どもの体格向上と高齢者の骨粗しょう症への課題解決に取り組んでいます。

※ 農林水産省 平成30年農作物作付(栽培)延べ面積および耕地利用率 参照

メッセージ

卵殻の可能性を明らかにすることが今後の課題です

卵殻の主成分であるカルシウムは、植物の細胞一つ一つを頑健にするだけでなく、細胞内でさまざまな生理活性を持つと考えられています。その生理活性の一つとして、カルシウムは高温ストレス時に籾の中へとお米を充填する重要な役割を担っています。カルシウムを多量にふくむ卵殻は、地球規模で気候変動が生じる中、稲の夏バテを防いでおいしいお米を安定的に供給する農業資材として期待できます。



東京農業大学 応用生物科学部
農芸化学科 土壌肥料学研究室
教授 加藤 拓

卵殻膜の機能

キューピー独自の製法で卵殻と卵殻膜を分離することに成功しました。水に溶ける卵殻膜には、肌のハリのもととなるⅢ型コラーゲンを増やす働きがあることがわかり、1991年から化粧品原料として活用しています。

卵殻と食酢から生まれたカルシウム肥料

キューピー醸造では、卵殻を食酢に溶かしたカルシウム肥料「葉活酢(ようかつす)」を開発・販売しています。定期的に葉の表面に散布すると、カルシウム欠乏症を防ぐ効果があり、野菜や果物、花など植物が元気に育ちま

す。

食品由来の成分なので、人や環境にやさしく、安心してお使いいただける商品です。

[> お酢と卵でできた葉活酢 キューピー醸造](#) 

卵殻活用のあゆみ

1956年 卵殻を天日で干し、土壌改良材として農家に販売を開始

1969年 卵殻の破砕・乾燥設備を導入(旧仙川工場)

1981年 卵殻を食品用カルシウムとして発売(膜除去技術の確立により実現)

1991年 卵殻膜を加工、化粧品原料として発売

2007年 卵殻を建築材や日用雑貨(壁紙、タイヤなど)の原料として発売

2012年 卵殻を肥料として生産した米に関する研究を開始

2017年 ベトナムにて栄養強化食品として卵殻カルシウムソースを発売

2019年 卵殻に関する取り組みが「3R推進功労者等表彰」農林水産大臣賞を受賞

2020年 卵殻に関する取り組みが「食品産業もったいない大賞」農林水産省食料産業局長賞を受賞

2021年 「卵の有効活用」動画がサステナアワード2021にて「みどりの食料システム推進賞」を受賞

2024年 卵に関する取り組みが「食品産業新聞社主催 食品産業技術功労賞 サステナビリティ部門」を受賞

関連する取り組みを知る



野菜の研究

野菜についての研究を紹介します。

サステナビリティ

サステナビリティトップ	>
トップメッセージ	>
サステナビリティ マネジメント	+
資源の有効活用・循環	-
食品ロスの削減・有効活用	>
プラスチックの削減・再利用率	>
水資源の持続的利用	>
気候変動への対応	+
生物多様性の保全	+
食と健康への貢献	+
持続可能な調達	+
人権の尊重	+
ガバナンス	+
安全・安心	+
開示方針	>
各種報告書	>
対照表	>
ESGデータ集	>
各種方針	>
イニシアチブ・加盟団体	>
社会・環境活動の歴史	>
キューピーグループ オフィシャルブログ	>

プラスチックの削減・再利用

- プラスチック削減・再利用の考え方
- キューピーグループ プラスチック方針
- 容器包装設計でのプラスチック削減
- 製造・流通でのプラスチック削減
- 協働による資源循環に向けた取り組み

プラスチック削減・再利用の考え方

キューピーグループは、食品の容器包装などにプラスチックを使用しています。プラスチックは、軽くて壊れにくいという利点がありますが、海洋プラスチックごみをはじめ、地球環境への影響が指摘されています。キューピーグループでは、プラスチックごみが生態系や環境に大きな影響を及ぼす重要な課題と認識し、石油由来のバージンプラスチック使用量削減、および資源循環に向けた取り組みを進めています。

- > 環境省 プラスチック・スマートキャンペーンに参加
- > CLOMA(クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス)に参加

キューピーグループ プラスチック方針

キューピーグループでは、「キューピーグループ プラスチック方針」を策定し、事業活動で使用するプラスチックの削減などの取り組みを加速させ、循環型社会の構築に貢献することをめざして取り組みを推進します。

キューピーグループ プラスチック方針

3R+Renewableを実施し、持続可能な循環型社会の実現に貢献します。

- ・ 開発段階から環境配慮設計を行います。
- ・ バリューチェーン全体で協力し推進します。

2019年制定、2022年改訂

今後推進していく主な取り組み

- ・ 軽量化を主体としたプラスチック使用量のさらなる削減
- ・ 再生プラスチック、およびバイオマスプラスチックの導入
- ・ 分別しやすい容器包装設計
- ・ プラスチックの回収・再生を推進する業界の取り組みに参加



ドレッシング容器の
軽量化



再生プラスチックを
含む容器を採用

容器包装設計でのプラスチック削減

商品の容器包装は、商品の品質やおいしさを保つためには欠かせないものですが、生産する際にエネルギーを消費し、使用後は廃棄物となります。
「キューピーグループ 容器包装選定の基本方針」のもと容器包装の軽量化・簡素化やバイオマス素材、再生材などの開発を進め、環境負荷が少ない包材の採用を推進しています。

 [キューピーグループ 容器包装選定の基本方針\(152KB\)](#)

容器包装の軽量化・簡略化

開始時期	対象	内容
2024年2月	業務用商品 ほしえぬパスタソースパキッテシリーズ	容器サイズ変更によりプラスチック使用量25%削減
2023年7月	業務用商品 ニューエグスター	ボトルのプラスチック使用量を削減しすることで軽量化
2023年1月	業務用商品 キューピー、ほしえぬブランド1000ml・500mlボトル容器入り商品	軽量化によりキャップのプラスチック使用量を約9%削減
2022年9月	キューピー あえるパスタソースシリーズソースタイプ	個装サイズをスリム化し、プラスチック使用量を約7%削減
2022年8月	ヴェルデ トーストスプレッドシリーズ	容器のラミネートチューブに使用している素材の厚みを薄くすることで、プラスチック使用量を約10.9%削減（2023年シリーズすべてに採用）
2022年3月	キューピー ベビーおやつ 野菜入り ソフトおせんべい	外装・個包装・トレーの資材を変更し、プラスチック使用量を35%削減。さらに材質を単一素材に変えることで、リサイクルのしやすさにも配慮
2022年2月	ヴェルデ ホイップシリーズ	容器薄肉化によりプラスチック使用量を約9.3%削減
2022年2月	サラダクラブ パッケージフィルム	パッケージサラダに使用するフィルムの寸法の縮小化や薄肉化などの規

		格変更
2022年1月	サラダクラブ パッケージサラダトレー	パッケージサラダに使用するトレーを、従来品と比較して、約10%軽量化
2021年3月	キューピー すまいるカップシリーズ、キューピー やさしい献立	上部に付いていた外蓋をなくすことで、使用するプラスチック量を削減
2021年3月	キューピー ベビーおやつ たまごたっぷりぼうろ	外装、内装でのプラスチック使用量を約25%削減

環境負荷の少ない包材	—
------------	---

開始時期	対象	内容
2024年7月	市販用ドレッシング類の180mlサイズ	再生プラスチックを30%使用したボトルを採用
2024年2月	キューピー あえるパスタソースシリーズ	外袋を紙パッケージに変更
2024年2月	キューピー 3分クッキング 野菜をたべよう!スープの素	外袋を紙パッケージに変更
2023年7月	キューピー テイस्टィドレッシング、機能性表示食品ドレッシング	再生プラスチックを100%使用したボトルを採用(国内調味料初:キューピー調べ)
2023年5月	ヴェルデ パッケージシリーズ	容器の一部(内容物が入っている部分)にバイオマスプラスチックを配合することで、石油由来プラスチック使用量を40%削減
2021年6月	キューピー テイस्टィドレッシング	再生プラスチック※30%を含むボトルを採用 ※主に清涼飲料水用のペットボトルを回収後に粉碎、洗浄した後、高温下で一定時間処理し、汚染物質を除去することで高品質にする方法「メカニカルリサイクル(物理的再生法)」で再生したプラスチック
2020年8月	サラダクラブ 素材パウチシリーズ	植物由来のプラスチック※を一部に使ったパウチを、全19品のうち12品で採用 (2022年シリーズすべてに採用) ※植物由来のプラスチック:再生可能な有機資源(サトウキビの副産物などの植物)を原料に使用したバイオマスプラスチック
2020年2月	キューピー ドレッシング スティックタイプ	外装に再生プラスチックを約15%使用

製造・流通でのプラスチック削減

キューピーグループでは、商品容器包装でのプラスチック削減以外にも、調達から製造、流通、消費に至るまでのバリューチェーン全体で排出されているプラスチックの削減に向けた取り組みを行っています。

商品流通容器のリサイクル

液卵用プラスチック容器

キューピータマゴでは、液卵などの卵製品を入れるプラスチック容器をリサイクルし、リサイクルした再生品を使用する取り組み※を行っています。今まで廃棄していたプラスチック容器がリサイクルされることで、廃プラスチックの削減につながっています。

※ 2020年より開始

＜キューピータマゴ サステナビリティ＞



左：リサイクル品 右：既存品

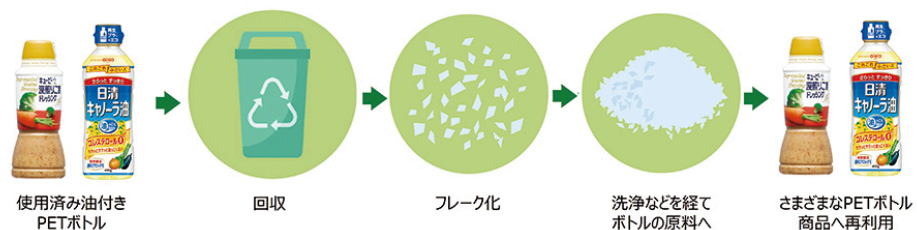
協働による資源循環に向けた取り組み

油付きPETボトル（ドレッシングボトルなど）

キューピーは、日清オイリオグループ株式会社とドレッシングや食用油に使用されるPETボトルの資源循環に向けて協働を開始しました。

油が付着したPETボトルは、リサイクルの洗浄工程で油が残り、再生PETの品質に影響を与えることが懸念されており、リサイクルの仕組みが社会的に実装されていません。油を使用した商品を取り扱う企業同士が協業することで油を使用した商品のPETボトルが資源循環できる社会をめざします。

2024年度は、両社の知見を生かした技術の確立と技術検証を進めるための効率的なサンプル収集のため、千葉市内のイオン・イオンスタイル8店舗で、使用済み油付きPETボトルの回収実証実験を実施しました。



使用済み油付きPETボトル循環のイメージ

マヨネーズボトル

キューピーは、味の素株式会社と両社が参画する海洋プラスチックごみ問題の解決に向けて官民連携で取り組む、業種を越えたプラットフォーム CLOMA（クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス）の活動として、マヨネーズボトルの資源循環に向けた協働を開始しました。

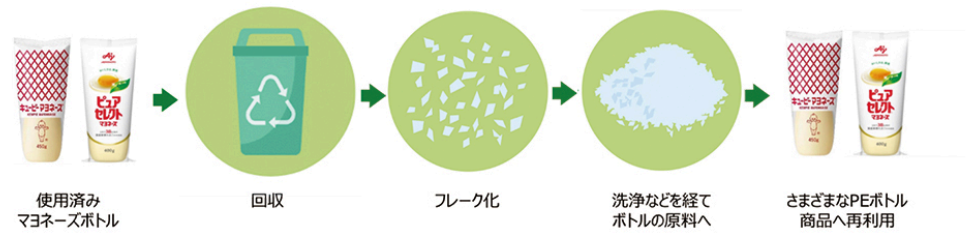
国内のマヨネーズボトルには、主にポリエチレン（PE）というプラスチック素材が使用されています。PEは食品包装に多く使用されていますが、素材の種類や他素材と複合しているものが多いことから、飲料PETボトルに代表されるような水平リサイクル※1の仕組みが社会的に実装されていません。

また、マテリアルリサイクル※2による水平リサイクルを実現するためには、マヨネーズボトルと同じ素材のプラスチックを回収し、きれいに洗浄した上で、リサイクルすることが重要になります。これらの課題に対して企業の枠を超えて協働することで、マヨネーズボトルを資源循環できる社会をめざします。

2024年度は、川崎市内のイトーヨーカドー1店舗で使用済みマヨネーズボトルの回収実証実験を実施しました。

※1 水平リサイクルとは、限りある資源を有効に使用するため、使用済み商品の容器・包装を原料として循環させ、再び同じ種類の商品容器・包装を製造することです。

※2 マテリアルリサイクルとは、リサイクル手法の一つで、廃棄物をその性質を変えずに、原料として再利用する方法です。



マヨネーズボトル循環のイメージ

サステナビリティ

サステナビリティトップ >

トップメッセージ >

サステナビリティ
マネジメント +

資源の有効活用・循環 -

食品ロスの削減・有効
活用 >

プラスチックの削減・
再利用 >

水資源の持続的利用 >

気候変動への対応 +

生物多様性の保全 +

食と健康への貢献 +

持続可能な調達 +

人権の尊重 +

ガバナンス +

安全・安心 +

開示方針 >

各種報告書 >

対照表 >

ESGデータ集 >

各種方針 >

イニシアチブ・加盟団体 >

社会・環境活動の歴史 >

キューピーグループ
オフィシャルブログ >

水資源の持続的利用

水資源の持続的利用の考え方 ▼

水リスク・水ストレスの評価 ▼

水資源の効率的活用 ▼

節水の取り組み ▼

水資源の持続的利用の考え方

水は、人々の生活やさまざまな産業にとって欠くことのできない貴重な資源です。

キューピーグループでは、商品の原料になる農作物や生産工程における洗浄・冷却などに多くの水を使っています。

事業を継続するために、水は限りある貴重な資源と認識し、効率的な利用と取水・排水における環境負荷の低減に取り組めます。

> 環境省 ウォータープロジェクトに参加

水リスク・水ストレスの評価

キューピーグループにおける水リスクについて、事業運営への影響を確認するため、世界資源研究所(World Resources Institute)のAqeductを用いて水ストレス(水需要の逼迫の程度)を評価しています。

国内における洪水・高潮による浸水リスクはハザードマップ、海外における洪水・高潮による浸水リスクはAqeductを通じて評価しています。

	事業所数	洪水リスク	高潮リスク	水ストレス
日本	68	26	4	0
中国	4	1	2	1
アジア	4	2	1	1
米国・欧州	2	0	0	1

ハザードマップ調べ Aqeduct調べ

水資源の効率的活用

キューピーグループでは、製造方法の見直しや工程の改善を行い、効率的な水利用を促進し、水使用量の削減に取り組んでいます。

2024年度のキューピーグループ工場の水使用量は、総量7,012千 m^3 でした。

生産量1トン当たりの水使用量（原単位）は10.0 m^3 となりました。

＞ ESGデータ集



節水の取り組み

キューピーグループは、人と環境にやさしい工場づくりの一環として、排水の高度処理システムを導入し、節水に取り組んでいます。

高度処理水の利用

デリア食品グループでは、生産工程での節水活動として、水使用量の見える化やデータ化を行い、現状把握、要因分析、対策により水使用量を最小限にする取り組みを行っています。

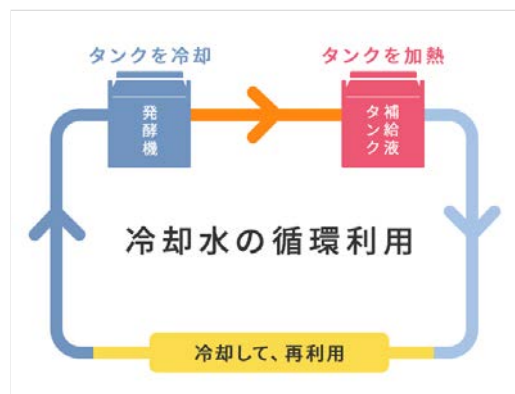
さらに旬菜デリ昭島事業所では、生産ラインからの排水の再利用を行うため、膜処理（RO）技術を活用した設備を導入し、排水から平均160トン/日の純水を再生して、加工場内トイレのほかに、樹木への散水、床の洗浄、屋根散水、空調設備の室外機冷却などに使用しています。



逆浸透膜（RO）ろ過装置

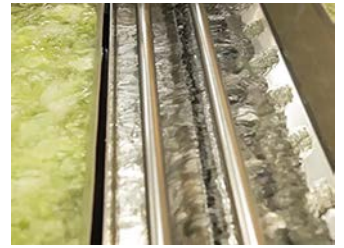
冷却水の有効活用

キューピー醸造では、ビネガー生産時に使用した冷却水をそのまま工場外部へ排出せず、別途温度帯の冷却水として使用することで冷却水の使用量削減を行っています。



過剰給水の抑制

サラダクラブでは、カット野菜の洗浄などで使用する水を常時給水から必要時給水に変更し、さらに過剰給水を抑制するなど管理を徹底することで使用量の削減を行っています。



サステナビリティ

サステナビリティトップ >

トップメッセージ >

サステナビリティ
マネジメント +

資源の有効活用・循環 +

気候変動への対応 -

CO₂排出量の削減 >

生物多様性の保全 +

食と健康への貢献 +

持続可能な調達 +

人権の尊重 +

ガバナンス +

安全・安心 +

開示方針 >

各種報告書 >

対照表 >

ESGデータ集 >

各種方針 >

イニシアチブ・加盟団体 >

社会・環境活動の歴史 >

キューピーグループ
オフィシャルブログ >

グループ各社の
サステナビリティ活動 >

気候変動への対応

気候変動に関するパリ協定が2015年に採択され、脱炭素社会の実現に向けて、企業は、より責任ある行動が求められるようになりました。

キューピーグループでは、原料調達から、商品の使用・廃棄まで、サプライチェーン全体を通じたCO₂排出削減を実現します。



サステナビリティ目標

重点課題	取り組みテーマ	指標	2030年度目標
気候変動への対応	CO ₂ 排出量の削減	CO ₂ 排出量削減率 (2013年度比)	50%以上



CO₂排出量の削減

調達、生産、物流、販売、オフィスの各段階で省エネルギーやエネルギー転換に積極的に取り組んでいます。

サステナビリティ

サステナビリティトップ	>
トップメッセージ	>
サステナビリティ マネジメント	+
資源の有効活用・循環	+
気候変動への対応	-
CO2排出量の削減	>
生物多様性の保全	+
食と健康への貢献	+
持続可能な調達	+
人権の尊重	+
ガバナンス	+
安全・安心	+
開示方針	>
各種報告書	>
対照表	>
ESGデータ集	>
各種方針	>
イニシアチブ・加盟団体	>
社会・環境活動の歴史	>
キューピーグループ オフィシャルブログ	>
グループ各社の サステナビリティ活動	>

CO2排出量の削減

- CO2排出量削減に向けた考え方
- TCFDへの取り組み
- 生産における取り組み
- 物流における取り組み
- オフィスにおける取り組み

CO2排出量削減に向けた考え方

キューピーグループでは気候変動の原因となるCO2排出量削減のため、調達、生産、物流、販売、オフィスのバリューチェーン全体において、省エネルギーやエネルギー転換など積極的に取り組んでいます。

キューピーグループのサステナビリティに向けての重点課題「気候変動への対応」への取り組みとして、国内グループでCO2排出量削減目標を設定して、気候変動への対応をさらに推進していきます。

CO2排出量の削減

キューピーグループは、サプライチェーン全体でのCO2排出量の算定を進め、さらなるCO2排出削減のため取り組みを推進しています。

グループ全体で製造工程の効率改善、省エネ設備の導入など従来の取り組みに加え、脱炭素社会に向けた製法・工程の変革、再生可能エネルギーの導入を推進しています。

> 重点課題と推進体制

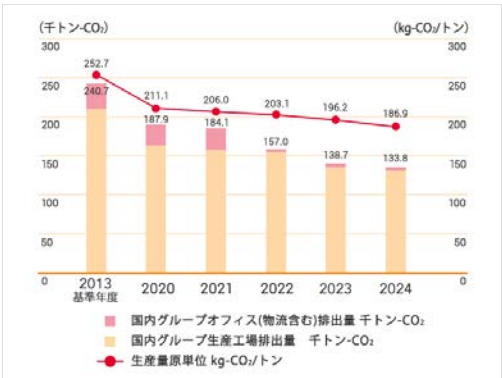
再生可能エネルギーの活用

キューピーグループは、国内外で再生可能エネルギーの導入を順次進めています。

2024年度は、新たに国内事業所1拠点で太陽光パネルを設置しました。これにより国内事業所18拠点、海外事業所6拠点で再生可能エネルギーへの転換をはかり、CO2排出量削減の取り組みを進めています。

今回、サラダクラブ三原工場に384枚の太陽光パネルを設置したことで、同工場の総電気使用量の約10%を太陽光発電でまかなうことが可能になり、CO2排出量年間約113.5トンの削減に貢献しました。

CO2排出量



設置状況	
発電開始時期	拠点名
2025年 1月	サラダクラブ・ケイバック五霞工場

2024年 8月	サラダクラブ 三原工場
2023年 8月	コープ食品 東北工場
2023年 6月	キューピータマゴ 尾張工場
2023年 5月	キューピーマレーシア
2023年 5月	広州丘比
2023年 3月	サラダクラブ 遠州工場(第2期)
2023年 3月	キューピータマゴ 三田工場
2023年 1月	南通丘比
2022年 8月	キタカミデリカ(オンサイトPPAモデル)
2022年 3月	北京丘比
2022年 1月	キューピー 神戸工場(オンサイトPPAモデル)
2021年12月	キューピーベトナム
2021年 2月	キューピータマゴ 飯能工場
2021年 2月	旬菜デリ 青梅工場
2020年 4月	旬菜デリ 昭島工場
2020年 2月	キューピータイランド(第2期)
2018年 4月	キューピータイランド(第1期)
2017年 3月	グリーンファクトリーセンター白河※(第2期)
2016年12月	キューピー 五霞工場
2016年 2月	サラダクラブ 遠州工場(第1期)
2015年 9月	キューピー 富士吉田工場
2015年 1月	グリーンファクトリーセンター白河※(第1期)
2014年 4月	キューピー醸造 滋賀工場
2013年10月	仙川キューポート
2013年 4月	ケイパック 本社工場
2012年 3月	キューピー ファインケミカル本部五霞工場

※ 富士吉田キューピーは、2021年事業譲渡、グリーンファクトリーセンター白河は、2023年事業撤退しました。その敷地内にキューピーが設置した太陽光パネルは、現在もキューピーが保有管理を継続しています。



サラダクラブ 三原工場に設置した太陽光パネル

TCFDへの取り組み

キューピーグループの事業は、自然の恵みに強く依存しているため、原材料の収量の減少や品質の低下など、気候変動によるさまざまな影響を受ける可能性があります。今後の気候変動に関連する事象を、経営リスクとして捉えて対応すると同時に、新たな機会も見いだし、企業戦略へ生かしていきます。

キューピーグループは、「TCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）※1」へ賛同し、これに賛同する企業や金融機関などが連携する場としての、「TCFDコンソーシアム※2」に参画しました。

キューピーグループ内で「TCFDプロジェクト」を発足し、2021年からTCFDに取り組んでいます。



※1 G20からの要請を受け、金融安定理事会（FSB）が2015年に設立。気候変動によるリスクおよび機会が経営に与える財務的影響を評価し、ガバナンス、戦略、リスク管理、指標と目標について開示することを推奨しています。

[> TCFD ウェブサイト](#)

※2 企業の効果的な情報開示や、開示された情報を金融機関などの適切な投資判断につなげる取り組みについて議論する場として、2019年に設立。TCFD提言に賛同する企業や金融機関などが取り組みを推進しています。

[> TCFD コンソーシアムウェブサイト](#)

TCFD分析計画

年度	対象範囲	報告書
2024年度	マヨネーズ・ドレッシング・タマゴ・カット野菜・惣菜（ポテトサラダ）	2024年度TCFD報告 (971KB)
2023年度	マヨネーズ・ドレッシング・タマゴ・カット野菜	2023年度TCFD報告 (572KB)
2022年度	マヨネーズ・ドレッシング・タマゴ（液卵・加工品）	2022年度TCFD報告 (497KB)
2021年度	マヨネーズ・ごまドレッシング	2021年度TCFD報告 (566KB)

生産における取り組み

生産部門のCO₂排出削減

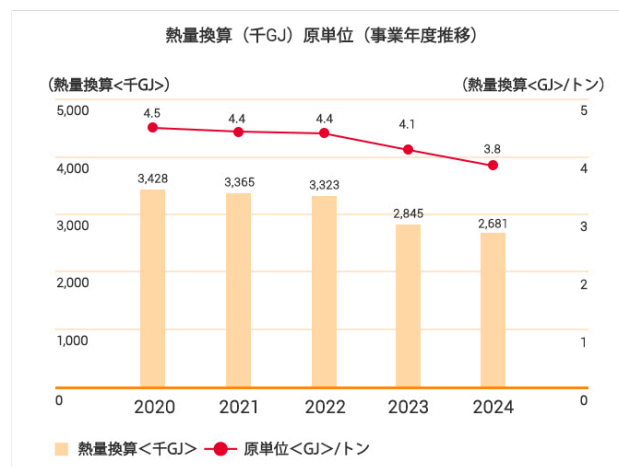
キューピーグループでは、製造工程での効率改善、設備の導入などによる省エネルギーを基本として、A重油から都市ガス・天然ガスへの燃料転換、コジェネレーション(熱電併給)や太陽光発電の利用を進めています。また、グループ事業所での優れた取り組み事例を共有・展開することによってCO₂排出削減に努めています。

生産部門の省エネルギーの推進

キューピーグループでは、生産事業所の各工程にエネルギー測定装置を設置するなど「エネルギー使用の見える化」を進め、設備運用改善・メンテナンスの徹底、省エネ型機器を導入し省エネルギー化を推進しています。

生産部門の省エネルギー削減目標

エネルギー使用量 前年対比1%以上の削減



対象:キューピーグループ生産工場

使用量・原単位の減少の主な原因は、調味料事業の工場再編による効率生産とタマゴ事業の事業再編による効率生産および各事業での計画的な省エネ型の設備更新によります。

自然冷媒冷凍機の活用

キューピーグループでは、省エネ設備の導入と設備の運用最適化に取り組んでいます。冷凍機更新において、自然冷媒機を導入することにより、CO₂削減と脱フロンを実現しています。



設置状況



設置時期	拠点名
2024年	キューピータマゴ 筑波工場
2023年	キューピータマゴ 尾張工場 キューピータマゴ 筑波工場
2021年	キューピータマゴ 尾張工場
2020年	キューピータマゴ 伊丹工場
2018年	キューピー 中河原工場
2015年	キューピータマゴ 筑波工場

物流における取り組み

キューピーグループでは、お取引先やグループ会社と連携し、原料輸送から商品配送にいたるまで、すべての輸配送で環境負荷低減に取り組んでいます。

輸配送距離の短縮化と積載効率向上による輸配送効率化、低燃費で安全にもつながるエコドライブなどを実施しています。加えて、長距離トラック輸送の鉄道や船舶への切替（モーダルシフト）を推進して、CO₂排出削減を実現しています。

輸配送によるCO₂排出量

		2023年度	2024年度	前年度比
キューピー 販賣商品	輸配送量(千トンキロ)	124,914	121,802	-2.5%
	CO ₂ 排出量(千トン)	20.2	19.9	-1.5%

モーダルシフトの推進

専用31フィートコンテナ10基(うち冷凍コンテナ4基)を導入し、輸送事業者と連携してモーダルシフト^{※1}を推進しています。

キューピーは、商品を輸送する時に貨物鉄道を一定割合以上利用している企業として、2019年7月に「エコレールマーク」認定をされました。

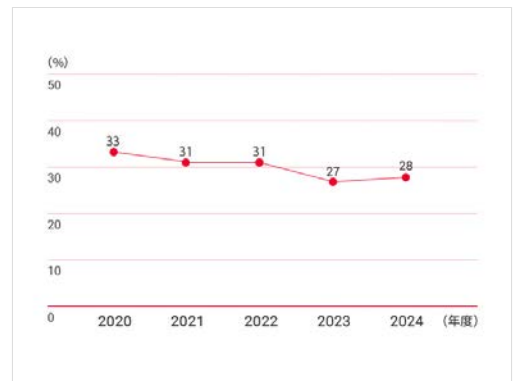
※1 モーダルシフト:500km以上の長距離トラック輸送を鉄道・船舶でのコンテナ輸送へ転換すること

＜国土交通省「エコレールマーク」のご案内＞





鉄道・船舶積載用31フィートコンテナを10基導入し、輸送事業者と連携してモーダルシフトを進めています



モーダルシフト化率の推移

※ モーダルシフト化率:500km以上の輸送トン数に対し、鉄道や船舶による輸送トン数の比率

異業種での共同輸送の取り組み

キューピーは、2018年からトイレタリー業界のライオン株式会社、レンタルパレット業界の日本パレットレンタル株式会社と一緒に共同輸送を実施しています。3社の荷物を載せることで、トラックが空での移動を1%未満に抑えることができました。

加えて、一部区間をトラックから船に切り替えるモーダルシフトを行うことでさらにCO₂削減の効果を高めています。

オフィスにおける取り組み

2022年2月より国内3カ所に設置した太陽光パネルで発電された環境価値(トラッキング付FIT非化石証書[※])付きの電力を、東京電力エナジーパートナー株式会社を通して日本卸電力取引所から調達し、渋谷本社と仙川キューポートの使用電力へと振り替え実質再生可能エネルギー由来へ100%切り替えました。

※ 非化石電源により発電された電気が持つ「非化石電源由来であることの価値」を証書化したものです。小売電気事業者が非化石価値取引市場で調達して、需要家に販売する電気に活用することで温室効果ガス排出量の削減が認められています。

渋谷オフィスでの取り組み

キューピーグループの渋谷オフィス(渋谷董友ビル)は、ビル全体を2重のガラスが覆い(ダブルスキン)、ガラス間を自然換気することで高い断熱性を実現しています。また、高効率空調機やLED照明といった省エネ設備も導入しています。

これらの環境設計により、建築総合環境評価システム「CASBEE」の総合評価Aランクに認定されています。また、グリーンファイナンス促進利子補給金交付決定事業[※]に採用されています。



2重ガラスが覆う(ダブルスキン)外観

※グリーンファイナンス促進利子補給金交付決定事業：環境省が公募した、地球温暖化対策のための設備投資の事業に係る融資に対する利子の一部を補給する対象となる事業。

仙川キューポートでの取り組み

仙川キューポートでは、吹き抜けを活用した自然換気システム、コジェネレーションシステム、太陽光発電、LED照明などを導入しています。省エネ設計性能を最大化するため、設備メーカーとの連携を深めるとともに、仙川キューポートに勤務する多くの社員に聞き取りなどを行うことで、運用精度の向上を図っています。

さらに、東京ガスエンジニアリングソリューションズ株式会社との協働により、クラウドサーバー上のAIを利用して、気象予報データと空調器（冷凍機、ヒートポンプ、ガスボイラー、コージェネレーション発電）の稼働状況などに基づく最適化運転パターン分析を実現、運用を検証し、運転の自動化に向けて、さらなる取り組みを進めています。



自然換気システム

サステナビリティ

サステナビリティトップ >

トップメッセージ >

サステナビリティ
マネジメント +

資源の有効活用・循環 +

気候変動への対応 +

生物多様性の保全 -

生物多様性の保全活動 >

食と健康への貢献 +

持続可能な調達 +

人権の尊重 +

ガバナンス +

安全・安心 +

開示方針 >

各種報告書 >

対照表 >

ESGデータ集 >

各種方針 >

イニシアチブ・加盟団体 >

社会・環境活動の歴史 >

キューピーグループ
オフィシャルブログ >

グループ各社の
サステナビリティ活動 >

生物多様性の保全

経済活動に伴い、森林伐採による生息地の破壊、環境汚染など生物多様性の損失が急速に進行し危機的状況にあります。

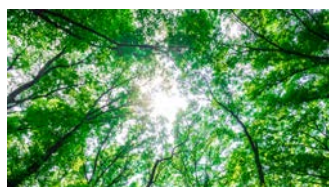
キューピーグループの事業活動は、豊かな自然環境と密接な関わりを持っているため、生物多様性の損失は重大な課題であると認識しています。

「良い商品は良い原料からしか生まれない」という考えを大切に、原料を生み出す自然の恵みに感謝し、生物多様性の負の影響を最小限に抑え、環境保全と生態系の回復・再生に努めネイチャー・ポジティブをめざします。



サステナビリティ目標

重点課題	取り組みテーマ	指標	2030年度目標
生物多様性の保全	生物多様性の保全	持続可能な紙の調達率	2025年度までに100%（容器包材、印刷冊子、販促物、事務用品）



生物多様性の保全活動

原料を生み出す自然の恵みに感謝し、豊かな自然と生物多様性の保全に努めています。

サステナビリティ

サステナビリティトップ	>
トップメッセージ	>
サステナビリティ マネジメント	+
資源の有効活用・循環	+
気候変動への対応	+
生物多様性の保全	-
生物多様性の保全活動	>
食と健康への貢献	+
持続可能な調達	+
人権の尊重	+
ガバナンス	+
安全・安心	+
開示方針	>
各種報告書	>
対照表	>
ESGデータ集	>
各種方針	>
イニシアチブ・加盟団体	>
社会・環境活動の歴史	>
キューピーグループ オフィシャルブログ	>
グループ各社の サステナビリティ活動	>

生物多様性の保全活動

生物多様性保全の考え方 ● キューピーグループ 生物多様性方針 ● TNFDへの取り組み ●

調達における生物多様性保全への配慮 ● キューピーグループの環境保全活動 ●

生物多様性保全の考え方

キューピーグループの事業活動は、豊かな自然環境と密接な関わりを持っています。私たちは、「良い商品は良い原料からしか生まれない」という考えを大切に、原料を生み出す自然の恵みに感謝し、豊かな自然と生物多様性の保全に努め、持続可能な社会を次世代につないでいきます。

> [経団連生物多様性宣言イニシアチブに参画](#)

キューピーグループ 生物多様性方針

キューピーグループ 生物多様性方針

キューピーグループは原材料を生み出す豊かな自然に感謝し、生物多様性の保全と生態系の回復、再生に努めネイチャー・ポジティブをめざします。

1. 生物多様性への依存と影響をバリューチェーン全体で把握します。
2. 把握した依存と影響を経営判断に生かし、情報の開示に努めます。
3. 生物多様性への負の影響を最小限に抑え、同時に生態系を回復、再生する活動を積極的に行います。
4. ステークホルダーの皆様との対話と協働により、バリューチェーン全体で生物多様性保全の取り組みを推進します。

2022年11月制定

TNFDへの取り組み

キューピーグループの事業活動は、原料を生み出す自然の恵みに強く依存しています。そのため自然環境に与える影響を把握すると同時に、生物多様性・水資源・気候変動などの深く関連する課題を包括的に対応していくことが重要であると考えています。

キューピーグループは、2024年4月に「TNFD（自然関連財務情報タスクフォース）※1」に賛同し、TNFDフォーラム※2へ参画しました。さらに、課題に対応すると同時に、新たな機会も見いだし、企業戦略にも生かしていくためのプロジェクトを発足しました。



TNFDフレームワークのLEAPアプローチ^{※3}を活用して、キューピーグループの主要な原料と直接操業(生産拠点)を対象に分析を行っています。

※1 TCFD(気候関連財務情報開示タスクフォース)に続く枠組みとして設立され、自然資本と生物多様性に関するリスクや機会を評価するタスクフォースです。金融機関や企業に情報開示を促し、資金の流れをネイチャーポジティブに転換することをめざし、自然関連リスクに関する情報開示フレームワークの構築を推進しています。

[> TNFDウェブサイト](#)

※2 賛同企業が自然資本に関してリスク管理と開示の枠組を構築するために設立された国際組織です。

[> TNFDフォーラムウェブサイト](#)

※3 事業が行われる地域やバイオーム(生物群系)に着目しながら、自然関連のリスクと機会を管理するための統合的な評価プロセスのことです。「LEAP」とは、Locate(発見)、Evaluate(診断)、Assess(評価)、Prepare(準備)の4つのフェーズから成り立ちます。

TNFD分析計画

年度	対象範囲	報告書
2024年度	マヨネーズ・ごまドレッシング	2024年度TNFD報告(2.24MB)

調達における生物多様性保全への配慮

「キューピーグループの持続可能な調達のための基本方針」を2018年に策定し、環境や人権に配慮した調達を推進しています。

[> 持続可能な調達の推進](#)

紙

キューピーグループは紙調達に関して、環境問題と人権などの社会問題に配慮した調達を行います。2023年12月にキューピーグループ 紙調達ガイドラインを策定し、基準・目標を設定し取り組みを推進します。

[2023年12月 紙調達ガイドライン\(217KB\)](#)

[> サステナビリティ目標](#)

パーム油

2018年にRSPO[※]へ加盟し持続可能なパーム油の調達に取り組んでいます。

※ RSPO: 持続可能なパーム油のための円卓会議

[> ESGデータ集](#)

キューピーグループの環境保全活動

「生物多様性保全の考え方」のもと、キューピーグループでは、富士北麓にある森林「キューピーの森」での植林活動や霧多布湿原における保全活動など、長年にわたり環境保全活動を行ってきました。

キューピーグループの事業活動が自然環境に与える影響を把握し、活動を見直し、持続可能な社会を次世代につなげるため、キューピーグループならではの活動を推進していきます。

SHIBUYA Urban Farming Project

キューピーは一般社団法人渋谷未来デザインとともに、都市の緑地化と生物多様性を促進しながら、渋谷らしいコミュニティ形成と新たな食文化を実現する「SHIBUYA Urban Farming Project」を2024年6月に設立しました。

アーバンファーマーミングを軸としたコンソーシアムとなっていて、キューピーグループの強みを生かしながら、参画企業と共にネイチャーポジティブに向けた取り組みを推進していきます。

[> SHIBUYA Urban Farming Projectウェブサイト](#) 



サステナビリティ

サステナビリティトップ >

トップメッセージ >

サステナビリティ
マネジメント +

資源の有効活用・循環 +

気候変動への対応 +

生物多様性の保全 +

食と健康への貢献 -

健康寿命延伸への貢献 >

子どもの心と体の健康
支援 >

ユニバーサルデザイン
への取り組み >

社会貢献活動 >

持続可能な調達 +

人権の尊重 +

ガバナンス +

安全・安心 +

開示方針 >

各種報告書 >

対照表 >

ESGデータ集 >

各種方針 >

イニシアチブ・加盟団体 >

社会・環境活動の歴史 >

キューピーグループ
オフィシャルブログ >

食と健康への貢献

キューピーグループは、人々の生活になくてはならない食に携わる企業として、健康で豊かな暮らしの実現に貢献していきたいと考えています。この想いのもと、「食と健康への貢献」を重点課題として掲げ、健康寿命延伸への貢献と子どもの心と体の健康支援に積極的に取り組んでいます。

グループの強みであるサラダとたまごを中心に、国内外のお客様に寄り添った商品やサービスを提供し、健康な食生活を支援することで、一人ひとりのウェルビーイングに貢献します。

さらに、より良い社会の実現のため、「長く継続できること」「多くの方の役に立つこと」「地域に根ざすこと」を柱として、社会貢献活動にも取り組んでいます。

> 食と健康への貢献



サステナビリティ目標

重点課題	取り組みテーマ	指標	2030年度目標
食と健康への 貢献	健康寿命延伸への 貢献	お客様の健康な食生活に貢献するため、サラダの喫食機会向上、たまごの付加価値化を中心に取り組みを推進	
	子どもの心と体の 健康支援	私たちの活動で創る子どもの笑顔の数(2019年度からの累計)	100万人以上



健康寿命延伸への貢献

それぞれの世代の食と健康に貢献するための取り組みや、商品を通して特定の条件をもったお客様への配慮を行っています。



子どもの心と体の健康支援

食を中心としたさまざまな活動により未来を創る子どもたちに栄養面だけでなく食の大切さ楽しさを伝えています。



ユニバーサルデザインへの取り組み

できるだけ多くの方にお使いいただけるよう、ユニバーサルデザインの取り組みを行っています。



社会貢献活動

地域社会・国際社会の一員として、
地域に根付いた継続的な地域貢献
活動の実施や、歌やダンスなどの
文化を通じた活動を応援していま
す。

キューピー 食生活アカデミー

キューピーでは、おいしいごはんのレシピやお料理の楽しさ、環境や未来につながる食生活など、食とそれにまつわる生活について、読み物やレシピ、クイズで楽しく学べるサイトをご用意しています。

キューピー 食生活アカデミー



サステナビリティ

サステナビリティトップ >

トップメッセージ >

サステナビリティ
マネジメント +

資源の有効活用・循環 +

気候変動への対応 +

生物多様性の保全 +

食と健康への貢献 -

健康寿命延伸への貢献 >

子どもの心と体の健康
支援 >

ユニバーサルデザイン
への取り組み >

社会貢献活動 >

持続可能な調達 +

人権の尊重 +

ガバナンス +

安全・安心 +

開示方針 >

各種報告書 >

対照表 >

ESGデータ集 >

各種方針 >

イニシアチブ・加盟団体 >

社会・環境活動の歴史 >

キューピーグループ
オフィシャルブログ >

健康寿命延伸への貢献

健康寿命延伸の考え方

サラダの喫食数向上の取り組み

タマゴの付加価値化

健康寿命延伸に向けた協働・研究

健康を支える食生活サポート

ウェルネス領域への挑戦

健康寿命延伸の考え方

健康寿命延伸とは、健康上の問題で日常生活に制限のない期間を指します。

生涯健康でいきいきとした生活を送るためには、「栄養」「身体活動」「社会参加」の3つの柱を意識してバランスよく取り入れることが大切です。

これらは全世代に共通する重要なポイントです。日々の生活サイクルにこれらを複数組み込むことが、健康な生活の実現につながります。

近年、食と健康に関する課題は多様化しており、日本では健康寿命の延伸が重要課題となっています。メタボリックシンドローム予防、フレイル対策、認知症リスク低減、免疫強化など、生涯健康でいるための取り組みが注目を集めています。

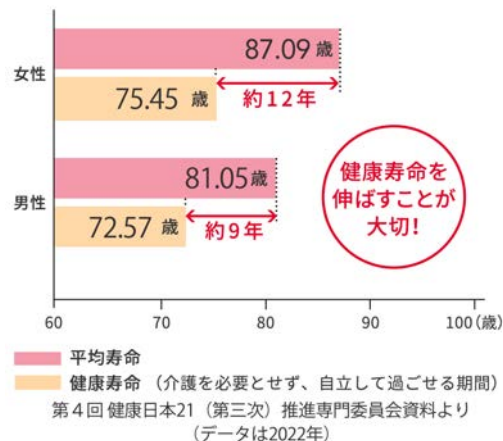
キューピーグループは、ライフステージに合わせ長期的に一人ひとりの健康を支える食生活をサポートし、人々の生活の質を向上させる取り組みを推進することで、健康寿命の延伸に貢献していきます。

キューピーグループはサラダとタマゴで
一人ひとりの健康を応援します



東京大学高齢社会総合研究機構
教授 飯島勝矢 提唱

平均寿命と健康寿命のギャップ



キューピーグループが
取り組む健康課題

メタボ

フレイル

免疫

認知症

食と健康への貢献

サラダの喫食数向上の取り組み

サラダファーストプロジェクト

健康な食生活を送るうえで、野菜は欠かせません。
しかし、日本では慢性的に野菜の摂取量が不足しています。

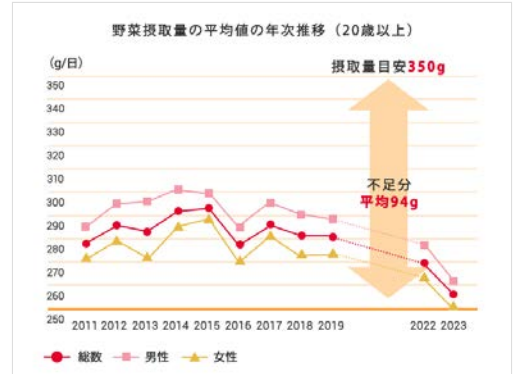
また食卓の皿数が減少しており、若い世代ほど少ない状況です。忙しい日々の中で食事が簡略化され、野菜が優先されない現状があります。

この課題を解決するため、野菜だけを無理に食べるのではなく、好きなものやライフスタイルに合わせて野菜を取り入れる「with ベジタブル」の企画を提案しています。

義務感で食べる野菜ではなく、「これを食べたら自分
がもっと元気になる」というポジティブな感覚を持
ってもらい、行動変容を促すことで自然と摂取量を増
やす食生活をめざします。

サラダのリーディングカンパニーとして、外食、中食、
内食すべての食シーンと業態で連携し、サラダの無限
の可能性を追求していきます。

2025年度は「プロテイン with ベジタブル」をテーマ
に、タンパク源と野菜を組み合わせた提案を進め、パ
ワーサラダをはじめとした一皿で満足感のあるメニ
ューを食シーンに合わせて提案することで、野菜摂取
の課題に貢献します。



好きなモノと、好きなコトと、好きなトキに。

with ベジタブル



キューピーグループでは、だれよりもサラダのことを大切に考え、
サラダの価値を引き出し、おいしいサラダをお届けしたい。
その想いを込めて、2023年に「サラダファースト」というキャッチ
フレーズを掲げ、サラダの魅力を伝える取り組みを強化していま
す。

噛むことの大切さを啓発

サラダは噛み応えのある食材である野菜をたくさん
摂れるレシピです。食物繊維量が多いほど、よく噛む
ことが分かっています。

生涯にわたり食事を楽しむためには、噛む力がとても
大切です。しかし、「噛む」という動作は、半ば無意識
に行われる運動であり、噛まない習慣が身について
しまっている方にとっては意識して改善していくの
は困難です。キューピーでは「噛むことの大切さ」の啓
発を目的に株式会社ロッテと和洋女子大学とで共同
研究に取り組んでいます。2022年には、これまで共同



咀嚼回数ランク表

で行ってきた食品ごとの噛む回数に関する研究成果
をまとめ、ランク付けした「咀嚼回数ランク表」を公開
しました。

＞よく噛むことを心がけよう！

＞食品の咀嚼回数や咀嚼効果の研究による健康貢献

サラダに関する研究成果

サラダ・野菜に関する様々な価値を研究し、発表しています。

- ＞ポテトサラダが食後の血糖値上昇を抑制する効果の検討
- ＞親子で料理をする経験が子どもの心の成長に貢献する
- ＞ピーマンの苦味研究で野菜を好きな子どもたちを増やす



健康に配慮した商品

キューピーグループは、野菜をサラダで食べるという新しい食文化の普及に努め、サラダメニューの拡がりとともに成長してきました。これからも一人ひとりの食のパートナーとして、さまざまな世代の食と健康に貢献するため研究・商品開発を行っていきます。

特定保健用食品



キューピー
ディフェ

機能性表示食品



キューピー
アミノ油
マヨネーズ



キューピー
アミノ油
ドレッシング



キューピー
フィット



キューピー
フィット
ドレッシング

低カロリー・減塩対応食品



ジャネフ
ノンオイルドレッシング

タマゴの付加価値化

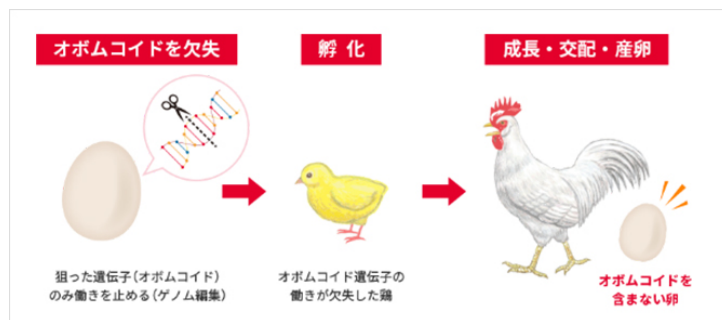
創業以来、卵の無限の可能性を追求し続けてきました。単なる食材としてだけでなく、卵黄、卵白、殻、卵殻膜など、卵のあらゆる部分に秘められた価値ある機能を発見し、革新的な商品開発につなげています。

卵の可能性を最大限に引き出す研究開発と活用を通じて、お客様の健康で豊かな生活に貢献していきます。これからも、卵の新たな価値を創造し続け、食品業界のイノベーションをリードしていきます。

卵アレルギー研究

アレルギー低減卵の研究

キュービーは、卵アレルギーで苦しむ人を「ゼロ」にしたいという思いで、国立大学法人広島大学と共に、2013年からアレルギー低減卵[※]の共同研究を進めてきました。アレルギー低減卵は、ゲノム編集技術により鶏卵のオボムコイドを狙って働きを止め、その後孵化した鶏が成長し、交配・産卵することにより作出されます。2022年度から、国のプログラム「共創の場形成支援プログラム(COI-NEXT本格型)」に参加し、これまで一緒に取り組んできた広島大学に加え、パートナー企業など新たな仲間とともに応用研究をさらに進めています。食の選択肢を広げることで、卵アレルギーの方にも卵のおいしさや健康価値をお届けしたいという想いのもと挑戦を続けていきます。



オボムコイドを含まない鶏卵の作出方法

※ 鶏卵中に含まれる熱や消化酵素に強いたんぱく質を除去することで、アレルギーを低減できる鶏卵のこと。

- ▶ [PRTIMES STORY「研究者ディスカッション：アレルギー低減卵の可能性と今後の課題」](#)
- ▶ [アレルギー低減卵でおいさと低アレルギー性を両立した菓子メニューの可能性を確認](#)
- ▶ [アレルギー低減卵の臨床的安全性の検証研究が日本医療研究開発機構\(AMED\)事業に採択](#)
- ▶ [相模原病院・広島大学・キュービーの共同研究 アレルギー低減卵の臨床試験について経過報告 実施した17症例全てで「アレルギー反応陰性」を確認](#)

卵アレルギーは「食べて予防」へ

食物アレルギーは、じんましんや呼吸困難などを引き起こす病気で、特に卵アレルギーは乳幼児に多いといわれています。これまでアレルギーを引き起こす食品の摂取は避けた方がよいとされてきましたが、最近の研究で「離乳早期に少しずつ食べ始めるほうがアレルギー発症予防に有効[※]」であることがわかってきました。キュービーグループは、加熱などによりアレルギー性を低下させた卵を用いて、より安全な卵アレルギーの診断・治療および予防につなげる研究を専門医療機関と共同で行っています。卵アレルギーの無い世界



をめざして、これからも診断から治療・予防法確立までの支援を継続していきます。

※2016年、国立成育医療研究センターは、卵アレルギーの予防に関する研究成果を発表しました。アトピー性皮膚炎の乳児121人を対象に行った結果、皮膚の治療を十分に行った上で6ヵ月齢から微量の加熱した卵の粉末を食べた乳児の1歳時における卵アレルギー発症率は8%（食べなかった乳児は38%）となり、その有効性が示されました。この結果を受けて、2017年には日本小児アレルギー学会から「鶏卵アレルギー発症予防に関する提言」が出され、さらに2019年には厚生労働省の授乳・離乳の支援ガイドにおいて卵黄の摂取開始時期が早められました。

鶏卵の摂取による認知機能改善効果

生物系特定産業技術研究支援センター（以下生研支援センター）が公募する「令和3年度 イノベーション創出強化研究推進事業※1」に応募し、「鶏卵市場拡大に向けた卵の認知機能改善研究と付加価値鶏卵の開発」のテーマで採択※2されました。キューピーはこのうち「応用研究ステージ」にて、鶏卵の認知機能改善効果を明らかにし、その機能性成分を高含有する付加価値卵の開発を五者共同でめざします※3。鶏卵の摂取による「認知機能改善効果」を明らかにするとともに、改善に関与する成分を特定し、その効果をヒト試験で確認することを目的としています。



研究体制

※1 従来の常識を覆す革新的な技術・商品・サービスを生み出していくイノベーションの創出を目的とした、「知」の集積と活用
の場による研究開発を重点的に推進する提案公募型の研究開発事業

※2 令和3年度「イノベーション創出強化研究推進事業」の公募における審査結果について：

＞ [生物系特定産業技術研究支援センター](#) [Q](#)

※3 共同研究機関：国立大学法人東京大学、学校法人東京医科大学、地方独立行政法人神奈川県立産業技術総合研究所、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構（農研機構）

＞ [令和3年度 イノベーション創出強化研究推進事業に採択](#)

「卵不使用」のマヨネーズタイプ調味料

キューピーは、卵アレルギーに配慮し、卵を使わないマヨネーズタイプ調味料（業務用）を学校給食向けに発売しています。発売後の状況から家庭用のニーズが高まっていると判断し、2015年2月に「キューピー エッグケア（卵不使用）」を市販向けに発売しました。今後も社会に求められる商品づくりで食生活に貢献していきます。



たまごスター

社内認定制度「たまごスター」を2019年度よりスタートしました。

「タマゴのリーディングカンパニー」をめざしてグループ全体で卵の魅力を語れる従業員を増やすことが目的です。

三ツ星タマリエ検定取得(日本卵業協会)に加え、卵の知識を正しく伝えるための勉強会に参加することで認定されます。

全国1,050人(2024年度)の「たまごスター」が卵の魅力を伝える活動を行っています。



たまごスター認定証

たまご白書

「たまご白書」は、卵に対する認識や食べ方、トレンドを分析した調査報告で2017年より実施しています。卵について魅力を感じることや好きな卵料理などのアンケートから、卵の正しい知識の啓発や、卵料理の楽しみ方の提案へと生かしていきます。

[「たまご白書2024」を公表](#)



健康寿命延伸に向けた協働・研究

フレイル予防の取り組み

東京大学高齢社会総合研究機構(IOG)との共同研究

東京大学IOGと連携し、高齢者において、野菜・卵の摂取と食生活および身体機能への関連性について共同研究を行っています。



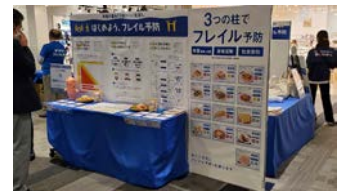
東京大学高齢社会総合研究機構

フレイル予防推進会議への参画および業界団体の設立

2024年設立の「フレイル予防推進会議」に参画し、官民が一体となったフレイル予防の普及啓発活動を推進しています。また、フレイル予防サービス推進のため、流通・食品メーカーを中心とした企業10社で新たな業界団体「フレイル予防サービス振興会」を2025年4月に設立し、フレイル予防産業の健全な育成をめざします。

[フレイル予防について](#)

[フレイル予防推進会議に参画](#)



フレイル予防イベント

運動と食の両面から健康を応援

生涯健康であるために、「栄養」「身体活動」「社会参加」の3つの要素が大切という想いを共有するセントラルスポーツ株式会社と協働しています。

子どもから高齢者まで健康に過ごしていただくため、セントラルスポーツの食育イベントやホームページなどを通して、栄養と運動の大切さを発信しています。



[> 共同イベント](#) 

共同プロジェクトで健康な食生活に役立つ情報を発信

「健康な食生活に貢献したい」という想いを共有する株式会社ABC Cooking Studioと共同プロジェクト「サラダとタマゴの食と健康キッチン」を立ち上げました。野菜不足やたんぱく質不足、塩分の過剰摂取など、食生活の課題に対して、両社の強みや特徴をいかしたWEBコンテンツや、1dayレッスンなどを通じて「サラダとタマゴ」にまつわる健康な食生活に役立つ情報を発信しています。

2023年3月には健康についての意識や、サラダや卵料理をつくるときの悩みや課題をリサーチしまとめた「サラダとタマゴの食と健康白書2023」を公表しました。

ABC Cooking Studio × kewpie

サラダと
タマゴの
食と健康
キッチン

[> サラダとタマゴの食と健康白書2023](#) 

食糧学院との取り組み

栄養士および調理士の養成校である学校法人食糧学院と連携し、学院生に向けた講演会や授業を実施しています。

サラダやタマゴの価値・魅力を授業で啓発したり、深谷ヤサイな仲間たちファームで研修を行うなど、取り組みを通じて、学生が楽しく学べる機会を提供しています。



授業風景

健康を支える食生活サポート

食をテーマにした講演会

食についての正しい知識や、食の大切さと楽しさを伝えることは、私たちの重要な役割です。

健康で楽しい食生活に貢献したいと考え、「食」をテーマにした講演会に講師となる社員を派遣し、食生活と健

康について正しい情報を提供しています。

プログラムは現在3種類あり、「野菜の魅力」をテーマにしたプログラムでは、野菜の栄養や理想的な摂取量などをDVDで見たり、毎日の生活で実践できる調理法を紹介したり、参加される皆さんに関心を持っていただけるような内容にしています。

参加した方からは、「1日350gの野菜摂取を意識して献立を考えます」「野菜の幅広い魅力、食卓での楽しみ方などを学ぶことができた」などの声も聞かれ、野菜の魅力が伝わっています。

開催中の講演会プログラム



介護に関するイベント

キューピーは1998年に日本で初めて市販用介護食を発売しました。日本は世界で最も早く超高齢社会に突入し、ますます介護食の必要性は高まっています。

高齢者の食について理解を深めてもらい、ユニバーサルデザインフードについても知ってもらうために、介護の現場に関わる方々や学生へ勉強会を行っています。

中国における食と健康啓発活動

中国でも健康志向は高まりを見せる中、「中国の食と健康への貢献」をめざす丘比(中国におけるキューピーブランド)は、日本や現地での研究成果を生かし、食品学会などと健康普及活動を中国全土で展開しています。

また、店頭の野菜売り場では、野菜の健康機能を啓発しつつサラダに注目していただく活動も継続しており、北京・上海・広州を起点に中国全土への拡大を進めています。



活動の様子(上海)

ウェルネス領域への挑戦

グループの独自素材を活かした開発

マヨネーズの原料となる卵に加え、お酢をつくりだす酢酸菌においても、長年研究を続けてきました。卵に含まれるコリンは認知機能維持への効果が期待されており、酢酸菌には、花粉症や飲酒時の体調改善、免疫バランスの調整、風邪症状の軽減効果が確認されています。これらを始めとするグループ独自素材に関する長年の研究成果を基盤として、メタボリックシンドローム、フレイル、認知症、免疫の4つの健康課題に対応する商品・サービスを拡充していきます。

さらに、DtoCや越境ECなどの新しい販売方法を活用して、より多くのお客様に当社の健康に役立つ商品をお届けします。

また、医療機器開発やライセンスビジネスなど食品以外の分野にも挑戦し、お客さまの健康促進と生活の質(Quality of Life)の向上に貢献していきます。

＜卵黄コリン

＜酢酸菌

酢酸菌GK-1

キューピーグループでは、独自の製法でにがり酢をつくっており、その原料となる 独自素材「酢酸菌GK-1」の機能に着目し、新たな価値創造につなげる研究を進めています。

これまでの研究により、酢酸菌GK-1は、花粉、ホコリ、ハウスダストによる鼻の不快感を軽減させることを、ヒト臨床試験で確認しています。また、酢酸菌GK-1が唾液中の分泌型IgA量を増加させ、風邪に見られる諸症状を減少させることを確認しました。これらの結果から、酢酸菌のアレルギー症状に対する効果との関連が示唆されました。今後もさらなる研究を進め、商品への活用や原料提供というかたちで社外とも取り組みを進めていく予定です。

＞ 酢酸菌のヒト臨床試験で「分泌型免疫グロブリンA抗体の増加」と「風邪に見られる諸症状の減少」を確認



未病(がん予防)への取り組み

キューピーは「食」でがんを予防する研究を2013年から開始しました。2019年には将来の発がんリスクを判定する研究を横浜国立大学、東京医科大学と共同で始めています。血液中に存在するマイクロRNAという成分を測定することで、将来の発がんリスクを判定し、マイクロRNAの発現量を改善する食提案で疾病予防の実現をめざしています。

国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)が運営する「人と共に進化する次世代人工知能に関する技術開発事業」のプロジェクト(2020-2024)が終了し、現在、事業化に向けて更なる研究を進めています。

＞ 疾病を発症前に予防する



医療への取り組み

キューピーのファインケミカル事業は、卵由来のレシチンやリゾチーム、食酢の研究から生まれた酢酸菌酵素など、さまざまな素材を食品・化粧品・医薬品などの分野へ提供しています。中でも30年以上にわたり研究を重ねてきたヒアルロン酸は、事業の中核となる素材であり、国内販売量No.1(2023年富士経済調べ)となっています。

キューピーは国内で唯一、鶏のトサカからの抽出と微生物発酵の2つの方法でヒアルロン酸を製造するメーカーです。分子量のコントロール技術や修飾技術を強みとし、顧客ニーズに合わせた技術支援を行ってきました。



キューピー初の医療機器、内視鏡用粘膜下注入材「ケイスマート」

キューピーのヒアルロン酸は、医療用点眼剤や関節機能改善剤の原料など、さまざまな医薬品に使用されています。これらの取り組みで得た製造・品質管理の技術を生かし、ヒアルロン酸を活用した医療機器の企画、開発を行うビジネスを展開しています。

消化管（胃・食道・大腸など）の粘膜層にとどまる早期がんなどの病変を内視鏡を用いて切除する際に使用される医療機器「内視鏡用粘膜下注入材」は、ヒアルロン酸ナトリウムが使われています。ヒアルロン酸の粘性により粘膜下層にとどまることで粘膜層と筋層を分け、その状態を維持することで病変部位の切除または剥離操作性向上をサポートします。キューピーは高品質の医療機器を提供することで、内視鏡による早期がん治療を通じ、健康寿命の延伸に貢献します。

他にも大腸検査を受けられる方や医療機関の皆様へ、検査前日にご使用いただける商品もご用意しています。

[> 検査食 !\[\]\(99f58673407353e96a019fbca558fd72_img.jpg\)](#)

サステナビリティ

サステナビリティトップ >

トップメッセージ >

サステナビリティ
マネジメント +

資源の有効活用・循環 +

気候変動への対応 +

生物多様性の保全 +

食と健康への貢献 -

健康寿命延伸への貢献 >

子どもの心と体の健康
支援 >

ユニバーサルデザイン
への取り組み >

社会貢献活動 >

持続可能な調達 +

人権の尊重 +

ガバナンス +

安全・安心 +

開示方針 >

各種報告書 >

対照表 >

ESGデータ集 >

各種方針 >

イニシアチブ・加盟団体 >

社会・環境活動の歴史 >

キューピーグループ
オフィシャルブログ >

子どもの心と体の健康支援

子どもの心と体の健康支援の考え方 >

食育活動 >

フードバンク活動の支援 >

食を通じた「子どもの貧困対策」への支援 >

ベルマーク運動 >

WFP「レッドカップキャンペーン」 >

子どもの心と体の健康支援の考え方

「食」には体をつくる、体の調子を整えるなど、栄養面だけではなく、健全な心を育む力があります。さまざまな活動を通じて食べることの大切さや楽しさを伝えることで子どもたちの生きる力、考える力を支援していきます。

食育活動

キューピーグループは、「食の安全・安心」とともに「食の大切さと楽しさ」をお伝えする食育活動を実施しています。1961年に「オープンキッチン(工場見学)」を開始し、2002年からは小学校への出前授業「マヨネーズ教室」、2022年からは「SDGs教室」を全国で実施しています。

その他、食に関する情報を提供しています。ホームページでも新たに「食生活アカデミー」などの食育コンテンツを設けたり、健康な心と体づくりを応援するDVDを学校や消費生活センターなどに無償で配布する「メディアライブラリー活動」なども行っています。

> 活動の全体像

食育活動 >

海外における食育活動 >



オープンキッチン

キューピーは「工場は家庭の台所の延長」と考えています。そのため、一般の方の工場見学を「オープンキッチン」と呼んでいます。商品がどのように生産されているのかをお客様の目で見えていただくことが、商品をご理解いただき、安心をお届けする最良の機会であると考えています。

オープンキッチン(工場見学)の歴史は古く、1961年に活動を開始。食品業界では生産現場を公開することが珍しかった当時、小学生の社会科見学を実施したことがきっかけです。現在も、地域の産業を学ぶ場として、多くの見学者を受け入れています。

[詳しくはこちら](#)

食育コンテンツ

キューピー公式サイトにて、さまざまな食育コンテンツを開設しています。

子どもたちが主体的に学べたり、一緒に楽しめるコンテンツとして、役立つ情報を随時追加し、内容も充実させていきます。

[食生活アカデミー](#)

[子どもと野菜をたのしもう](#)

[みんなの食と健康応援](#)

野菜料理をつくる経験は子どもの心理的発達によい影響があります！

親子で一緒に野菜料理をつくることはお子さんの「こころの健康や成長」にとって非常に重要だということが発達心理学領域の研究からわかりました。

月に1回以上の野菜料理の共同調理経験があるお子さんは、野菜料理以外の共同調理経験のみあるお子さんや共同調理経験がないお子さんと比較して、自己統制力、主張力、協調性、自己肯定感、論理的・集中的態度、好奇心の全6項目の心理的発達項目において、スコアが有意に高いことがわかりました。

「野菜」とひとくちに言っても、その種類は非常に多く、色・形・香りなどもさまざまです。

また、野菜を使った料理も多岐にわたり、健康な食生活という観点からも食卓への出現頻度が非常に高いのが特徴です。これらの特徴が、子どもの心理的発達に野菜料理の共同調理経験が好影響を与える要因である、と推察できます。

[詳しくはこちら](#)

フードバンク活動の支援

日本では、まだ食べられるのに廃棄されている「食品ロス」が、年間約472万トン（令和4年度推計値：農林水産省）あるといわれています。その一方、十分な食事が摂れない人たちも数多く存在しています。キューピーは、2007年よりフードバンク活動^{※1}を行う「認定NPO法人セカンドハーベスト・ジャパン」の支援を始め、今では全国のフードバンク10団体と、提携を結んだ3つの社会福祉協議会を通じて商品を寄贈しています。この活動は、グループ各社にも広がっています。

また、2020年よりキューピーみらいたまご財団を通じて、全国食支援活動協力会の立ち上げたMOWLS^{※2}への商品寄贈を実施しています。

※1 フードバンク活動：食品企業の製造工程で発生する規格外品などを引き取り、児童養護施設などの福祉施設や生活困窮者へ無償で提供する活動

※2 MOWLS：一般社団法人全国食支援活動協力が運営する全国のこども食堂などの「居場所」に集う子どもから高齢者などすべての人が食事を得られる環境をサポートするシステム

食を通じた「子どもの貧困対策」への支援

近年、ライフスタイルや食生活の多様化が急速に進む一方、若い世代を中心とした食に関する知識・興味の低下、食を通じたコミュニケーションの希薄化、子どもの貧困など、食を取り巻く社会課題はますます深刻化しています。キューピーは「食を通じて社会に貢献する」という創業当初からの精神のもと、2017年4月に「一般財団法人キューピーみらいたまご財団※」を設立しました。想いを共有しうる団体の活動を広範に支援することで一企業だけでは成し得ない社会貢献に繋げていきたいと考えています。独自の食育活動とあわせ、長期的な視野をもって健やかで持続的な社会の実現をめざします。

※キューピーみらいたまご財団は2019年4月1日から公益財団法人に移行しました。



公益財団法人 キューピーみらいたまご財団

子ども食堂など食を通じた子どもの居場所づくりと食育に取り組む団体への寄付を中心に、助成活動を行っています。また、子ども食堂などの活動定着を目的に、展開事例紹介や団体同士のネットワークづくりにつながるセミナーを開催しています。

2017年～2024年助成団体数：807団体

2017年～2024年セミナー開催数：15回



▶ [公益財団法人 キューピーみらいたまご財団](#) 〇

ベルマーク運動

ベルマーク運動は、「すべての子どもに等しく、豊かな環境のなかで教育を受けさせたい」という願いからはじまった運動です。

キューピーグループはこの願いに共感し、ベルマーク運動が開始された1960年より、公益財団法人ベルマーク教育助成財団に協賛し、運動に参加した学校などへの教育支援活動に協力しています。



ベルマークとキューピー商品

ベルマークはキューピーのマヨネーズとドレッシングについています。



財団法人 ベルマーク教育助成財団



WFP「レッドカップキャンペーン」

レッドカップキャンペーンは、地球上の飢えに苦しむ子どもたちに学校給食を届ける支援活動です。

キュービーベビーフード「レンジでチンするハッピーレシピ」は、国連の食糧支援機関であるWFP国連世界食糧計画の「レッドカップキャンペーン」に参加し、商品の売り上げの一部を寄付しています。



レッドカップキャンペーン



サステナビリティ

サステナビリティトップ	➤
トップメッセージ	➤
サステナビリティ マネジメント	+
資源の有効活用・循環	+
気候変動への対応	+
生物多様性の保全	+
食と健康への貢献	-
健康寿命延伸への貢献	➤
子どもの心と体の健康 支援	➤
ユニバーサルデザイン への取り組み	➤
社会貢献活動	➤
持続可能な調達	+
人権の尊重	+
ガバナンス	+
安全・安心	+
開示方針	➤
各種報告書	➤
対照表	➤
ESGデータ集	➤
各種方針	➤
イニシアチブ・加盟団体	➤
社会・環境活動の歴史	➤
キューピーグループ オフィシャルブログ	➤

ユニバーサルデザインへの取り組み

ユニバーサルデザインへの取り組みへの考え方

ユニバーサルデザインを取り入れた例

ユニバーサルデザインフード

ユニバーサルデザインへの取り組みへの考え方

できるだけ多くの方に使いやすいことをめざすユニバーサルデザインへの取り組みは、キューピーグループのめざす姿「私たちは『おいしさ、やさしさ、ユニークさ』をもって世界の食と健康に貢献するグループをめざします。」を具現化することでもあると考えています。

キューピーグループではお客様相談室をはじめとしたさまざまな部署が集まる「お客様の声委員会」でユニバーサルデザインにかかわるテーマについて話し合いを行っており、その結果を各部署で具体的に検討しながら、商品の改善に努めています。

キューピーグループ ユニバーサルデザイン原則

1. 誰でも公平に利用できる
2. 使う上で自由度が高い
3. 使い方が簡単ですぐに分かる
4. 必要な情報がすぐに理解できる
5. うっかりミスや危険につながらない
6. 無理な姿勢を取ることなく少ない力で楽に使用できる
7. アクセスしやすいスペースと大きさの確保
8. 人体に危害を加えない
9. 環境に配慮している
10. 利便性に優れている

ユニバーサルデザインを取り入れた例

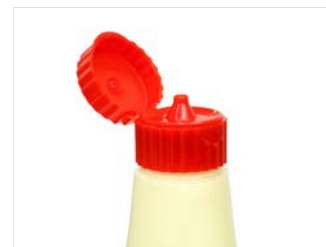
使いやすさへの工夫

ダブルキャップ

細口や星型のダブルキャップ

キューピー マヨネーズのふたは、細口と星型のダブルキャップだということをご存じですか？上ぶたを開けると細口、キャップを回して外すと星型の口があらわれます。料理の仕上げのデコレーションには細口で、たっぷりとかけたいときは星型で。料理の楽しさが広がるダブルキャップをぜひご活用ください。

また、キャップには、回したときに手が痛くない、壊れにくいなど、ユニバーサルデザインの発想が随所に施されています。



デコレーションに「細口」



3本の線がかかる「3つ穴」
※3つ穴キャップは、350gのみ



たっぷり使える「星型」



軽く持ちやすい容器

より軽く、より使いやすく、を追求したプラスチックボトル

キューピー ドレッシングは「軽さ」「開けやすさ」「持ちやすさ」「注ぎやすさ」「分別しやすさ」「環境配慮」を実現したオリジナルの容器を採用しています。



開けやすさ



左回して一度にキャップと中栓を開けられるようにしました。

分別しやすさ



ツマミを右に半周以上引き裂き、中栓を簡単に取り外しできます。

注ぎやすさ



注ぎ口にカーブをつけて、液だれしづらくしました。

持ちやすさ



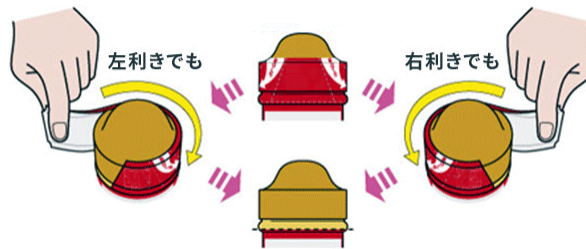
ボトルの中央にくびれをつけ、振るときに握りやすくしました。

キャップシール

左右どちらでも開けられる易開封シュリンク

ドレッシングのキャップ部分のシュリンク(フィルム)は、右利き・左利きのどちらの方でも1回の動作で開封することができます。さらに、シュリンクに上から下までのミシン目も追加し、分別の際のはがしやすさに配慮しています。





多面体デザイン

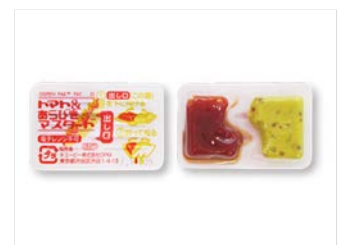
瓶の上部を多面体にすることで、握りやすさと開けやすさを実現しました。



パキッテ

片手ですばやくかけられるポーション容器「パキッテ」

「パキッテ」は、片手で容易に開封でき、従来の袋やカップに比べ、手を汚すことなく中身を完全に押し出すことができる容器です。1983年にアメリカで発明され、1987年にはキュービーのグループ会社であるデイスペンパックジャパンが、世界に先駆けて技術開発および商品化に成功しました。さまざまな食シーンにあわせ、出し口を工夫するなどラインアップを拡充しています。現在では中食や外食産業をはじめ、家庭や学校給食などで幅広く使用されています。



分かりやすい工夫

開栓日メモ

開栓した日を記入する「開栓日メモ」



点字表示

「アラハタ」「ジャム」「ドレ」という点字を入れ、より多くのお客様に判断しやすいようにしています。



大きな文字

文字を大きくし、一目で見やすく、分かりやすくしています。



ユニバーサルデザインフード

どなたにも食べやすくおいしい食事として楽しんでいただきたいという想いから、キューピーはさまざまな商品を開発してきました。いつでも「食」を楽しむことのできる豊かな食生活の実現を応援しています。

「やさしい献立」は、食べやすさから生まれたユニバーサルデザインフードです。食べる人の噛む力、飲み込む力に合わせて選べる4段階のやわらかさと、とろみ調整食品があります。



ユニバーサルデザインフード (UDF) とは

ユニバーサルデザインフード (UDF) は、日常の食事から介護食まで幅広くお使いいただける、食べやすさに配慮した食品です。2002年設立の日本介護食品協議会(加盟99社:2024年12月現在)は消費者がより分かりやすく、噛む力・飲み込む力に配慮し、「かたさ」や「粘度」に応じて選べる4段階のやわらかさと、とろみ調整食品に区分されています。各区分に分類される商品にユニバーサルデザインフードロゴマークを使用しています。



ユニバーサルデザインフードについて

区分	容易にかめる	歯ぐきでつぶせる	舌でつぶせる	かまなくてよい
----	--------	----------	--------	---------

噛む力の目安	かたいものや大きいものはやや食べづらい	かたいものや大きいものは食べづらい	細かくてやわらかければ食べられる	固形物は小さくても食べづらい
飲み込む力の目安	普通に飲み込める	ものによっては飲み込みづらいことがある	水やお茶が飲み込みづらいことがある	水やお茶が飲み込みづらい
かたさの目安 (ごはんの調理例)	ごはん ～やわらかごはん 	やわらかごはん ～全がゆ 	全がゆ 	ペーストがゆ 
かたさの目安 (たまごの調理例)	厚焼き卵 	だし巻き卵 	スクランブルエッグ 	やわらかい茶碗蒸し (具なし) 

[> 日本介護食品協議会ホームページ](#)

サステナビリティ

サステナビリティトップ	>
トップメッセージ	>
サステナビリティ マネジメント	+
資源の有効活用・循環	+
気候変動への対応	+
生物多様性の保全	+
食と健康への貢献	-
健康寿命延伸への貢献	>
子どもの心と体の健康 支援	>
ユニバーサルデザイン への取り組み	>
社会貢献活動	>
持続可能な調達	+
人権の尊重	+
ガバナンス	+
安全・安心	+
開示方針	>
各種報告書	>
対照表	>
ESGデータ集	>
各種方針	>
イニシアチブ・加盟団体	>
社会・環境活動の歴史	>
キューピーグループ オフィシャルブログ	>

社会貢献活動

- 社会貢献活動の考え方
- マッチングギフト制度
- 地域との連携
- その他の社会貢献活動

社会貢献活動の考え方

キューピーグループは、人々の生活になくてはならない食に携わる企業として、健康で豊かな暮らしの実現をめざした貢献をしていきたいと考えています。

そのために、「長く継続できること」「多くの方の役に立つこと」「地域に根ざすこと」を柱として、地域社会とのより良い共生をめざして社会貢献活動に取り組んでいます。特に、地方自治体や地域のNGO・NPOなどの団体との協働を通じて、さまざまな地域の発展につながる活動を行っています。

マッチングギフト制度(Q P e a c e)

キューピーグループは、従業員が社会課題の解決に取り組む団体に寄付を行うことを支援する活動として、マッチングギフト制度「Q P e a c e (キューピース)」を2008年度より導入しています。寄付先の団体は、従業員の推薦を受け、有志による選定委員会で決定しています。2024年度は、グループ26社が参加し、「子ども」「環境」「食」を活動のテーマとする10の社会・環境団体へ寄付を行いました。従業員が社会課題への関心を高めるきっかけとしています。



Q P e a c e の流れ

- 従業員が支援したい団体を推薦。従業員からなるプロジェクトメンバーと事務局で、推薦された団体を審査し、決定
- 寄付を希望する従業員は毎月100円を1口として給与天引きし、Q P e a c e に積立
- 会社は従業員の積立金と同額を支援
- 各社会・環境活動団体へ寄付

2025年 Q P e a c e 支援団体 (536KB)



地域との連携

キューピーグループは、さまざまな自治体と協働して地域社会の課題解決や地域の活性化に取り組んでいきます。

包括連携協定

締結年月	グループ	連携自治体名	目的と主な取り組み
2023年9月	キューピー	＜愛知県西尾市	双方の資源を有効に活用した協働を推進することにより、地域のさまざまな課題に迅速かつ的確に対応し、健康増進や地域の活性化を図る ・市内小学校の学校給食で、児童の食に対する興味・知識を増やしてもらうための活動 ・外食でもおいしくサラダを楽しむ機会を創出する「あいちみんなのサラダプロジェクト」イベント開催 ・西尾市拠点のスーパーとのタイアップによる地元野菜啓発活動と地産地消の推進
2019年2月	キューピー	＜山形県	地域の活性化と市民の生活の質向上を目的とした地域創生の推進 ・県内小学校にてマヨネーズ教室を実施 ・地域スーパー惣菜部と連動し、「減塩・ベジアップ」企画を実施
2018年3月	キューピー	＜広島県広島市	地域の活性化と市民の生活の質向上を目的とした地域創生の推進 ・広島県、広島市、ＪＡ全農ひろしまと連携し、地元食材×たんぱく質を組み合わせた「ひろしまサラダ」を提案
2016年12月	キューピー	＜東京都渋谷区	地域社会の課題解決を目的とし、新たな取り組みを推進することで、社会・地域とのより良い共生を図る ・令和6年度 渋谷区総合防災訓練「渋谷防災キャラバン」に協賛 ・令和6年度「しぶや・もったいないマーケット」でワークショップを開催
2013年3月	アラハタ	＜広島県 〇	県民サービスの向上や地域経済の活性化を図り、広島県産オリジナル商品の開発や観光振興、県民サービスの向上や地域経済活性化の推進、健康増進・食育に関すること、地域の安全・安心に関することなど、多岐にわたる取り組みの推進 ・地域のボランティアが主体となり、小学校の子どもたちが始業前に集まり、朝ごはんを食べる広島県「朝ごはん推進モデル事業」に対し、商品を提供 ・広島ならではの給食メニューのレシピを公募し、その中から選ばれたメニューを給食で提供する「ひろしま給食推進プロジェクト」

			クト」の広島県の取り組みに対し、メニュー審査や商品を提供
--	--	--	------------------------------

その他自治体との取り組み

連携自治体名	主な取り組み
福島県	「福島の食卓に笑顔を！」をテーマに掲げ、従来の「マヨネーズ教室」の枠を超え、福島県産野菜の地産地消サイクルの構築と、その先にある「新たな食シーンの創出」までを見据えた社会貢献プログラムを実施
愛知県	地元行政や有識者と連携して「あいち みんなのサラダ」プロジェクトを立ち上げ、2018年8月に実行委員会を設置し、県民が好む「うま味」「食べごたえ」「意外性」を備えた「あいちサラダめし」を考案し、県内の飲食店へ提案（2024年12月時点：賛同店約180店、提供店約50店）

全国47都道府県「ご当地ペイザンヌサラダ※」の取り組みを始動

2023年にキュービーと全国農業協同組合連合会との共同で、全国各地の食材で作る「ご当地ペイザンヌサラダ」の取り組みを始動しました。

地域ごとにキュービーの支店・営業所と全農の都府県本部が協力し、ご当地ペイザンヌサラダと、サラダに使用のご当地食材の販促活動を、地域の量販店や自治体と連携しながら実施します。

この取り組みを通して、地元野菜の新しい食べ方を提案し、野菜の消費を後押しするとともに、地産地消による地域の活性化に貢献していきます。



※ペイザンヌサラダとは？

ペイザンヌサラダとは、「田舎風サラダ」という意味で、フランスで親しまれている、野菜と卵などを盛り合わせたカジュアルなサラダです。

いつもの食材で簡単に作れて、食べ応えがあるのが特徴です。

清掃活動

各事業所では、環境美化活動の一環として敷地周辺の自主的な清掃活動を実施しています。また、地域で行われている周辺の河川や商店街の定期的な清掃に参加しています。こうした取り組みは「キュービーグループ オフィシャルブログ」でも紹介しています。

[> キュービーグループ オフィシャルブログ](#)



アヲハタ アダプト活動



アラハタは広島県と包括連携協定を締結しており、連携して取り組む項目の一つに「環境対策・リサイクルに関すること」があります。その一つとして県道のアダプト活動※への参画があり、2013年に広島県からアダプト活動認定団体として認定され、活動を続けています。

アラハタ本社のあるJR忠海駅前の道路（県道東広島本郷忠海線）を年4回清掃活動などを行っておりその道路には「アラハタ株式会社」と記載のある看板が設置されています。

毎回ゴミの量はさほどありませんが、種類としては空き缶、ビニール袋、たばこの吸い殻などが見られます。また、ゴミを拾う以外にも歩道に生えている雑草なども取り除いています。

地域の方から挨拶やお礼を言われるなど、活動を通じて地域とのつながりを感じることができます。従業員はもちろん地域の方々も気持ちよく過ごせるよう今後もアダプト活動を続けていきます。

※ アダプトとは英語で「〇〇を養子にする」の意味から、一定区画の公共の場所を養子にみたと、市民がわが子のように愛情をもって面倒（清掃や草刈りなど）をみていく活動。



海外における地域貢献活動

キューピータイランド (KEWPIE (THAILAND) CO., LTD.) では、「環境」「地域貢献」「子ども支援」の3つのテーマに沿った活動を実施しています。

主な取り組み

ソーラーシステムの運用、水のリサイクル、バイオマス燃料の使用推進

水源保持の為に植林活動（2024年22,000本）

廃棄物残さを堆肥に活用し近隣住民への配布

従業員子女への就学支援

近隣小学校の図書室や遊具改装支援

飲み水衛生設備などの導入・メンテナンス



図書室改装支援



改修した小学校遊具

その他の社会貢献活動

文化貢献

歌やダンスなどの芸術文化活動を通じて、あらゆる世代の健康で笑顔あふれる生活を応援していきます。

おかあさんコーラス

キューピーは、「全日本おかあさんコーラス大会（全日本合唱連盟・朝日新聞社主催）」と「全沖縄おかあさんコーラス大会（全沖縄おかあさんコーラス連盟・琉球新報社主催）」に協賛しています。

これらの大会は日頃、家事や仕事などで忙しいおかあさんに、コーラスの楽しさを存分に味わっていただく場です。

ご家族の笑顔と健康を支えているおかあさんたちを、私たちは応援しています。



全日本おかあさんコーラス大会

毎年全国各地で支部大会が行われ、およそ700団体が参加する大規模な催しになっています。その中から選ばれた約60団体が、全国の主要都市で行われる全国大会に出場。日頃の練習の成果を発表しています。主婦コーラスの愛好家にとっては、欠かせない発表の場になっています。

[公式ホームページ](#)



全日本おかあさんコーラス大会のあゆみ

全日本おかあさんコーラス大会は、当時の石井敏全日本合唱連盟理事長の「おかあさん方に芸術を知っていただくことが、健康な家庭を作るために必要だ」という信念のもと、1978年に全日本合唱連盟と朝日新聞社の主催で「全日本ママさんコーラス大会」として始まりました。

第1回大会は全国で232団体・約1万人が参加し、全国大会は虎ノ門ホール（東京）で25団体が出場して盛大に開催されました。その後、参加団体は順調に増え、現在、毎年3月から7月に行なわれる各地の支部大会におよそ700団体が参加する大規模な催しになっています。

開催実績

開催年 (回数)	開催地	会場	あゆみ
2024年 (第47回)	北海道	札幌コンサートホール Kitara	—
2023年 (第46回)	兵庫県	アクリエひめじ	—
2022年 (第45回)	東京都	昭和女子大学人見記念講堂	—
2021年 (第44回)	静岡県	アクトシティ浜松大ホール	新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため開催中止 オンラインイベント「おかあさん

			コーラス オンラインフェスティバル2021」を実施
2020年 (第43回)	宮崎県	メディキット県民文化センター	新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため開催中止 オンラインで「バーチャルおかあさんコーラス」を実施
2019年 (第42回)	石川県	金沢歌劇座	—
2018年 (第41回)	愛媛県	ひめぎんホール	—
2017年 (第40回)	岡山県	岡山シンフォニーホール	—
2016年 (第39回)	青森県	リンクステーションホール 青森	—
2015年 (第38回)	北海道	札幌コンサートホールKitara	—
2014年 (第37回)	新潟県	りゅーとびあ新潟市民芸術 文化会館	—
2013年 (第36回)	大阪府	フェスティバルホール	—
2012年 (第35回)	東京都	文京シビックホール 大ホール	35回記念大会として、全国大会を 3日間開催。
2011年 (第34回)	福岡県	アクロス福岡	—
2010年 (第33回)	長野県	長野県県民文化会館 ホクト 文化ホール	—
2009年 (第32回)	愛媛県	ひめぎんホール	—
2008年 (第31回)	福島県	郡山市民文化センター 大ホール	—
2007年 (第30回)	鳥取県	鳥取県立県民文化会館 梨花 ホール	—
2006年 (第29回)	北海道	札幌コンサートホール Kitara	—
2005年 (第28回)	長崎県	長崎ブリックホール大ホール	—
2004年 (第27回)	神奈川県	よこすか芸術劇場	—

2003年 (第26回)	滋賀県	滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール	—
2002年 (第25回)	東京都	東京文化会館 大ホール	25回記念大会として、「ひびけ おかあさん in Tokyo !」をサブタイトルに全国大会を3日間開催。
2001年 (第24回)	富山県	富山市芸術文化ホール オーバード・ホール	—
2000年 (第23回)	香川県	香川県県民ホール グランドホール	—
1999年 (第22回)	岩手県	岩手県民会館	—
1998年 (第21回)	岡山県	倉敷市民会館	連盟創立50周年記念事業として、全国大会 1 日目の夜に「コーラスジャンボリー」を倉敷チボリ公園で開催。
1997年 (第20回)	北海道	札幌コンサートホール Kitara	—
1996年 (第19回)	熊本県	熊本県立劇場コンサートホール	—
1995年 (第18回)	群馬県	群馬音楽センター	—
1994年 (第17回)	京都府	京都会館 第 1 ホール	—
1993年 (第16回)	石川県	金沢市観光会館	この年から全国大会を2日間開催。
1992年 (第15回)	東京都	東京芸術劇場 大ホール	—
1991年 (第14回)	愛媛県	愛媛県立県民文化会館 メインホール	—
1990年 (第13回)	福島県	郡山市民文化センター 大ホール	—
1989年 (第12回)	広島県	広島厚生年金会館ホール	—
1988年 (第11回)	北海道	北海道厚生年金会館ホール	—
1987年 (第10回)	福岡県	福岡サンパレス 大ホール	少年少女合唱祭(第 1 回)を併催。もう一つのおかあさんコーラス大会と銘打った「おかあさんカンタート」を始める。

1986年 (第9回)	神奈川県	神奈川県県民ホール	少年少女合唱団大集合を前日に併催。この年から開催地は全国持ち回りとなる。
1985年 (第8回)	大阪府	フェスティバルホール	—
1984年 (第7回)	東京都	ゆうぽうと簡易保険ホール	—
1983年 (第6回)	愛知県	名古屋市民会館 大ホール	初めて東京・関西以外で全国大会を開催。
1982年 (第5回)	兵庫県	神戸文化ホール 大ホール	—
1981年 (第4回)	東京都	普門館	—
1980年 (第3回)	京都府	京都会場 第1ホール	名称を「全日本おかあさんコーラス大会」と変更。
1979年 (第2回)	東京都	東京文化会館 大ホール	—
1978年 (第1回)	東京都	虎ノ門ホール	「全日本ママさんコーラス」を開催し、継続行事として意義のある第一歩をしるした。

全沖縄おかあさんコーラス大会

全沖縄おかあさんコーラス大会は「楽しく歌う」を原点に1979年にスタートしました。最初は舞台上で歌い終わると、そこから客席に行き、次の団体の歌を聴くというような発表会規模の小さな催しでした。回を重ねるごとに各市町村へと広がり、歌を愛する人が集まるすばらしい文化活動へと成長しました。今ではコーラスのレベルも上がり、沖縄の歌も多く歌われ、その普及にも貢献しています。



全沖縄おかあさんコーラス大会のあゆみ

「ママさんバレーがあるのに、ママさんコーラスもあってしかるべき」との発想から、全沖縄おかあさんコーラス連盟初代理事長の故仲里朝太郎氏、前相談役の鳩間用吉氏、前理事長の新島ユキさん、兵庫県在住の柴田民子さんを中心に1979年2月14日、5団体による「親睦演奏会」が那覇中央公民館で開かれ、これが今日の「全沖縄おかあさんコーラス大会」の基礎となりました。翌1980年3月1日、当時全日本合唱連盟理事長の石井欽氏を招いて「第1回那覇ママさんコーラスまつり」を琉球新報ホールで開催し、継続行事として意義ある第一歩をしるしました。その後、参加団体の範囲が「那覇」から「全県」へ広がり、今では加盟団体への還元事業として合唱講習会や指導者講習会を定期的に行き、組織の結束力の強化、演奏技術の向上にも努めています。

開催年 (回数)	会場	あゆみ
2024年 (第44回)	琉球新報ホール	ー
2023年 (第43回)	琉球新報ホール	ー
2022年 (第42回)	琉球新報ホール	3年ぶりの開催。オンラインでの同時配信を実施。
2021年	琉球新報ホール	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、実施を延期
2020年 (第41回)	琉球新報ホール	新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため 開催中止
2019年 (第40回)	琉球新報ホール	ー
2018年 (第39回)	豊見城市立中央公民館	ー
2017年 (第38回)	豊見城市立中央公民館	ー
2016年 (第37回)	浦添市てだこホール	ー
2015年 (第36回)	浦添市てだこホール	ー
2014年 (第35回)	宮古島市マティダ市民劇場	名称を「全沖縄おかあさんコーラス大会」と変更。
2013年 (第34回)	那覇市民会館 大ホール	ー
2012年 (第33回)	浦添市てだこホール	ー
2011年 (第32回)	浦添市てだこホール	ー
2010年 (第31回)	那覇市民会館 大ホール	ー
2009年 (第30回)	浦添市てだこホール	ー
2008年 (第29回)	那覇市民会館 大ホール	ー

2007年 (第28回)	那覇市民会館 大ホール	—
2006年 (第27回)	沖縄コンベンションセンター 劇場棟	—
2005年 (第26回)	那覇市民会館 大ホール	—
2004年 (第25回)	沖縄市民会館 大ホール	—
2003年 (第24回)	名護市民会館 大ホール	—
2002年 (第23回)	那覇市民会館 大ホール	—
2001年 (第22回)	那覇市民会館 大ホール	初めて沖縄本島以外で開催。
2000年 (第21回)	沖縄コンベンションセンター 劇場棟	—
1999年 (第20回)	那覇市民会館 大ホール	—
1998年 (第19回)	那覇市民会館 大ホール	—
1997年 (第18回)	那覇市民会館 大ホール	—
1996年 (第17回)	沖縄コンベンションセンター 劇場棟	—
1995年 (第16回)	沖縄コンベンションセンター 劇場棟	—
1994年 (第15回)	沖縄コンベンションセンター 劇場棟	連盟歌、連盟旗を作成。
1993年 (第14回)	沖縄コンベンションセンター 劇場棟	—
1992年 (第13回)	那覇市民会館 大ホール	—
1991年 (第12回)	沖縄市民会館 大ホール	—
1990年 (第11回)	那覇市民会館 大ホール	—
1989年 (第10回)	那覇市民会館 大ホール	10回参加した団体へ表彰を始める。

1988年 (第9回)	那覇市民会館 大ホール	—
1987年 (第8回)	那覇市民会館 大ホール	—
1986年 (第7回)	那覇市民会館 大ホール	—
1985年 (第6回)	那覇市民会館 大ホール	名称を「全沖縄おかあさんコーラス発表会」と変更。
1984年 (第5回)	労働福祉会館 大ホール	—
1983年 (第4回)	労働福祉会館 大ホール	—
1982年 (第3回)	労働福祉会館 大ホール	名称を「那覇おかあさんコーラス発表会」と変更。
1981年 (第2回)	琉球新報ホール	—
1980年 (第1回)	琉球新報ホール	「第1回那覇ママさんコーラスまつり」を開催し、継続行事として意義のある一歩をしるした。

全日本小中学生ダンスコンクール

キューピーは、「全日本小中学生ダンスコンクール(朝日新聞社主催)」に協賛しています。

リズムダンスは、小中学校の学校教育やクラブ活動にとり入れられており、基礎体力の向上はもちろん、リズム感や自己表現力、創造力、さらにはコミュニケーション力を養うツールとして、教育面でも非常に期待されています。キューピーは、今後も元気の源となる食を通じて、仲間と一緒にダンスをがんばる子どもたちの健やかな成長を応援していきます。



提供元：朝日新聞社

全日本小中学生ダンスコンクールのあゆみ

「小中学生が学校の授業やクラブ活動などで仲間と練習したリズムダンスのパフォーマンスを演じるハレの舞台をつくりたい」そして、「ダンスを通じて健やかな体と豊かな表現力、仲間とともにがんばる心を育みたい」という願いのもとで2013年に創設された大会です。

2024年に行われた第12回大会には、過去最多の365チーム、約4,000名が参加しました。そのうち、ブロック大会で特に優秀な成績を収めた50チーム、約650名



の小中学生が全国大会に出場し、練習の成果を発揮しました。

提供元：朝日新聞社

公式ホームページ

開催実績

開催年 (回数)	会場	あゆみ
2024年 (第12回)	国立代々木競技場 第二体育館	－
2023年 (第11回)	国立代々木競技場 第二体育館	－
2022年 (第10回)	国立代々木競技場 第二体育館	3年ぶりにブロック大会を開催
2021年 (第9回)	国立代々木競技場 第二体育館	新型コロナウイルス感染症拡大防止のためブロック大会が中止。11月に全国大会と、オンラインでの発表会を開催。
2020年 (第8回)	－	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため全大会が中止。オンラインでの発表会「全日本小中学生DANCELIVE2020」を開催。
2019年 (第7回)	駒沢オリンピック公園 総合運動場 体育館	－
2018年 (第6回)	駒沢オリンピック公園 総合運動場 体育館	－
2017年 (第5回)	川崎市とどろきアリーナ	－
2016年 (第4回)	川崎市とどろきアリーナ	東海大会、九州大会を設立
2015年 (第3回)	国立代々木競技場 第二体育館	－
2014年 (第2回)	国立代々木競技場 第二体育館	西日本大会、東日本大会設立
2013年 (第1回)	渋谷公会堂	大会創設

アヲハタでは、教育支援活動の一環として、高等学校、大学などで講義や講演などを実施しているほか、インターンシップ(職場体験学習)の学生・生徒を受け入れ、働くことの大切さ・厳しさなどへの理解を深めていただいています。また、アヲハタからの寄付金をもとに本社のある広島県竹原市では「アヲハタ奨学金基金」が2001年に設立されています。給付型の奨学金制度で、2002年より毎年新たに2名の大学生に奨学金を給付しています。キューピーとキューピーたまごでは、2017年から一般の消費者様向けにスーパーやスポーツジムなどで卵の栄養・健康機能の認知啓発活動「たまご勉強会」を行っています。また、卵に対する認識や食べ方、トレンドを分析した調査報告「たまご白書」を発行し、卵に関する正しい知識の啓発・卵料理の楽しみ方の提案につなげています。

エコキャップ運動

2015年より東京都内のキューピーグループ各事業所で回収したペットボトルキャップをキューピーあいでも回収し、エコキャップとしてNPOへお渡しして途上国でのワクチン接種の支援につなげています。



2024年度回収実績

重量	個数	預かり寄付金	ワクチン接種人数
310kg	133,351個	3,096円	154人

学生服リユース活動

2020年から、さまざまな事情で学生服や学用品が買えないご家庭、子どもたちのために「学生服のリユースShop さくらや」の学生服リユース活動に参加しています。

キューピーグループでは、期間限定で仙川キューポートと渋谷オフィスに回収ボックスを設置し、制服を回収しました。



サステナビリティ

サステナビリティトップ >

トップメッセージ >

サステナビリティ
マネジメント +

資源の有効活用・循環 +

気候変動への対応 +

生物多様性の保全 +

食と健康への貢献 +

持続可能な調達 -

持続可能な調達の推進 >

人権の尊重 +

ガバナンス +

安全・安心 +

開示方針 >

各種報告書 >

対照表 >

ESGデータ集 >

各種方針 >

イニシアチブ・加盟団体 >

社会・環境活動の歴史 >

キューピーグループ
オフィシャルブログ >

グループ各社の
サステナビリティ活動 >

持続可能な調達

私たちは「良い商品は良い原料からしか生まれない」という原料に対する強いこだわりを持っています。大切な原資材料は、今や品質だけではなく、環境や人権に与える影響にも配慮する必要があります。サプライチェーンにおける社会的配慮を行う持続可能な調達が必要と考え、持続可能な調達のための基本方針を定めています。私たちは製造・販売プロセスだけでなく、商品を作るための原資材の調達プロセスにおいても社会的責任を果たしていきます。



サステナビリティ目標

重点課題	取り組みテーマ	指標	2030年度目標
持続可能な調達	持続可能な調達の推進	お取引先との協働によって「持続可能な調達のための基本方針」を推進	



● 持続可能な調達の推進

持続可能な調達のための基本方針とお取引先との協働による取り組みを紹介します。

サステナビリティ

サステナビリティトップ	➤
トップメッセージ	➤
サステナビリティ マネジメント	+
資源の有効活用・循環	+
気候変動への対応	+
生物多様性の保全	+
食と健康への貢献	+
持続可能な調達	-
持続可能な調達の推進	➤
人権の尊重	+
ガバナンス	+
安全・安心	+
開示方針	➤
各種報告書	➤
対照表	➤
ESGデータ集	➤
各種方針	➤
イニシアチブ・加盟団体	➤
社会・環境活動の歴史	➤
キューピーグループ オフィシャルブログ	➤
グループ各社の サステナビリティ活動	➤

持続可能な調達の推進

- 持続可能な調達の推進に向けた考え方
- 持続可能な調達のための基本方針
- キューピーグループ サプライヤーガイドライン
- 持続可能な鶏卵の調達
- 持続可能な野菜の調達
- 持続可能なパーム油の調達
- 持続可能な紙の調達
- アヲハタによる果実生産者との取り組み
- アニマルウェルフェアに関する考え方と取り組み

持続可能な調達の推進に向けた考え方

私たちは「良い商品は、良い原料からしか生まれない」という原料に対する強いこだわりを持っています。しかし今や品質だけではなく、環境や人権に与える影響にも配慮する必要があります。このことをお取引先と一緒に取り組むことが、持続可能性を高め、良い原料を調達できることにつながると考えます。

持続可能な調達のための基本方針

- 法令を遵守し、国際的なルール・慣行にも配慮した取引を行うとともに、腐敗行為の防止を徹底する。
- 公正で誠実な取引を行うとともに、機密情報や知的財産を適切に管理する。
- 人権を擁護し、差別的な言動や非人道的な扱いを行わず、また人権侵害に加担しない。
- 従業員の労働者としての権利を尊重し、適切な労働慣行と安全で衛生的な職場環境を確保する。
- 地域と地球環境の汚染と破壊を防止するため、資源の持続可能な利用に努める。
- 安全で高品質な原料を持続的に利用できるように、生態系への影響やアニマルウェルフェアも考慮した管理を行う。
- 原料を生産する地域社会が持続可能になるよう、積極的に貢献する。
- 上記に関して、自社のお取引先にも同様の配慮をお願いする。
- 上記に関して、適時・適切な情報開示を行う。

2018年制定、2023年改訂

キューピーグループ サプライヤーガイドライン

「キューピーグループ 持続可能な調達のための基本方針」の実現に向けて、キューピーグループの調達先である大切なお取引先(お取引先を含めたサプライヤー全体を指します)へお願いすることとして「キューピーグルー

「キューピーグループ サプライヤーガイドライン」を定めます。本ガイドラインをもって相互理解のもと、サプライチェーンにおけるさまざまな課題解決を行い、持続可能な調達および取引先との共存共栄をめざします。

 [キューピーグループ サプライヤーガイドライン \(655KB\)](#)

持続可能な鶏卵の調達

基本的な考え方

キューピーグループにとって鶏卵は、マヨネーズをはじめタマゴ加工品の主要原料であり、グループのさまざまな商品に使用する大切な原料です。持続可能な鶏卵の調達を考えるうえで、鶏卵の品質や環境に及ぼす影響、人権への配慮や採卵鶏のアニマルウェルフェアは重要な課題と認識しています。

キューピーグループでは、国内各地の養鶏事業者への訪問などコミュニケーションを通じて生の声を聴くと同時に、私たちの商品をご使用いただいているお客様の声を伝え、相互の成長・発展につながる協働体制の構築に努めています。

また、商品とサービスを通じてお客様をはじめとしたバリューチェーン全体で鶏卵の価値を高める活動に努めるとともに、鶏卵に関する環境負荷低減の取り組みを継続して進化させています。

養鶏事業者をはじめとしたサプライチェーンのパートナーに加え、行政や学識経験者・有識者などの関係者とのコミュニケーションや取り組みにも積極的に参画し、鶏卵に関わる産業全体の持続可能性を高めていく考えです。

取り組みについて

調達先である養鶏事業者には品質規格書を取り交わすとともに専門の担当者が計画的に訪問し、基本的な考え方を共有しながら、改善などに力を合わせて取り組んでいます。

また、鶏卵の優れた栄養バランスを生かしながら、さまざまな食品を支える加工適性などの食品機能に磨きをかけるとともに、「食と健康への貢献」や「卵アレルギーに向き合う研究」などで食にまつわる社会課題の解決につなげる取り組みを進めています。

＜ 卵の研究

＜ 卵アレルギーに向き合う研究で子どもたちを笑顔に！

鶏卵を余すことなく有効活用することで地球環境への負荷を低減するなど、サステナビリティへの取り組みを進めています。また食育活動を通じ鶏卵の魅力を伝える活動も行っています。

＜ 卵の100%有効活用

＜ 卵の有効活用

持続可能な野菜の調達

キューピーグループでは、主に国産野菜を原料としてサラダ・惣菜を提供しています。そのため野菜の原料調達は事業継続において重要と認識しています。持続可能なキューピーグループの野菜調達と調達先の持続的成長・発展をめざすために生産者の皆様とコミュニケーションを図りながら進めていきます。

取り組みについて

循環型農業の構築

サラダクラブでは、パッケージサラダを製造する際に直営7工場で発生する野菜の外葉や芯などの未利用部を堆肥の原料や飼料として契約農家などで活用いただく取り組みを行っています。

契約農家にとっても、安価な国産堆肥が手に入るとともに、有機堆肥の使用は地球環境負荷を最低限にできるメリットもあります。野菜未利用部で作られた堆肥を使って野菜を栽培し、商品を製造することで資源を無駄にしない循環プロセスを構築することができ、「野菜廃棄物ゼロ化」につながっています。



契約産地での堆肥散布の様子

サラダクラブによる産地表彰式

サラダクラブで取り扱う野菜は、生産者との顔が見える関係を基本に、全国約400の契約産地との「契約取引」で調達しています。「契約取引」は、一定価格で安定した原料調達が行えるだけでなく、生産者にとっては、安定的な収入を基盤に戦略的投資が行えるというメリットがあります。

安全・安心な原料の調達の一環として、圃場に工場メンバーや原資材メンバーが定期的に訪問しています。また生産者には工場見学への参加、他には収穫応援や工場研修、バーベキューの開催など積極的に産地農家との交流を図っています。

毎年4月には、生産者の皆さまに感謝の想いを伝えることを目的に「Grower of Salad Club（グロワー・オブ・サラダクラブ）」として契約産地を表彰しています。主要原料を対象に品位の評価を行い、契約産地の中から「最優秀賞」「優秀賞」「特別賞」として表彰しています。

一方で生産者をパートナーとして循環型農業の構築も行っています。パッケージサラダの製造過程で発生する野菜未利用部を工場内で飼料や堆肥の原料にし、堆肥は農産地で使用してもらうなど、つながりを広げています。



持続可能なパーム油の調達

パーム油は熱帯地域で栽培されるアブラヤシから得られる植物油ですが、その農場を開発するための熱帯林の大規模な伐採や、農場労働者の人権などで課題があることが指摘されています。

こうした問題がある原料を使わないようにするために、また課題の解決に貢献するために、キューピーグループは、2018年1月に策定した「キューピーグループの持続可能な調達のための基本方針」に基づき、2018年7月、RSPO（持続可能なパーム油のための円卓会議）に加盟し、今後、弊社グループの持続可能なパーム油の調達に取り組んでいきます。

取り組みについて

2019年にキューピーグループで調達するパーム油についてRSPOのブックアンドクレーム方式※1による認証クレジットの購入を開始しました。2022年にはキューピーグループで調達するパーム油100%である原料すべてにおいてブックアンドクレーム方式への切り替えを完了しています。あわせてマスマランス方式※2でのパーム油の受け入れの認証を取得しています。

※1 ブックアンドクレーム方式

RSPOにより認証された生産者が生産した認証油に、認証クレジット（証券）を発行。
その認証クレジットを購入することで、認証パーム油の生産者を支援する仕組み。

※2 マスマランス方式

認証パーム油が製造・流通過程で他の非認証パーム油と混合される認証モデル。
物理的には非認証油も含んでいるが、認証農園から供給された認証パーム油の量は保証される。

＜ ESGデータ集

持続可能な紙の調達

キューピーは、2023年12月にキューピーグループ 紙調達ガイドラインを策定し、基準・目標を設定しました。原料調達過程で新規の森林破壊に関与せず、原木生産地の法令および国際的な人権基準を守り、適切な手続きによって生産された事業者より紙・紙製品を調達することに取り組みます。

そのため、森林認証紙（FSC®認証※など）を基本に、再生紙、また取引先によって新規の森林破壊や人権侵害への関与がない原材料から作られていることを確認した紙・紙製品の調達をめざします。

※ 責任ある管理をされた森林と、限りある森林資源を将来にわたって使い続けられるよう適切に調達された林産物に対する国際森林認証制度。

 [キューピーグループ 紙調達ガイドライン \(217KB\)](#)

＜ サステナビリティ目標

＜ 生物多様性の保全

取り組みについて

FSC認証紙などの持続可能な紙の調達と使用

キューピーグループは、容器包材、印刷冊子、販促物、事務用品などで、FSC®などの森林認証を受けた紙をはじめとした持続可能な紙の調達と使用を推進しています。

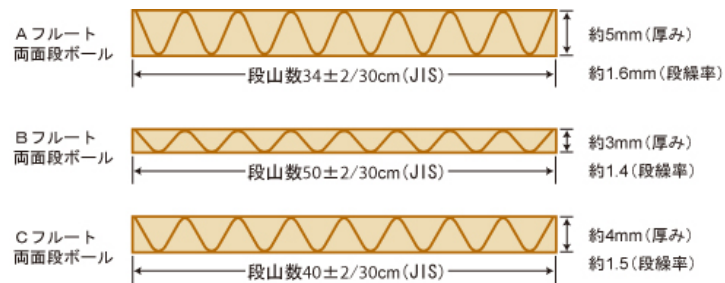
2025年度までにグループ全体で対象となる容器包材、印刷冊子、販促物、事務用品において、持続可能な紙の調達率100%をめざしています。



キューピー ベビーフード
にこにこボックスシリーズ
(FSC® N002978)

段ボール構造の工夫

段ボール構造を工夫し強度を維持しながら薄くすることで紙使用量の削減を進めています。



パレット積付け方式の工夫

主力のマヨネーズ商品において、輸送時のパレット積付け方式の変更を行いました。段ボールの特性を生かした積付け方式を採用することで材質低減を進め、古紙材料削減による環境負荷低減を実現しました。



パッケージの省資源の取り組み

アヲハタでは、55ジャムUD150シリーズ・カロリーハーフシリーズに「シェルフレディーパッケージ」を採用し、年間約51トンのカートン削減に加え、2022年には、ヴェルデトーストスプレッドシリーズに使用するカートンのライナー※を変更し、従来の強度を保ったままカートンの軽量化とカートン製造時のCO₂排出量削減を実現しました。

2024年度年間使用枚数	210,000枚
軽減重量	3,800kg/年
カートン製造時CO ₂ 削減量	2,800kg/年

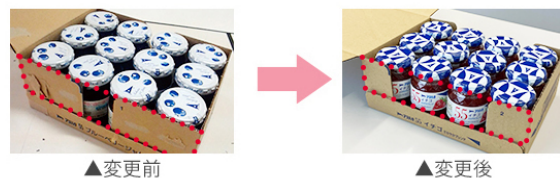
※ ライナーとは、段ボールの表面・裏面に使用される段ボール原紙

カートン形状の工夫

「アヲハタ 5 5 ジャム」(小容量) カートン※

カートンのフラップ寸法の変更を行い、省資源化を進めました。

※ 2015年から開始



同時に、簡単に開封・陳列できる「パカッとカートン」を採用し、店頭での作業改善を行いました。



アヲハタによる果実生産者との取り組み

キューピーグループで使用する果実の原料産地は、時代とともに世界各地に広がっています。

「農産加工品の美味しさは、その原料によって7割が決まる」という考え方にに基づき、生産者との信頼関係構築と、栽培技術の研究を進めながら高品質原料の安定確保に努めています。

＜アヲハタ　社会・環境への取り組み＞ [📄](#)

アニマルウェルフェアに関する考え方と取り組み

基本的な考え方

キューピーグループは、品質や環境に及ぼす影響や人権への配慮とともに、採卵鶏のアニマルウェルフェアを持続可能な鶏卵の生産や調達における重要課題と認識しています。

キューピーグループは、国際獣疫事務局（WOAH）が示したアニマルウェルフェアの基本原則「5つの自由」※に賛同し、その原則に沿った採卵鶏の飼養が重要であると考えます。また、鶏卵をビジネスの源として利用しているからこそ、採卵鶏の命の尊厳についても適切な配慮をするべきであると考えます。

※アニマルウェルフェアの基本原則「5つの自由」

- ・ 飢え、渇きおよび栄養不良からの自由
- ・ 恐怖および苦悩からの自由
- ・ 物理的、熱の不快さからの自由
- ・ 苦痛、傷害および疾病からの自由
- ・ 正常な行動様式を発現する自由

取り組みについて

日本国内でキューピーグループが調達している鶏卵は、農林水産省が普及に努める『アニマルウェルフェアの考え方に対応した採卵鶏の飼養管理指針』※¹に即して飼養された鶏の卵であることを確認しています。

また、農林水産省が制定した『採卵鶏の飼養管理に関する技術的な指針』※²への準拠状況を確認していきます。日本における持続可能な採卵鶏の飼養管理のあり方を行政や養鶏に関わるサプライチェーンのパートナー、ならびに学識経験者・有識者、NGO・NPOなどの関係者と議論・連携しながら、キューピーグループにおけるアニマルウェルフェア向上への取り組みを進めています。

また、海外においては各国・地域の基準や社会環境に即して飼養された鶏卵の調達を行っています。

なお、キューピーグループが調達する鶏卵以外の畜産物については、農林水産省が制定した畜種毎の『飼養管理等に関する技術的な指針』を参考にしながら、アニマルウェルフェアに配慮された飼養状況の確認を着実に進めていきます。

ケージフリー飼養への取り組みについて

キューピーグループは、卵を大切な食材として考えている企業として、ケージフリー飼養※³卵の生産を拡大する必要性を感じています。そのため、今後、国内の養鶏事業者を支援するとともに、その普及に努め、市場づくりと拡大にも取り組んでいきます。

海外においても採卵鶏のアニマルウェルフェアの重要性を認識するとともに、各国・地域の基準や社会環境に即して飼養された鶏卵の調達を行い、各事業地域においてお客様のご要望にお応えする商品の提供を目標としています。

取り組みの目標について

2030年までに国内で製造販売するキューピー マヨネーズに使用する卵の20%にあたる量の国内のケージフリー飼養卵を調達し、ケージフリー飼養の拡大を支援していくとともに、市場づくりと拡大にも取り組んでいきます。

米国では調達・使用する鶏卵を、2025年までにケージフリー飼養卵に切り替えることを目標としており、2022年にこの目標を達成しています。

＜米国での鶏卵調達の取り組み＞

また欧州では、キューピーブランド商品の製造に用いる鶏卵を2025年までにケージフリー飼養卵に切り替えるという目標を設定しました。

＜欧州での鶏卵調達の取り組み＞

なお、アジア地域においてもケージフリー卵の調達拡大をめざしますが、調達が難しい地域においては、ケージフリー卵の調達改善に向けた代替策（認証クレジットの活用を含む）も検討していきます。

これらの取り組みを通じて、グローバルで製造販売しているキューピー マヨネーズのケージフリー飼養卵の使用率を、2023年度末の3%から2027年までに10%に引き上げることを目標（2024年5月31日公表）としており、今後数年以内に2030年に向けた目標を設定する考えです。

アニマルウェルフェアの推進に向けて、キューピーグループは継続的な取り組み、透明性ある情報開示、サプライチェーンとの連携を積極的に進める考えです。

2024年度の取り組みの状況 (61KB)

また、当社が加盟する業界団体である「全国マヨネーズ・ドレッシング類協会」が制定した「採卵鶏のアニマルウェルフェアについての協会の考え方と取組方針」に賛同するとともに、この取り組みに積極的に参画する考えです。

＜全国マヨネーズ・ドレッシング類協会 採卵鶏のアニマルウェルフェアについての協会の考え方と取組方針＞

※1 公益社団法人 畜産技術協会による『アニマルウェルフェアの考え方に対応した採卵鶏の飼養管理指針』第5版（令和2年3月）

※2 農林水産省制定 令和5年7月26日付け5畜産第1066号『採卵鶏の飼養管理に関する技術的な指針』

※3 いわゆる平飼いなどの飼養方法

なお、『国際獣疫事務局の陸生動物衛生規約におけるアニマルウェルフェアの国際基準を踏まえた家畜の飼養管理の推進について』（農林水産省畜産局長通知 5畜産第1062号 令和5年7月26日）の『1. (2) アニマルウェルフェアの考え方に対応した飼養管理における一般原則』では、家畜の飼養者がアニマルウェルフェアの原則である「5つの自由」を理解し、日々の観察や記録、丁寧な取扱い、良質な飼料や水の給与等の適正な飼養管理により、弛まぬ努力と改善を行うことであり、特定の施設や設備を整備することのみで達成されるものではないことを関係者が十分認識し、その推進を図っていく必要がある、とされています。

サステナビリティ

サステナビリティトップ >

トップメッセージ >

サステナビリティ
マネジメント +

資源の有効活用・循環 +

気候変動への対応 +

生物多様性の保全 +

食と健康への貢献 +

持続可能な調達 +

人権の尊重 -

人権尊重への取り組み >

多様な人材の活躍 >

健康経営・労働安全衛生 >

ガバナンス +

安全・安心 +

開示方針 >

各種報告書 >

対照表 >

ESGデータ集 >

各種方針 >

イニシアチブ・加盟団体 >

社会・環境活動の歴史 >

キューピーグループ
オフィシャルブログ >

グループ各社の >

人権の尊重

私たちは、「楽業偕悦」の実践のために、キューピーグループに関わるすべての人の人権を尊重します。持続的成長を実現する体質への転換に向け、新たな事業の枠組みに合わせたグループ人材の流動化の促進や、学びの場の拡大、キャリア意識の醸成などを通して、一人ひとりの経験やスキルの向上を図り多様な人材が活躍できる仕組みづくりを進めていきます。また、それぞれの視点やノウハウを生かすことで、社会環境の変化やリスクへの対応力を高めるとともに、従業員が健康でやりがいを持って働けるよう、キューピーグループの総合力強化に取り組んでいきます。



サステナビリティ目標

重点課題	取り組みテーマ	指標	2030年度目標
人権の尊重	人権の尊重	ビジネスに関わるすべての人の人権を尊重するために「キューピーグループ 人権方針」を推進	



人権尊重への取り組み

国際社会の一員として、差別やハラスメント行為を決して行わず人権を尊重しています。



多様な人材の活躍

多様な人材が、やりがいや誇りを持って活躍することを大切にし、ダイバーシティの推進をはじめとした取り組みを行っています。



健康経営・労働安全衛生

キューピーグループで働く一人ひとりの健康と安全のため、さまざまな取り組みを推進しています。

サステナビリティ

サステナビリティトップ	➤
トップメッセージ	➤
サステナビリティ マネジメント	+
資源の有効活用・循環	+
気候変動への対応	+
生物多様性の保全	+
食と健康への貢献	+
持続可能な調達	+
人権の尊重	-
人権尊重への取り組み	➤
多様な人材の活躍	➤
健康経営・労働安全衛生	➤
ガバナンス	+
安全・安心	+
開示方針	➤
各種報告書	➤
対照表	➤
ESGデータ集	➤
各種方針	➤
イニシアチブ・加盟団体	➤
社会・環境活動の歴史	➤
キューピーグループ オフィシャルブログ	➤
グループ各社の	➤

人権尊重への取り組み

- キューピーグループ 人権方針
- 人権マネジメント体制
- 人権デューデリジェンスプロセスの実行
- 従業員への取り組み
- サプライヤーへの取り組み

キューピーグループ 人権方針

私たちは、事業活動のすべての過程で、直接または間接的に人権に影響を及ぼす可能性があることを認識し、ビジネスに関わる全ての人の人権を尊重するために、「キューピーグループ人権方針」を定めます。

社是である「**楽業偕悦**」の実践には、人権の尊重が不可欠です。キューピーグループで働く役員および従業員は、人権への負の影響を引き起こすことがないように、または間接的に加担することがないように責任を持って行動し、それぞれが働きがいを持って安心して働けるよう努めます。そして、サプライヤーなどビジネスパートナーに対しても本方針の遵守を期待し、働きかけます。

 [キューピーグループ人権方針 \(367KB\)](#)

2021年制定、2025年改訂

人権マネジメント体制

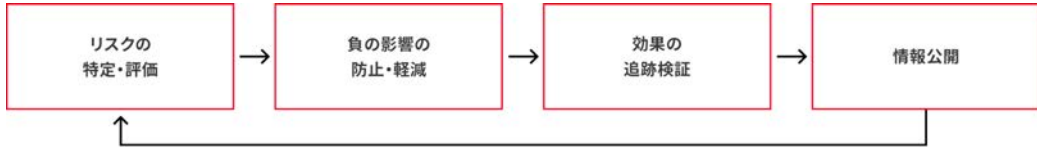
キューピーグループのバリューチェーンでの幅広い人権リスクに向き合うために、サステナビリティ重点課題に「人権の尊重」を掲げ取り組んでいます。

抽出された人権リスクについては、サステナビリティ委員会にて取り上げ、関連する委員会や部門と連携し、対応策の計画や実施を行っています。

また内部統制システムの中に違反行為の発見と是正のための通報・相談窓口「ヘルプライン」を設置しています。違反行為があれば担当部門との協議の上、再発防止策を実施します。

人権デューデリジェンスプロセスの実行

キューピーグループのバリューチェーンに関わる幅広い人権リスクに向き合うための実行プロセスとして、人権デューデリジェンスの枠組みに沿って取り組んでいます。



特定された人権リスクのうち、対象をグループ従業員やサプライヤーにおけるものを項目として、それぞれの是正に向けて取り組むこととしました。

2023年に実施した重要人権リスク評価のプロジェクト内で、人権に関する国際基準やヒアリングなどを通じて得られた情報に基づき、外部専門家により特に重要と判断されたリスクは以下のとおりです。なお、今回の評価結果をふまえつつ、引き続き状況確認や評価のアップデートを行っていく予定です。

キューピーグループの特に注意すべき重要人権リスクと防止・軽減に向けた対応

重要な人権リスク	対象				キューピーグループにおける対応
	自社従業員	一次サプライヤー	原材料生産者	顧客・消費者	
労働安全衛生	●	●			＞労働安全衛生への取り組み
強制労働	●	●	●		＞人権尊重への取り組み
児童労働	●	●	●		＞人権尊重への取り組み
ハラスメント	●	●			＞人権尊重への取り組み
長時間労働・過重労働	●				・日々の時間管理の徹底 ・注意喚起と啓発
製品の欠陥による健康・安全の侵害				●	＞製造工程の品質

従業員への取り組み

さまざまな方が働いている環境であることから、従業員一人ひとりが人権を尊重し、差別やハラスメント行わない職場環境の実現をめざしています。コンプライアンスに対する理解・意識状況の把握、働くことへの満足度および企業の社会的責任に関する考えの確認を目的とした全従業員を対象の「従業員意識調査」を2年毎に実施しています。アンケート結果を従業員にフィードバックするとともに、人権侵害の有無やコンプライアンスを浸透・徹底させる上での課題を把握し、従業員の啓発活動や研修などに反映させています。

ヘルプラインの運用

- ・ 2024年度のヘルプラインへの通報・相談件数は33件でした。
- ・ 内容はハラスメントに関わる通報・相談が多く、他には職場の対応不備などに関するものがありました。
会計や品質などの不正に関するものはありませんでした。

- ・ 対応は、事実関係の調査を行い、違反行為があれば処分を行うとともに、再発防止策を担当部門と協議し、実施します。違反行為とは認められないものの、言動や対応に不適切な部分があると判断される場合は、注意指導などにより是正をはかり、職場の環境改善につなげます。
- ・ 通報者保護の観点では、通報者に対する詮索・追及・報復を禁止しています。通報者に一定期間後に報復確認を行ない、不利益が発生していないか確認し、適切な運用を進めています。

[> ESGデータ集](#)

サプライヤーへの取り組み

キューピーグループは「良い商品は、良い原料からしか生まれない」という原料に対する強いこだわりを持っています。しかし今や品質だけではなく、サプライチェーンでの環境や人権に配慮する必要があるとし、このことをお取引先と一緒に取り組むとしています。

「キューピーグループ 持続可能な調達のための基本方針」のもと、お取引先に向けたガイドラインとして、「キューピーグループ サプライヤーガイドライン」を策定しました。今後は、サプライヤーへのアンケート実施、引き続きのコミュニケーションを通じて、サプライチェーンでの人権リスク低減に努めます。

[> 持続可能な調達の推進](#)

 [キューピーグループ サプライヤーガイドライン \(655KB\)](#)

サステナビリティ

サステナビリティトップ	➤
トップメッセージ	➤
サステナビリティ マネジメント	+
資源の有効活用・循環	+
気候変動への対応	+
生物多様性の保全	+
食と健康への貢献	+
持続可能な調達	+
人権の尊重	-
人権尊重への取り組み	➤
多様な人材の活躍	➤
健康経営・労働安全衛生	➤
ガバナンス	+
安全・安心	+
開示方針	➤
各種報告書	➤
対照表	➤
ESGデータ集	➤
各種方針	➤
イニシアチブ・加盟団体	➤
社会・環境活動の歴史	➤
キューピーグループ オフィシャルブログ	➤
グループ各社の	➤

多様な人材の活躍

ダイバーシティ、エクイティ & インクルージョンへの取り組み ● 人材育成への取り組み ●

フレキシブルな働き方への取り組み ●

ダイバーシティ、エクイティ & インクルージョンへの取り組み

キューピーグループにおけるダイバーシティ、エクイティ & インクルージョンの考え方

キューピーグループでは、ダイバーシティ、エクイティ & インクルージョン (DE&I) を人的資本経営の重要な戦略の一つと位置づけ、すべての従業員の多様な価値観と能力を生かすことで、グループの持続的成長と社会貢献の実現をめざしています。この方針のもと、従業員同士の対話を大切にするとともに、DE&Iを理解し体感できる機会づくり、多様な従業員の活躍につながる場づくり、成長実感を持てるキャリアや学びのしくみづくりを進めています。人的資本の価値を最大化するために、グループの従業員一人ひとりの個性と成長意欲を尊重し、能力を最大限に発揮できる企業風土の醸成に取り組んでいます。

新たな価値を創出する企業風土の醸成

従業員一人ひとりの多様な視点・能力・スキルが新たな価値を生み、グループ全体の成長につながるよう、DE&Iを推進していきます。心理的安全性が高く、目標にむかってチャレンジしやすい風土づくりに努めます。

多様な人材の活躍

個々のスキルや経験を多様化するため、グループ内で人材交流を行っています。またキャリア採用者を積極的に登用し、外からの新たな視点を取り入れています。

アンケートの実施

毎年、ダイバーシティ・エンゲージメントアンケートを実施し、従業員の意識調査を行っています。調査結果は各社・組織にフィードバックされ、人材の活躍とより良い組織風土の醸成に活用されています。

セミナーや勉強会の実施

グループ従業員が参加できるセミナーや勉強会を通じて、ダイバーシティ推進の加速化を図っています。2024年には渋谷と仙川でユニバーサルマナー検定を実施し、約150名の従業員が多様な人々と向き合うためのマインドとアクションを学びました。

多様な人材が重要な意思決定の場に参画

重要会議に参加するメンバーの20%以上を多様な人材 (年代・性別・スキル・キャリア) から構成し、これまでと異なる視点から意見を引き出し、議論の活性化を図る取り組み「KEEP20」を展開しています。従来の参加メンバーにとっては新たな気づきが得られ、多様な参加メンバーにとっては、経営情報や事業判断に触れる学びの機会となっています。

グループ従業員一人ひとりの能力の発揮のために

女性従業員の活躍に向けて

2024年度のグループ女性管理職比率は、キュービー単体で15.9%、グループ全体(海外を含む)で、20.3%です。2030にはキュービー単体、グループ全体ともに女性管理職の割合が30%となることをめざしています。キュービーグループでは女性従業員が約半数を占めており、今後、女性の活躍がますます重要となります。転居を伴わない総合職制度の活用や、地域職から総合職への転換などを進めていくとともに、意欲と実力のある女性従業員がしっかり評価され、活躍できる環境づくりにも力を入れていきます。

人材活躍の重要指数	2024年度 実績	2030年 目標
女性管理職比率 (キュービー単体)	15.9%	30%

障がい者雇用の考え方

キュービーグループでは、障がいのあるなしに関わらず、一人ひとりの能力や個性を大切に、働く喜びややりがいを実感できる環境づくりをめざしています。
こうした考え方のもと、障がい者雇用においてはグループ適用を行わず、キュービー単体、キュービーあい(特例子会社)を含むそれぞれが各地域で雇用を行うことで、地域社会での多様な雇用創出につなげています。

障がい者雇用率の推移(2024年6月1日現在)

2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
3.59%	3.72%	3.78%	3.66%	3.74%

グループ各社における取り組み

キュービーあい(特例子会社)では、館内物流をはじめ、清掃業務や販促物の作成・発送など多岐にわたる業務を担当しており、障がい者雇用率は3.05%(キュービー単体+キュービーあい:2024年6月1日現在)となっています。
また、障がい者の雇用、定着支援に留まらず、地域や社会への貢献も積極的に取り組んでいます。具体的には、障がい者就労に向けた実習の受け入れや小学校のユニバーサルデザイン授業への講師派遣、特別支援学級での交流や会社見学を行っています。
グループ各社でも、工場を中心に積極的に障がい者雇用を行っており、グループ全体での障がい者雇用率は3.74%となっています。

人材育成への取り組み

人材育成の考え方

キューピーグループでは、人材育成の考え方を示す方針として、「一人ひとりの生き方と向き合い、自己実現への挑戦を成長の原動力とする」という人材ポリシーを掲げています。

一人ひとりが主役としてお互いの生き方を尊重し、仕事を通じた自己実現に挑戦することを応援する為に、以下のような、各種キャリア支援制度、専門研修、自己啓発プログラムの拡充を進めています。

- 1.セルフ・キャリアドック
- 2.キャリア自己申告制度・社内公募制度
- 3.自律的な学び(スキル研修、自己啓発支援)の拡充

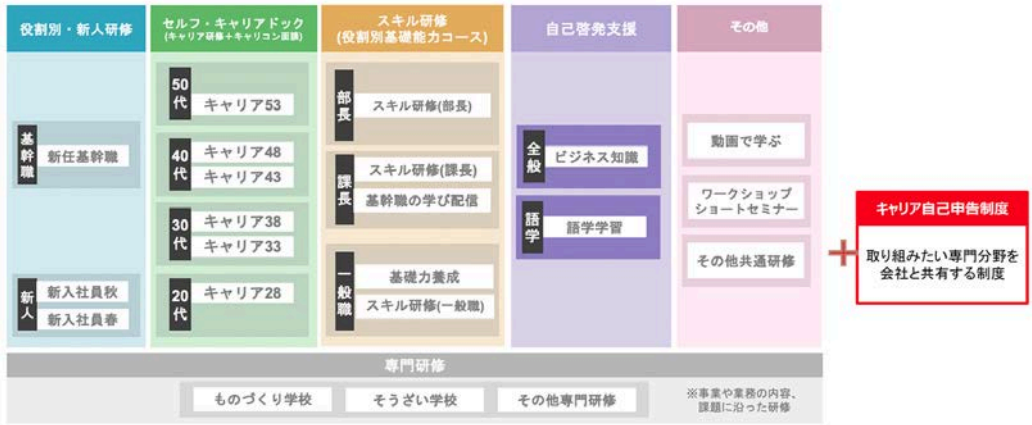
大切な上司・部下とのキャリアに関する面談をより充実させるため、2024年度から「セルフ・キャリアドック」を導入しました。「キャリア研修」と外部の国家資格保有者との「キャリアコンサルティング面談」を通じて、自身のキャリアパスとしっかり向き合える仕組みとして運用しています。

また、これにより描いた自身のありたい姿やキャリアパスの希望については、「キャリア自己申告制度」や「社内公募制度」にて会社に申告できる制度なども活用できます。

さらに、描いたキャリアパスを実現するため、「自律的な学び」の大きな拡充を進めています。具体的には、役割に応じて必要となる基本的なスキルが学べる「スキル研修」を体系化し、自身にとって必要なものから自律的に継続的に学べる環境を提供しています。

あわせて、一人ひとりの自己実現を応援する「自己啓発支援」コンテンツもますます拡充していきます。

これらの取り組みを通じて、人材ポリシーを実現するとともに、多様な人材の最高のパフォーマンス発揮と、エンゲージメントの向上に向けた人材育成に取り組んでいます。



キューピーキャリア支援体系図

褒賞制度

キューピーグループでは従業員が積極的に挑戦し学習することの支援や会社の将来への提言を推奨することを目的に社長賞をはじめとする各種褒賞制度を設けています。

社長賞

グループの技術や一人ひとりの創意工夫により成果・社会貢献を果たした際に表彰する制度です。社長賞を通してキューピーグループならではの文化を作っていくことを目的としています。

発明賞

会社に大きく貢献した特許や社会貢献につながる特許を取得した際に表彰しています。

論文賞

従業員が世の中の変化や日頃感じている課題を通して会社の将来に対して提言するものです。論文の執筆を通じた自己研鑽も目的としており、50年以上続く伝統ある制度です。

資格褒賞制度

自発的に学ぶ風土づくりや一人ひとりのキャリア支援の一つとして、資格褒賞制度を設けています。従業員の学びを支援するとともに、会社として特に力を入れて推奨していく資格を伝えることで、従業員と会社が共に成長することをめざしています。

新たな挑戦に向けた取り組み

キュービーグループは、マヨネーズやドレッシング、さらには卵や野菜まで、幅広い研究開発を推進するとともに、イノベーションを創出する制度を設けるなど、新たな挑戦に向けた取り組みを積極的に行っています。外部の力も活用しながらグループ協働で新たな価値を創造し、ステークホルダーの皆様の期待に応えていきます。

Kewpie Startup Program

従業員一人ひとりのアイデアの実現と新たな事業の創出に向け、社内公募制度「Kewpie Startup Program」を設けています。プログラム参加者は、部門の枠を超えたメンターとのネットワークを築ことができ、スキルアップ・キャリアアップへとつながっています。



「Kewpie Startup Program」発のアイデア

ビジネスモデル	内容
酢酸菌酵素を配合したサプリメント	ビジネスモデル公募制度の第一号商品。キュービーグループ独自の醸造技術により世界初の大量生産を実現した、酢酸菌由来の酵素(アルコール分解酵素、アルデヒド分解酵素)を配合したサプリメント。 ※ 商品名: よいときOne
酢酸菌GK-1を配合した機能性表示食品	酢酸菌GK-1とGABAを配合したサプリメント。 酢酸菌GK-1は、「花粉、ホコリ、ハウスダストなどによる鼻の不快感の軽減」と「免疫機能の維持」という2つの機能が報告されています。 機能性表示食品として、この2つの機能が受理された日本初のサプリメント。 ※ 商品名: ディアレプラス
GABAポテトサラダ	惣菜業界で初となる機能性表示食品の惣菜シリーズ「カラダ想いメニュー」。 血圧が高めの方の血圧を低下させる機能があることが報告されているGABAを配合し「血圧が高めの方に」と表示することで、血圧が高めで気にしている人はもちろん、健康意識の高い人のためのサラダです。
> 深谷テラス ヤサイな仲間たちファーム	埼玉県深谷市にて、「野菜にときめく、好きになる!みんなの笑顔を育むファーム」をコンセプトとする複合型施設を運営



「Kewpie Startup Program」から生まれた商品



深谷テラスヤサイな仲間たちファーム 収穫体験の様子

フレキシブルな働き方への取り組み

働き方についての考え方

キューピーグループでは、従業員がさまざまなライフステージや状況に合わせて働き続けるとともに、最適な形で一人ひとりがその能力を発揮できるように、フレキシブルな働き方を整えることで、個々の成長と活躍を積極的に支援しています。

フレキシブルな働き方についての取り組み

コアタイムのないフレックスタイム制度や、在宅勤務、サテライトオフィスを活用し、時間と場所に捉われず、個々の役割や仕事の特性に合わせて、働き方を柔軟に選択しながら生産性を追求できる就労環境を用意しています。

時短勤務者に対してもフレックス制度を利用可能とし、仕事と育児を両立しやすい環境を整えています。

出産・育児支援の取り組み

育児休業中の従業員に育児支援サイトを使って定期的に会社の情報を発信しています。また復帰前には上司との面談を実施し、復帰後の働き方やキャリア形成について共有するとともに、上司から活躍への期待を伝えるようにしています。

上司には、育児復帰者に関する会社の各種制度やアンコンシャス・バイアスなどマネジメントに関する必要な知識をオンラインコンテンツを通して学習してもらい、復帰者のフォローが出来るようにサポートしています。

また、お子さまが生まれた男性社員とその上司に個別で育児休業取得を案内をするなど、男性従業員の育児休業取得を促進しており、2024年度の男性育休取得率は80.8%になりました。



育児休業のしおり

従業員パパのための離乳食教室

2022年に渋谷、仙川で勤務されているグループ従業員を対象に「パパのための離乳食教室」を開催しました。

離乳食「初期コース」と「中後期コース」から選べ、離乳食の基本知識を学ぶ座学、離乳食づくりの実践、試食、参加者同士の交流という内容となっています。

参加者からは「家に持ち帰って活用できる情報が多かった」「父親の育児参加を促す後押しになる」などの声がありました。

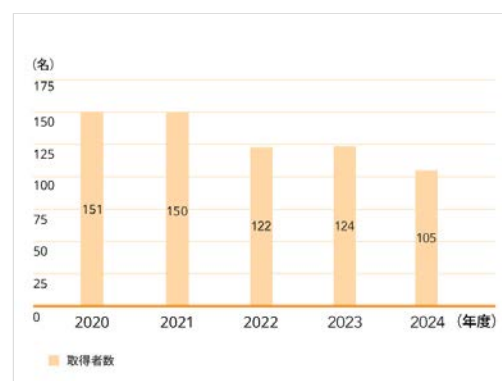


参加した従業員パパの様子

育児休業取得状況

女性従業員

- ・ 当年に育児休業を取得している人数
(対象: キューピー単体)



男性従業員

- ・ 取得者数: 子どもが生まれて2歳になるまでに取得した人数
- ・ 取得割合: 子どもが生まれた年に育児休業を取得した比率
(対象: キューピー単体)



> ESGデータ集

サステナビリティ

サステナビリティトップ	➤
トップメッセージ	➤
サステナビリティ マネジメント	+
資源の有効活用・循環	+
気候変動への対応	+
生物多様性の保全	+
食と健康への貢献	+
持続可能な調達	+
人権の尊重	-
人権尊重への取り組み	➤
多様な人材の活躍	➤
健康経営・労働安全衛生	➤
ガバナンス	+
安全・安心	+
開示方針	➤
各種報告書	➤
対照表	➤
ESGデータ集	➤
各種方針	➤
イニシアチブ・加盟団体	➤
社会・環境活動の歴史	➤
キューピーグループ オフィシャルブログ	➤
グループ各社の	➤

健康経営・労働安全衛生

健康経営への取り組み

労働安全衛生への取り組み

健康経営への取り組み

キューピーグループ健康宣言

私たちキューピーグループは、「おいしさ・やさしさ・ユニークさ」を大切に、世界中の人々の健やかな生活を食の面から支える企業であり続けるために、サラダとタマゴを中心とした食に関わるさまざまな取り組みを通じて、健康寿命の延伸や子どもの心と体の健康を応援してまいりました。

世界の人々の食と健康に貢献し続けるための原動力となるのは従業員一人ひとりの力です。

高い志をもつ社員の皆さん一人ひとりが会社の大切な財産であり、皆さんが健康で生き活きと働き続けられることが、キューピーグループのさらなる成長・発展につながると考えています。

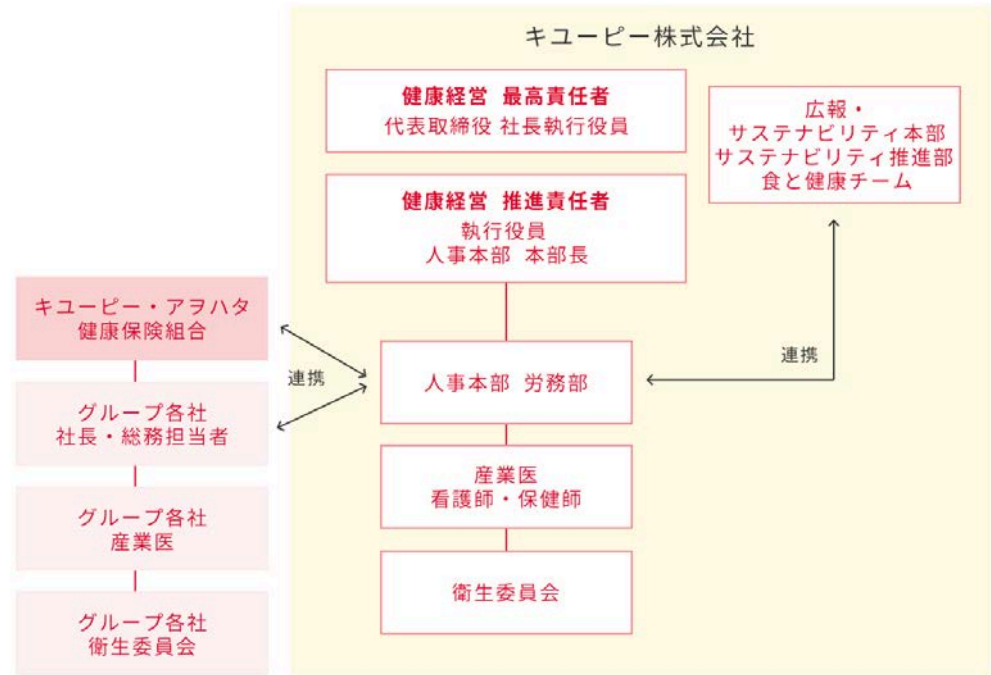
今後もグループ全体で「健康経営」を推進し、社員の皆さんとご家族が仕事と私生活の両面で豊かで充実した人生を送ることができるよう、食を通じて健康になることに真剣に向き合いながら、継続的な支援を行っていきます

健康経営推進 最高責任者
代表取締役 社長執行役員 高宮 満

➤ 社外からの評価

健康経営 推進体制





健康経営戦略マップ

健康投資		健康投資効果			健康経営で 解決したい 経営課題
		健康投資施策の取り 組み状況に関する指標	従業員などの意識変容・ 行動変容に関する指標	健康関連の 最終的な目標指標	
健康	フィジカル 定期健康診断 がん検診 健康年齢通知	定期健康診断受診者数 がん検診受診者数 産業医セミナー参加率 健康年齢の推移	健康年齢の改善 特定保健指導対象者数の減少 がん検診受診率の向上	セルフケアの向上 生産性の向上 プレゼンティーズム アブセンティーズムの改善 ワークエンゲージ メントの向上	企業価値の向上 健康寿命の延伸
	メンタル ストレスチェック	ストレスチェック受検者数 メンタルセミナー参加率 休職率	高ストレス者の減少 メンタル疾患患者の減少 休職率の低下		
生活習慣	食生活改善	イベント参加事業所数 イベント参加率	野菜・タマゴ摂取量増加 運動習慣のある従業員の 割合の向上 喫煙率の低下		
	運動習慣づくり 禁煙対策	セミナー参加率 ヘルスアップキャンペーン 参加 卒煙達成者数			
システム	SOULA Pie			ワークエンゲージ メントの向上	
	Pep Up	参加率・利用率	参加率・利用率の増加		
働き方	HDB(健康管理システム)			ワークエンゲージ メントの向上	
	1ON1	1ON1実施率	実施率・利用率の増加		
	休暇制度	休暇取得率	従業員満足度調査結果改善		

健康課題に対する重点施策

生活習慣の改善

食と運動を通じて、生活習慣病の一次予防の支援をします。

「食」・・・社内食堂を通じてサラダとタマゴの摂取を後押しおよび情報発信。

「運動」・・・毎日のラジオ体操および独自のトレーニング、各種イベントの実施。

がん検診受診率向上

「早期発見・早期治療」を目的とし、社内でのがん検診の実施・がん検診休暇の付与、定期健康診断とがん検診の同日受診など、職域におけるがん検診の受診率向上を推進します。

メンタル対策

精神科産業医と連動し、従業員が心の健康を保ち、いきいきと働ける職場環境づくりを推進します。

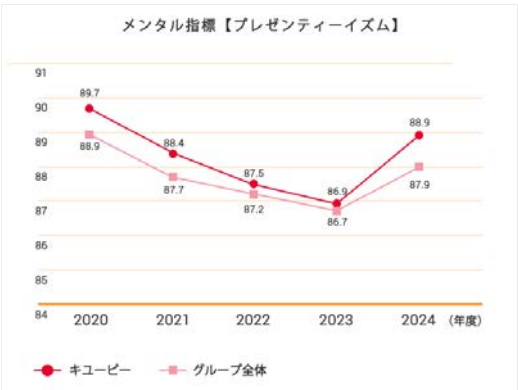
グループ共通健康指標「心と体の総合指標」

従業員や会社の「心と体」の健康状態を独自の共通指標によって「見える化」することで、健康に対して意識改革を促す取り組みを進めています。具体的には、「メンタル指標(プレゼンティーズム)」「健康年齢」について、組織の状態を上長にもフィードバックすることで、生活習慣・働き方や職場環境をより良くしていく活動につなげています。

メンタル指標(プレゼンティーズム・アブセンティーズム)

ストレスチェックの結果から職場のストレスの状態を4段階(良好・要注意・高ストレス・スーパーレッド)に分け配点、各段階の人数比を掛け合わせて点数化しています。(キュービーグループ独自のプレゼンティーズム指標:全員が良好であれば100)

プレゼンティーズム



※キュービーグループ
中董グループ(中島董商店、トウ・ソリューションズ、nakato)およびキュービー単体の海外駐在員、外部出向、キュービー・アヲハタ健康保険組合を除く

アブセンティーズム

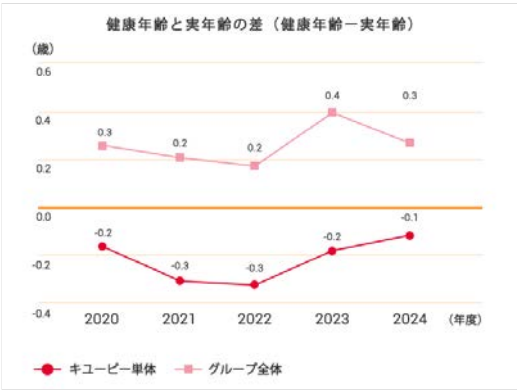
傷病休職制度利用日数の期末人員平均です。

2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
1.38	0.68	0.65	1.03	1.28

※キュービー社員

健康年齢

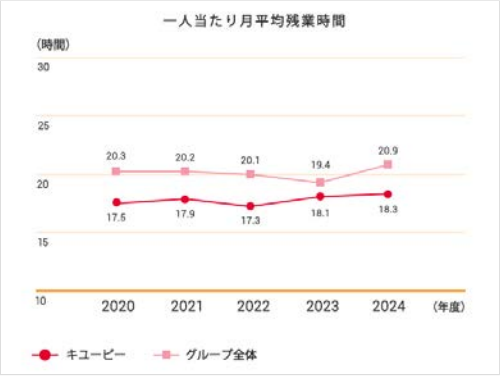
健康診断の結果から算出される年齢と実際の年齢との差を表します。(健康年齢は株式会社JMD Cの登録商標)



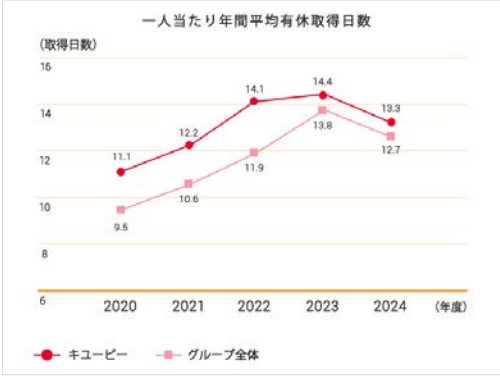
※キユービーグループ
中董グループ(中島董商店、トウ・ソリューションズ、n a k a t o)およびキユービー単体の海外駐在員、外部出向、キユービー・アヲハタ健康保険組合を除く

グループ一般指標

働き方の指標

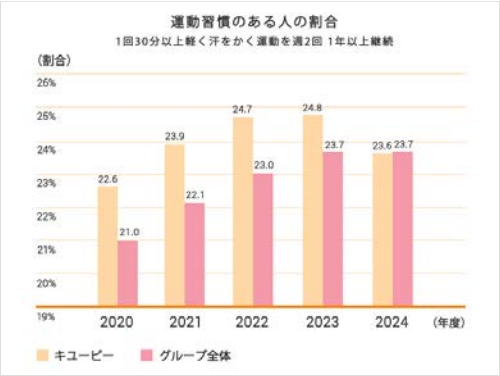


※キユービーグループ(国内食品事業のみ)

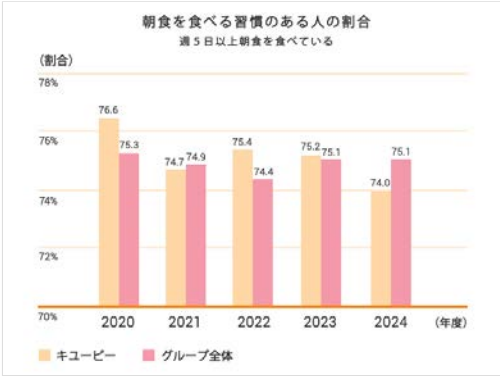


※キユービーグループ(国内食品事業のみ)

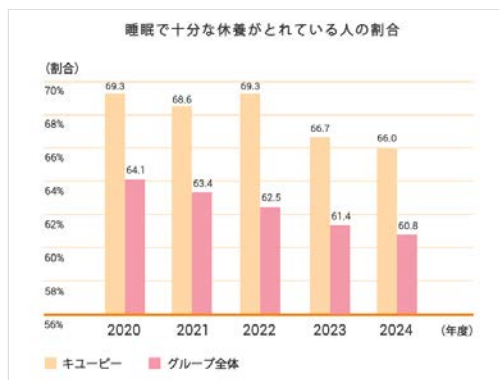
生活習慣の指標



※キユービーグループ
中董グループ(中島董商店、トウ・ソリューションズ、n a k a t o)およびキユービー単体の海外駐在員、外部出向、キユービー・アヲハタ健康保険組合を除く

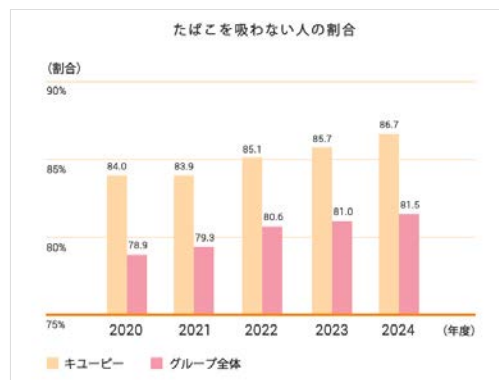


※キユービーグループ
中董グループ(中島董商店、トウ・ソリューションズ、n a k a t o)およびキユービー単体の海外駐在員、外部出向、キユービー・アヲハタ健康保険組合を除く



※ キュービーグループ

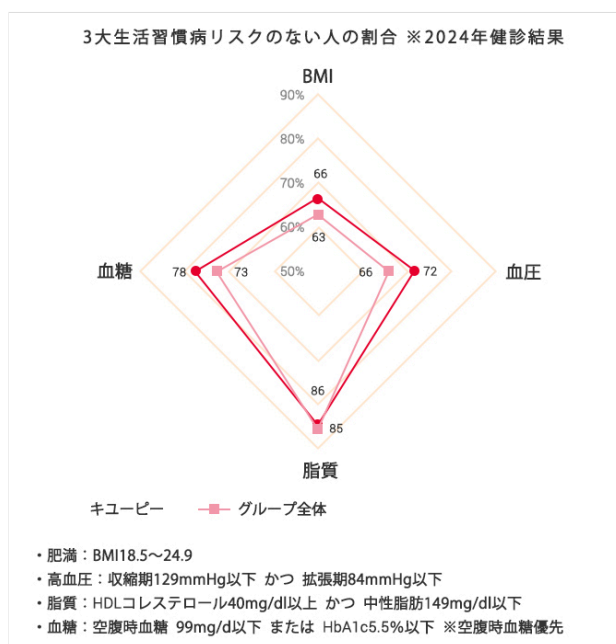
中董グループ(中島董商店、トウ・ソリューションズ、n a k a t o)およびキュービー単体の海外駐在員、外部出向、キュービー・アヲハタ健康保険組合を除く



※ キュービーグループ

中董グループ(中島董商店、トウ・ソリューションズ、n a k a t o)およびキュービー単体の海外駐在員、外部出向、キュービー・アヲハタ健康保険組合を除く

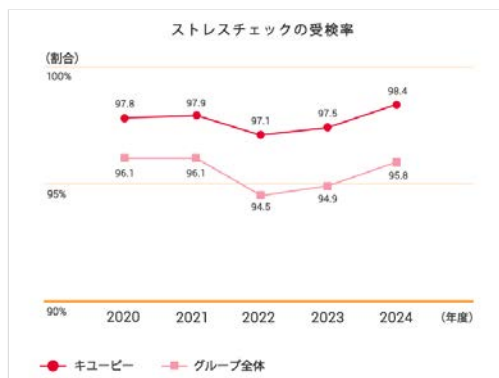
生活習慣病にかかわる指標



※ キュービーグループ

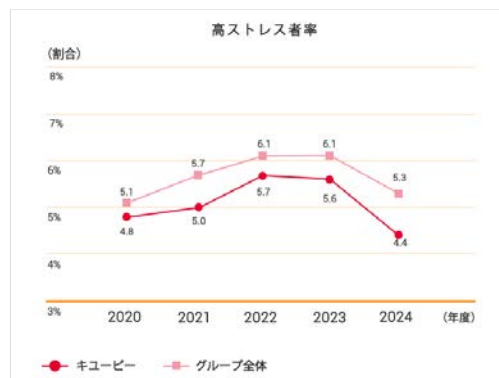
中董グループ(中島董商店、トウ・ソリューションズ、n a k a t o)およびキュービー単体の海外駐在員、外部出向、キュービー・アヲハタ健康保険組合を除く

メンタルにかかわる指標



※ キュービーグループ

中董グループ(中島董商店、トウ・ソリューションズ、n a k a t o)およびキュービー単体の海外駐在員、外部出向、キュービー・アヲハタ健康保険組合を除く



※ キュービーグループ

中董グループ(中島董商店、トウ・ソリューションズ、n a k a t o)およびキュービー単体の海外駐在員、外部出向、キュービー・アヲハタ健康保険組合を除く

健康経営に向けた具体的な取り組み

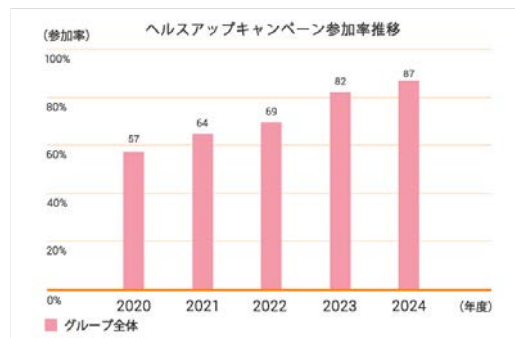
私の健康目標

キュービーグループでは、従業員が1年を健康で過ごすための「私の健康」を掲げて取り組んでいます。事業所内に掲示していた個人の目標は、2023年度より環境負荷軽減（紙やマグネットの削減）の観点から、イントラネット上に掲載していますが、生産現場などでイントラネットの閲覧環境が整っていない一部の事業所では、事業所内の掲示を継続しています。

ヘルスアップキャンペーン

キュービー・アラハタ健康保険組合では生活習慣病改善を呼びかける「ヘルスアップキャンペーン」を年1回実施し、従業員が生活習慣を見直すきっかけづくりにしています。参加者はチャレンジするコースを選択し、一定期間取り組みを行います。サラダから食べることをチャレンジ目標とした「サラダファースト」のコースが特に人気を集めました。

2024年度グループ全体参加率は、過去最高の87%となりました。



※ キュービーグループ

中董グループ（中島董商店、トウ・ソリューションズ、n a k a t o）およびキュービー単体の海外駐在員、外部出向、キュービー・アラハタ健康保険組合を除く

健康に配慮した食事の提案

社員食堂のある事業所では、給食会社とタイアップし、定期的に健康に配慮したメニューを提案しています。また、「31日はサラダの日」や「タマゴ文化祭」などテーマを設けたフェアやイベントを実施、従業員の食生活向上を意識した取り組みを実施しています。

インナーブランディングの取り組みの1つとして、サラダとタマゴで一人ひとりの健康を応援する活動を食堂からも発信しています。

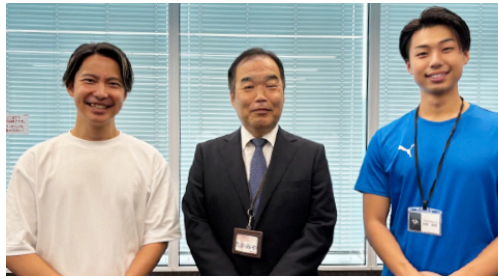


イベントの様子



運動イベント

「健康」に対する意識を高めることを目的として各社で運動イベントを開催しています。朝のラジオ体操をはじめ、本社・仙川キューポートでは歩行解析を企画しました。自分の歩き方をデータで可視化し、プロトレーナーによる歩行修正カウンセリングを受けることができる当イベントは、健康を意識するきっかけとなりました。



イベントの様子



禁煙対策

グループ従業員の健康維持・増進を目的に、2020年4月1日より東京都の2拠点の事業所（渋谷区、調布市）において敷地内喫煙所を撤廃し、敷地内全面禁煙をスタートさせました。同時に、グループを含めた全事業所でも、受動喫煙のない職場環境づくりを実現しています。

また、2017年から従業員の卒煙支援を実施しており、現在は禁煙外来や禁煙補助薬の自己負担額の補助するかたちで、従業員の卒煙チャレンジを継続して促しています。

がん検診休暇・職域がん検診

キューピーグループでは、従業員全員の定期健康診断に加え、35歳以上の従業員を対象に人間ドックやキューピーグループ独自の3点セット検診（胃がん・大腸がん・腹部超音波検査）、20歳以上の女性従業員には婦人科検診（乳がん・子宮頸がん）を推奨しています。この検診はキューピー・アヲハタ健康保険組合が補助を行っています。

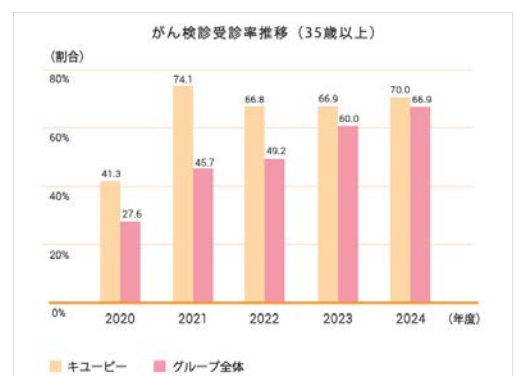
さらに、従業員が受診しやすい環境づくりを強化するために「がん検診特別休暇」の付与、移動検診車による職域集団がん検診や、大腸がん検診の職域実施など、キューピーグループ受診率目標80%に向けさまざまな取り組みを進めています。

2019年～ 首都圏で婦人科がん職域集団検診実施

2021年～ 首都圏でがん3点セット職域集団検診（胃バリウム・腹部エコー・便潜血検査）実施
がん検診休暇付与開始

2022年～ 全国の工場で大腸がん職域集団検診実施
順次エリア拡大中

2024年～ 首都圏で近隣医療機関と連携し、がん3点セット検診（胃カメラ・腹部エコー・便潜血検査）実施



※ キューピーグループ

中董グループ（中島董商店、トウ・ソリューションズ、nakato）およびキューピー単体の海外駐在員、外部出向、キューピー・アヲハタ健康保険組合を除く

※ 3点セット検診のうち1つ以上受診でカウント

海外駐在員の健康管理

海外事業の拡大に伴い、駐在員の人数も年々増加しています。

海外駐在員にも、国内同様の健康管理体制を行えるよう、年1回人間ドックを受診してもらい、必要に応じて保健師からのアドバイスを行っています。また、メンタル面においても、赴任3カ月後のヒアリング、ストレスチェックの実施、WEBによる産業医面談などを行い、安心して海外生活が送れるように支援しています。

労働安全衛生への取り組み

労働安全衛生に関する考え方

キューピーグループの生産事業所では、キューピー生産本部基盤向上推進部安全チームが中心となり、従業員が健康で安全な職場生活を送ることができる快適な職場環境づくりに努めています。主な活動として、次の3つを実施し、災害の未然防止と安全意識向上に努めています。

- 1.全生産工場の安全監査(国内68カ所)
- 2.グループ安全会議
- 3.災害情報の水平展開

グループ一体となった予防安全の取り組み

キューピーグループでは、2004年より予防型安全活動を推進しています。次の3つを実施することにより、リスクを許容可能なレベルまで下げ、安全第一の風土構築をめざしています。

- 1.リスクアセスメントの実施
- 2.安全教育手順書による教育
- 3.QBSS(キューピー・アフタ安全基準)点検と是正

休業災害発生件数の推移

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
休業災害件数	13	17	10	11	11
度数率 ^{※1}	0.64	0.87	0.52	0.59	0.60
強度率 ^{※2}	0.025	0.037	0.032	0.035	0.014

対象：キューピーグループ国内工場

※1 度数率=労働災害による死傷者数/延べ実労働時間×1,000,000

※2 強度率=労働損失日数/延べ実労働時間×1,000

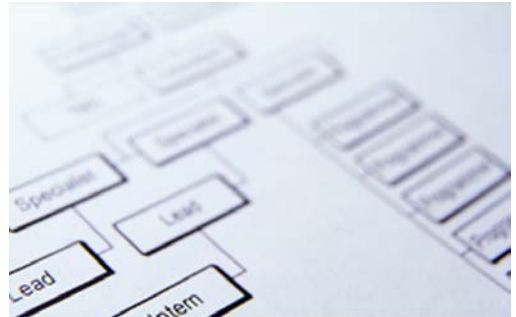
サステナビリティ

サステナビリティトップ	>
トップメッセージ	>
サステナビリティ マネジメント	+
資源の有効活用・循環	+
気候変動への対応	+
生物多様性の保全	+
食と健康への貢献	+
持続可能な調達	+
人権の尊重	+
ガバナンス	-
└ 倫理規範	>
└ コーポレート・ガバナンス	>
└ リスクマネジメント	>
安全・安心	+
開示方針	>
各種報告書	>
対照表	>
ESGデータ集	>
各種方針	>
イニシアチブ・加盟団体	>
社会・環境活動の歴史	>
キューピーグループ オフィシャルブログ	>
グループ各社の	>

ガバナンス

キューピーグループは、グループの理念に基づく事業活動を通じて世界の人々の食生活と健康に貢献し、持続的な成長と企業価値の向上を実現するため、経営上の組織体制や仕組み・制度などを整備し、必要な施策を適宜実施していくこと、また経営の成果をお客様や従業員、お取引先、株主・投資家、地域社会などのステークホルダーの皆様に適切に配分すること、これらを経営上の最も重要な課題の一つに位置づけています。

コーポレート・ガバナンスについては、透明・公正かつ迅速・果断な意思決定を行うための仕組みと定義し、「グループ規範」を遵守するとともに、基本方針に沿って、適切で効果的な体制の整備および充実に継続的に取り組んでいます。



➤ 倫理規範

理念に基づく倫理規範によってステークホルダーの皆様に信頼していただける企業活動を行います。



➤ コーポレート・ガバナンス

透明・公正かつ迅速・果断な意思決定を行うための仕組みをご案内します。



➤ リスクマネジメント

リスクによる経営への損失を低減し中長期目標の実現性を高めることに注力します。

サステナビリティ

サステナビリティトップ	>
トップメッセージ	>
サステナビリティ マネジメント	+
資源の有効活用・循環	+
気候変動への対応	+
生物多様性の保全	+
食と健康への貢献	+
持続可能な調達	+
人権の尊重	+
ガバナンス	-
└ 倫理規範	>
└ コーポレート・ガバナ ンス	>
└ リスクマネジメント	>
安全・安心	+
開示方針	>
各種報告書	>
対照表	>
ESGデータ集	>
各種方針	>
イニシアチブ・加盟団体	>
社会・環境活動の歴史	>
キューピーグループ オフィシャルブログ	>
グループ各社の	>

倫理規範

倫理規範に基づく取り組み  法令の遵守  人権の尊重 

公正・健全な企業活動  情報セキュリティの徹底  反社会的勢力への対応 

倫理規範に基づく取り組み

キューピーグループは、社是・社訓を基本としたグループの理念の考えのもと、私たちの活動を支えていただいているステークホルダーの皆様から、最も信頼していただけるように、私たちの姿勢を「グループ規範」として表しています。

その中で、より良い企業市民として守っていくことを倫理規範として定めています。

役員をはじめ、一人ひとりの従業員がグループ規範の心を理解して誠実に遵守していくことが、企業としての一層の透明性とお客様からの信頼につながるものと考えています。

> 理念

> キューピーの約束

法令の遵守

企業の持続的な発展には、法令遵守はもとより、すべての役員および従業員が高い倫理感を持って事業活動を行う必要があります。また、持続的な企業運営を支えるのは従業員であることから、一人ひとりの行動の基本となる考え方をグループ内外に浸透させ、お客様からの信頼と従業員相互の自浄作用につなげることも重要です。この考えのもと、キューピーグループはコンプライアンス推進体制を構築し、すべてのグループ従業員に徹底する取り組みを推進しています。

> コーポレート・ガバナンス

> キューピーグループ反贈賄基本方針制定

コンプライアンスの推進

2004年1月に「グループ倫理行動規範」を制定するとともに、コンプライアンス委員会を設置し、全社横断的コンプライアンス体制を整備しました。同委員会ではコンプライアンスに関する規定の整備や問題点の抽出、従業員に向けたマインドアッププログラムなどを実施しています。

・従業員意識調査アンケート

全従業員に意識調査アンケートを隔年で実施し、コンプライアンス意識の確認と意見の聴取を行い、透明性が高く働きやすい職場の実現に努めています。

・ヘルプライン

公益通報者保護法に対応した内部通報体制として、ヘルプラインを設置しています。

社外の弁護士、第三者機関、監査役などが受けた通報・相談はコンプライアンス調査会が調査し、違反行為は処分を行い、社内に公表し、再発防止策を実施します。

人権の尊重

役員・従業員一人ひとりが人権を尊重し、差別やハラスメント行為のない職場環境を実現します。従業員意識調査のアンケートを通じて、人権侵害の有無を調査する取り組みなどを進めています。また、事業展開を進める上で、さまざまな人権課題を把握し、それに配慮し適切に行動することが求められている中、バリューチェーン全体での人権の配慮にさらに取り組んでいきます。

▶ [人権尊重への取り組み](#)

 [キューピーグループ人権方針\(367KB\)](#)

公正・健全な企業活動

全てのステークホルダーの皆様の信頼を得るために企業活動に伴う法令を遵守するとともに良識的な行動を行います。また公正・自由な競争を行い透明で健全な関係を築きます。原材料の調達についても同様の考えのもと、品質第一主義という考えを大切にしながら、サプライチェーンにおける環境や人権にも配慮した取り組みを進めています。

▶ [持続可能な調達のための基本方針](#)

▶ [調達への取り組み](#)

競争法(独占禁止法・下請法)遵守に向けた体制づくり

キューピーグループは、公正・健全な企業活動を実践する取り組みとして、競争法(独占禁止法・下請法)の遵守に取り組んでいます。

独占禁止法への対応

- ・ 「独占禁止法遵守マニュアル」、「事例問題・Q&A集」の制定
- ・ eラーニングや社内勉強会による、独占禁止法に関する教育・研修の実施
- ・ 海外の主要なグループ会社において、弁護士による社内研修の実施

下請法への対応

- ・ 下請法に対応した発注・支払システムの構築・運用
- ・ eラーニングや社内勉強会による、下請法に関する教育・研修の定期実施
- ・ 「下請法対応マニュアル」、発注書など必要書類の各種フォーマット、下請法セルフチェックリストの整備
- ・ 関係部門での下請法担当者選任、セルフチェックおよび自主改善活動の推進

情報セキュリティの徹底

会社情報取扱規程、個人情報保護基本規程などに関する各管理マニュアルを制定し、情報推進委員会を中心に情報管理に係る従業員教育や各規程などの運用状況の検証、規程の見直しなどを行っています。

また、海外拠点においても、各国の制約やIT環境に合わせて規程の整備や従業員への周知を進めています。

▶ [プライバシーポリシー](#)

▶ [コーポレート・ガバナンス](#)

▶ [個人情報のお取り扱いについて](#)

反社会的勢力への対応

社会の一員として社会秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力とは一切関係を持たず、不当要求に対しては毅然として対応します。

グループ従業員への教育を行うとともに、警察などの関係機関への相談や情報収集などに努めています。

また、お取引先との契約書に反社会的勢力排除に関する条項を設けています。

反社会的勢力排除の推進体制

反社会的勢力への対応マニュアルの作成、階層別研修やeラーニングなどのコンプライアンス活動による従業員の指導・啓発、さらには必要に応じて警察などの関係機関への相談や情報収集などに努めています。

契約書の反社会的勢力排除条項

お取引先との契約書において、反社会的勢力排除に関する条項を設け、お取引先が反社会的勢力ではなく、また当該勢力との関係も有しないことを保証していただくとともに、もしそれに反することが判明した場合には直ちに契約を解除できる旨を定めています。

企業情報

企業情報トップ >

トップメッセージ >

基本方針 +

キューピーの約束

└ コーポレート・ガバナンス >

└ 反贈賄基本方針制定について >

└ 消費者志向自主宣言 >

└ プライバシーポリシー >

└ 個人情報のお取り扱いについて >

└ 匿名加工情報のお取り扱いについて >

会社概要 +

コーポレート・ガバナンス

コーポレート・ガバナンスの基本的な考え方 ●

コーポレートガバナンス体制 ●

コーポレート・ガバナンスの基本的な考え方

当社は、当社グループのコーポレート・ガバナンスを、グループの理念を实践し、お客様、従業員、お取引先、株主・投資家、地域社会等のさまざまなステークホルダーの立場等を踏まえたうえで、持続的な成長と企業価値の向上を実現するために、経営の透明性・公正性を高め、かつ迅速・果断な意思決定と実行を確保するための仕組みと定義しています。

当社は、当社グループのユニークさを活かしたコーポレート・ガバナンスを構築することが重要であると認識しており、コーポレート・ガバナンスポリシーにしたがって、さまざまなステークホルダーとの対話を大事にしながら、その在り方を不断に検討し、一層の充実に取り組んでいきます。

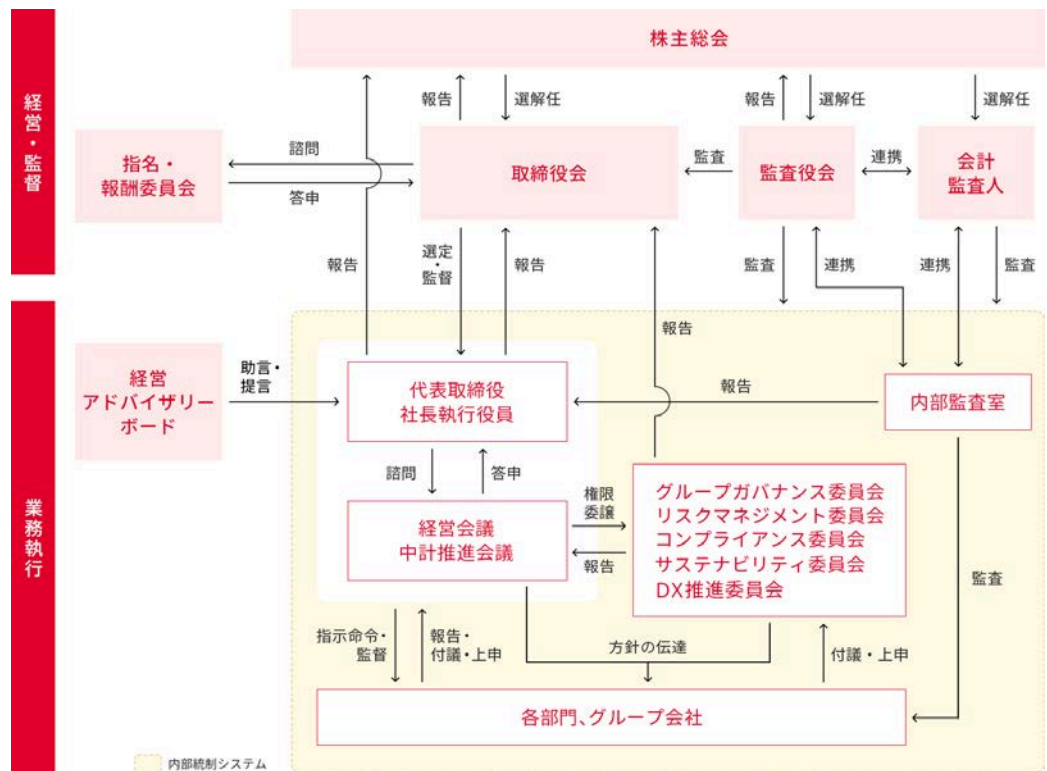
 [コーポレート・ガバナンスポリシー \(316KB\)](#) [コーポレート・ガバナンスに関する報告書 \(270KB\)](#)

コーポレートガバナンス体制

当社は、監査役会設置会社です。その機関設計のもと、取締役会の監督機能の強化を進めています。

また、業務執行を適切かつ機動的に進めるために、執行役員制度を採用しています。

取締役および執行役員の任期を1年とすることで、事業年度ごとの経営責任をより明確にするとともに、経営環境の変化に迅速に対応した経営体制を構築しています。



経営・監督

取締役会

取締役会は、グループ全体を俯瞰できる執行役員を中心とした常勤取締役5名と社外取締役4名の体制です。当社グループとしての方針・戦略(中期経営計画等)をはじめとする経営における重要な事項について意思決定を行うとともに、取締役および執行役員の職務執行を監督しています。

[取締役会の実効性評価 \(329KB\)](#)

監査役会

監査役会は、常勤監査役2名、社外監査役3名の体制です。代表取締役 社長執行役員との意見交換、重要会議・重要委員会への出席、担当役員や各部門の責任者からの報告、事業所往査などを通じて、内部統制システムの整備・運用状況を監視しています。また、会計監査人や内部監査部門と定期的な情報共有を含め連携を図っています。

※ 社外取締役および社外監査役の7名は、株式会社東京証券取引所の定めに基づく独立役員です。

※ 詳細は役員一覧をご覧ください。

[役員一覧](#)

[取締役会が経営陣幹部の選解任と取締役・監査役候補の指名を行うにあたっての方針と手続き \(198KB\)](#)

[役員\(取締役・監査役\)、執行役員の報酬の考え方について \(85.6KB\)](#)

指名・報酬委員会

取締役会の構成や取締役等の指名・報酬のあり方などに関する客観性、妥当性および透明性を高めることを目的に、取締役会の諮問機関として指名・報酬委員会を設置しています。

5名以上の委員で構成され、委員の半数以上は独立性基準を満たした社外役員と定めています。

委員長は、社外取締役の委員の中から、指名・報酬委員会の決議により選定しており、委員会の議長を務めています。

構成 (2025年2月28日時点)

委員長	社外取締役 柏木 斉
委員	社外取締役 福島 敦子
	社外取締役 西川 久仁子
	社外取締役 ハロルド・ジョージ・メイ
	取締役会長 中島 周
	代表取締役 社長執行役員 高宮 満
	取締役 常務執行 山本 信一郎

業務執行

重要会議・委員会

グループの全体方針および最重要事項は、当社の取締役会または経営会議(または中計推進会議)での審議を経て、決定します。グループ横断の重要かつ専門的な課題については、経営会議から権限を委譲された特定の重要会議・委員会が方針の策定・取り組みの推進を担うことで、迅速かつ適切な決裁と実行につなげています。特に内部統制に関する機能は、主に下記の重要会議・委員会が分担しています。

会議体	主催者	主な役割
経営会議	代表取締役 社長執行役員	グループ経営に関わる重要な事項(事業リスク含む)について審議し、モニタリングを行う重要会議です。社内取締役と執行役員が主な参加メンバーです。
中計推進会議	代表取締役 社長執行役員	上記のうち、特に中期経営計画の推進に関わる重要な事項について、業務執行取締役中心のメンバーで審議する重要会議です。
グループ ガバナンス 委員会	取締役 執行役員 (グループ ガバナンス担当)	適切なグループガバナンス構築に関する方針の策定、重点課題の決定、取り組みの推進を主な役割とする重要委員会です。 適切な意思決定・グループ会社管理体制の整備等の施策の推進を行っています。
リスク マネジメント 委員会	取締役 執行役員 (リスク マネジメント担当)	グループ全体のリスクマネジメント方針の策定、重点課題の決定、取り組みの推進を主な役割とする重要委員会です。全社的なリスクに関して、情報を集約し、そのリスクの評価、優先順位および対応策などを統括しています。
コンプライアンス 委員会	取締役 執行役員 (コンプライアンス 担当)	グループ全体のコンプライアンスに関する体制の整備、重点課題の決定、取り組みの推進を主な役割とする重要委員会です。 コンプライアンスに関わる問題点の把握に努めるとともに、コンプライアンス推進に関する企画、啓発および教育などを行っています。
サステナビリティ 委員会	取締役 執行役員 (サステナビリティ 推進担当)	グループ規範に沿ってサステナビリティの実現に向けた方針の策定、重点課題の決定と取り組みの推進を主な役割とする重要委員会です。サステナビリティ基本方針を策定

会議体	主催者	主な役割
		し、それに基づく社会・環境面の重点課題に取り組んでいます。
DX推進委員会	執行役員 デジタル 推進本部長	グループ全体のデジタル戦略方針の策定、資源投入(コスト・体制など)の適正化、DX人材育成の方針の策定・推進を主な役割とする重要委員会です。直轄組織である情報推進委員会を通じ、グループ全体の情報セキュリティの維持、IT環境の整備、ITリテラシー教育およびIT活用の推進も行っています。

 [内部統制システム構築の基本方針\(476KB\)](#)

経営アドバイザリーボード

経営の健全性、公正性、透明性を高め、より良く社会とお客様に貢献できるように助言・提言を得ることを目的に、代表取締役 社長執行役員の諮問機関として、社外の有識者により構成する経営アドバイザリーボードを設置しています。なお、経営アドバイザリーボードミーティングは、定例会を年間で2回開催しているほか、必要に応じて随時開催しています。

内部監査室

合法性と合理性の観点から、自主監査などを行う品質・環境・安全・労務などの各スタッフとも連携し、当社グループの経営活動全般にわたる管理・運営の制度および業務の遂行状況について、内部監査を行っています。また、当社代表取締役 社長執行役員の指名に基づき財務報告に係る内部統制の有効性評価を行っています。

サステナビリティ

サステナビリティトップ	>
トップメッセージ	>
サステナビリティ マネジメント	+
資源の有効活用・循環	+
気候変動への対応	+
生物多様性の保全	+
食と健康への貢献	+
持続可能な調達	+
人権の尊重	+
ガバナンス	-
倫理規範	>
コーポレート・ガバナンス	>
リスクマネジメント	>
安全・安心	+
開示方針	>
各種報告書	>
対照表	>
ESGデータ集	>
各種方針	>
イニシアチブ・加盟団体	>
社会・環境活動の歴史	>
キューピーグループ オフィシャルブログ	>
グループ各社の	>

リスクマネジメント

リスクの評価・選定 リスクマネジメント体制 主なリスクマネジメント活動

リスクの評価・選定

社内外の経営環境の変化からリスクとなりうることを「各リスクの経営への影響の大きさ」と、「マネジメントコントロール度」の2軸で評価し、対応すべきリスクを選定しています。社内・社外両面からモニタリングを行い、状況変化に応じたリスクの重要性を適時評価し、機敏にリスクに向き合うように努めています。

全社主要リスク

経営への影響度が大きいにも関わらずマネジメントコントロールが不十分なリスクは、全社横断的なプロジェクトにより、最優先でリスク低減に努めています。

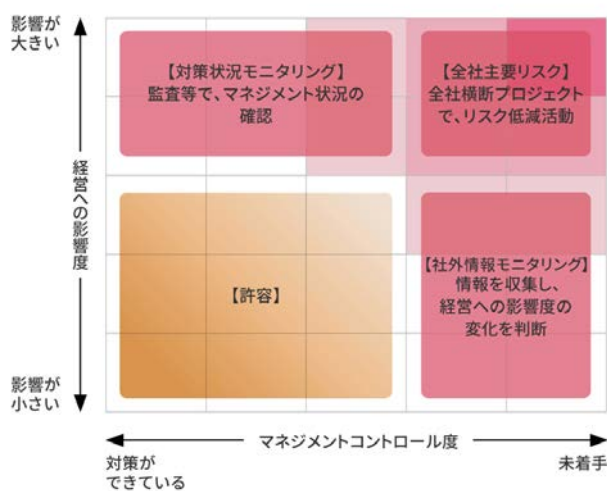
対策状況モニタリング

活動を通じて対策が効果を上げマネジメントコントロール度が高まったとしても依然として経営の影響度が大きい場合は、その後の対策状況を監査などにより確認しています。

社外情報モニタリング

その時点では経営への影響度が小さく経営課題とならないリスクにおいても、対策ができていないリスクは感度高く社外情報の収集、モニタリングに努めています。

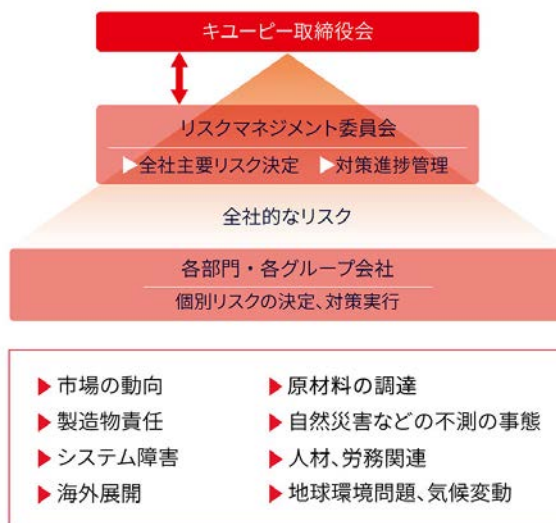
リスクの評価



リスクマネジメント体制

キューピーグループでは、経営の継続的、安定的発展に影響しかねない事象をリスクと認識し、リスクマネジメントの実践を通じ、内部統制システムの充実に取り組んでいます。個々のリスクを各担当部門が継続的に監視するとともに、全社的なリスクはリスクマネジメント委員会※で情報を共有し、そのリスクを評価、優先順位および対応策の効果などを総括的に管理し、特に下記の8つを主要なリスクに位置づけて抑制・回避に努めています。

キューピーグループのリスクマネジメントの体制と全社主要リスク



これら全社的なリスクの評価や対応の方針・状況などについては、リスクマネジメント担当取締役が定期的に取り締役員へ報告しています。

※ リスクマネジメント委員会は、キューピー(株)経営会議メンバーおよび主要本部・主要子会社の代表者より構成しており、キューピーグループのリスクマネジメントに関する最高意思決定機関であり、委員会を年3回開催しています。

※ 地球環境問題、気候変動については、サステナビリティ委員会で対応しています。

主なリスクマネジメント活動

海外展開のリスク低減活動 海外グループ会社の「内部統制推進プロジェクト」

キューピーグループでは、海外拠点の従業員が安心して業務を遂行できる環境を整え、グループの成長・発展につなげる活動に取り組んでいます。

その活動の中心として、経営基盤の強化につながる内部統制システム(ガバナンス、コンプライアンスおよびリスクマネジメント)の整備を推進するための法務・財務・人事・IT・知財・危機管理・内部監査・海外事業などの部署により構成している「内部統制推進プロジェクト」を組織し、さまざまな取り組みを行っています。

内部統制推進プロジェクトでは、これまでに、参加している専門部署ごとに考えられる海外リスクマネジメントのためのチェックリストの作成や海外各社とのやり取りを通じて、双方向型での内部統制システムの整備を推進してきました。



「内部統制推進プロジェクト」オンラインミーティングの様子

具体的な取り組み

- ・ 反贈収賄プログラムの展開
- ・ 国内外で統一した危機発生時の事業継続計画(BCP)の策定
- ・ 情報セキュリティ対策の推進
- ・ 人事労務体制の強化(規程類・制度の整備と見直し、理念研修など)
- ・ 海外グループ会社のメンバーを対象とした研修

今後も、海外グループ会社とプロジェクトの取り組みの到達点、スケジュールを共有し、連携しながら、海外の内部統制システムの整備を更に進めていきます。

自然災害など不測の事態への対応 事業継続計画(BCP)

過去の災害や感染症蔓延などの危機の経験を生かして、キューピーグループ横断で危機発生時の事業継続計画を整備し対策に取り組んでいます。

主に下記について備えています。

- ・ 東京の本社機能を関西で代替するための体制の維持
- ・ 非常時の通信ネットワークの整備や物資の備蓄
- ・ 生産設備や物流設備の耐震補強
- ・ 生産設備の状態を確認するシステムの整備
- ・ 主要商品の生産拠点や原資材の調達の二拠点化、受注機能の二拠点化
- ・ 全国規模で在宅勤務へ移行できる体制の維持



対策本部会議の様子

危機発生の種類ごとにマニュアルを整備し、それらを確実に運用できるようにするために大規模災害対応訓練(初動対応訓練や商品供給訓練、安否確認訓練)を行っています。

これらの活動により、発災した場合には適切な初動対応を行い、速やかに復旧活動につなげて平時の事業活動の状態に回復を促し、不測の事態から受けるダメージを最小限にできるように備えています。

ランサムウェア※リスクへの対応

国内外でランサムウェアによる企業への攻撃が増加しており、キューピーグループでもリスクの認識を高め、対応を講じています。

緊急時を想定し、攻撃を受けた際に対応できる環境構築を進めています。ハード面の強化策として、全パソコン、全サーバに対しマルウェア対策を進めるとともに、ソフト面の強化策では、全従業員に対し継続的な社内教育プログラムの実施、および攻撃メールの模擬訓練を実施するなど、従業員へのセキュリティ認識向上にも取り組んでいます。

※ 感染すると端末などに保存されているデータを暗号化して使用できない状態にしたうえで、搾取データ開示の脅しだけでなく、復号する対価として金銭を要求する不正プログラム

サステナビリティ

サステナビリティトップ >

トップメッセージ >

サステナビリティ
マネジメント +

資源の有効活用・循環 +

気候変動への対応 +

生物多様性の保全 +

食と健康への貢献 +

持続可能な調達 +

人権の尊重 +

ガバナンス +

安全・安心 -

品質への想い >

原料の品質 >

製造工程の品質 >

容器包装の品質 >

食の安全性評価 >

お客様に安心していただくために >

開示方針 >

各種報告書 >

対照表 >

ESGデータ集 >

各種方針 >

イニシアチブ・加盟団体 >

安全・安心

健やかな生活には、安全・安心でおいしい食が欠かせません。私たちは、「良い商品は良い原料からしか生まれない」という信念をもっています。バリューチェーンの各段階において、従業員一人ひとりが日々の仕事の質を高めることで、お客様をはじめとするさまざまなステークホルダーの皆様の期待に応えていきます。



品質への想い

人・仕組み・技術の3つの取り組みによって品質を追求し続けています。



原料の品質

品質を追求するため、原料の管理・提供元であるサプライチェーンとの取り組みを強化しています。



製造工程の品質

製造現場においては徹底したルールの遵守と、安全のための仕組みづくりを行っています。



容器包装の品質

品質とおいしさを守るため容器の改良を重ねてきました。



食の安全性評価

商品や原料について理化学分析・微生物検査などを行っています。



お客様に安心していただくために

お客様の声を生かす仕組みと、商品の表示の見方をご紹介します。

キューピーについてもっと知る



キューピーグループ オフィシャルブログ

従業員より、社会・環境への取り組みを発信しています。



食育活動

キューピーの食育活動についてご紹介します。

社会・環境活動の歴史 [>](#)

キュービーグループ
オフィシャルブログ [>](#)

グループ各社の
サステナビリティ活動 [>](#)



研究開発

キュービーの研究開発について
ご紹介します。

サステナビリティ

サステナビリティトップ >

トップメッセージ >

サステナビリティ
マネジメント +

資源の有効活用・循環 +

気候変動への対応 +

生物多様性の保全 +

食と健康への貢献 +

持続可能な調達 +

人権の尊重 +

ガバナンス +

安全・安心 -

品質への想い >

原料の品質 >

製造工程の品質 >

容器包装の品質 >

食の安全性評価 >

お客様に安心していただくために >

開示方針 >

各種報告書 >

対照表 >

ESGデータ集 >

各種方針 >

イニシアチブ・加盟団体 >

品質への想い

品質を確かにする人づくり

品質を裏付ける仕組みづくり

品質を高める技術の追求

品質を確かにする人づくり

品質を確かなものにするのは、人です。そこで私たちは、学びの場や発表の場を設け、品質の向上をめざしています。

ものづくり学校

商品の製造に関わるすべての部門の担当者を対象にした学びの場「ものづくり学校 品質コース」を設けています。ものづくり学校では、商品の品質管理の入門から、高度な応用まで学んでいます。ものづくり学校を修了したメンバーが、各部署で教える側になり、知識や技術を伝えていきます。私たちの「ものづくり学校」は、核になる人を養成し、その人を中心にして仲間を増やして、グループ全体の品質を高めていくことをめざしています。

ものづくり学校で学ぶこと

安全の原理

微生物、分析など、品質の技術と知識を学びます。

安心の原則

法令、自社の取り決めなど、品質のルールを理解します。

安心の原点

過去の事例などに学び、品質の礎となる考え方を身につけます。



わくわくアワード

わくわくアワードとは

キューピーグループでは「お客様と従業員の笑顔につながる品質向上活動」として「わくわく活動」を行っています。

「グローバル」「協働と創造」「共感(賞賛)」を合言葉に「わくわくアワード」を開催して、国内外のグループ全社より選ばれたチームの「わくわく活動」を共有、水平展開することで、私たちキューピーグループのめざす姿である「世界の食と健康に貢献する」ことにつなげています。



品質を裏付ける仕組みづくり

国際的な第三者の認証を取得することで、グループの品質レベルを維持・向上する仕組みを導入しています。

食品安全に関する第三者認証の導入

私たちは、グループ全生産拠点でGFSI認証と呼ばれる食品安全に関する国際的な第三者認証を取得しています。

外部機関の審査を定期的に受けることによって、品質保証の取り組みについて、客観的に見つめ、改善することで、継続的な品質レベルの維持・向上を実現しています。

GFSI認証とは

GFSI認証とは、2000年5月に設立された非営利財団 世界食品安全イニシアチブ(GFSI)が、安全な食品を提供するために構築した認証です。オランダで作られたFSSC22000、アメリカで作られたSQFも、GFSI認証の一部です。

品質を高める技術の追求

私たちは、最新の生産技術を学び、導入し、品質を高める努力をしています。

生産技術

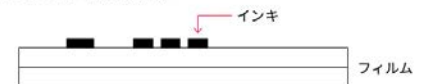
マヨネーズの外袋の印字

マヨネーズの外袋の賞味期限は、従来はインクジェットによって印字をしていましたが、現在はレーザーを使って印字しています。

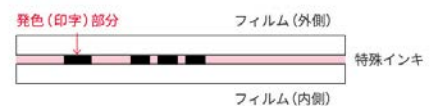
二層になっているフィルムの間に特殊なインキを塗布してあり、ここにレーザーを照射することでインキを黒色に発色させる方法です。直接印字する方法と比べて、印字部分に物が接触などしても印字が消えることはありません。



インクジェット印字(従来)



レーザー印字(現在)



分析技術

食品の中に含まれる微生物の同定[※]に関する技術は、近年急速に進歩しています。

※ 微生物の種類を特定すること。

食品の中に含まれる微生物の同定

かつては微生物を食品から分離・培養した後、顕微鏡で観察し特性を調べ、1週間から10日かけて同定していました。それが、遺伝子を使った手法が登場して1～2日になり、今ではその微生物に特徴的なたんぱく質を調べることで30分に短縮できています。

私たちはこうした技術の変化に対して、有効なものは積極的に導入するとともに、外部の機関と共同で新技術構築にも取り組んでいます。



微生物同定の進歩



サステナビリティ

サステナビリティトップ	>
トップメッセージ	>
サステナビリティ マネジメント	+
資源の有効活用・循環	+
気候変動への対応	+
生物多様性の保全	+
食と健康への貢献	+
持続可能な調達	+
人権の尊重	+
ガバナンス	+
安全・安心	-
品質への想い	>
原料の品質	>
製造工程の品質	>
容器包装の品質	>
食の安全性評価	>
お客様に安心していただくために	>
開示方針	>
各種報告書	>
対照表	>
ESGデータ集	>
各種方針	>
イニシアチブ・加盟団体	>

原料の品質

良い商品は良い原料からしか生まれない

マヨネーズの原料

良い商品は良い原料からしか生まれない

キューピーグループは、「良い商品は良い原料からしか生まれない」というキューピー創始者である中島董一郎の想いを大切に、原料の調達から商品の製造、容器包装、販売、安全性の評価まで、全段階で品質第一主義を徹底しています。

すべてのプロセスにおいて、自社およびグループ会社が直接関わることで、品質への責任を自身がしっかりと持つことを基本姿勢としています。

その根底にあるのが、創業からこだわり続けてきた、「良い商品をお届けする」という想いです。

良い原料を入手するために大切にしていること

調達先には専門の担当者が定期訪問し、ものづくりの基本的な考え方を共有しながら、改善などに力を合わせて取り組んでいます。

新規のお取引の場合には、私たちの品質への想い、考え方をお伝えし、製造環境なども確認します。

異物混入を防ぐ手立ては実施されているか、良い原料を供給できるかを確認し、信頼でき、一緒に取り組むことができる調達先とお取引しています。

マヨネーズの原料

赤い網目と赤いキャップでお馴染みのキューピー マヨネーズの主要原料は卵黄、植物油、酢。

卵

卵で特に大切なのが鮮度。新鮮な卵でなければ割卵機で卵黄と卵白をきれいに分けられないからです。そこで、卵が工場についたらすぐに鮮度チェックを行い、基準に適合していることを確認しています。卵は傷みやすく衛生的に管理する必要があります。



社会・環境活動の歴史 >

キューピーグループ
オフィシャルブログ >

グループ各社の
サステナビリティ活動 >



卵の鮮度チェック

植物油

キューピー マヨネーズには、菜種油や大豆油などを使っており、その精製工程は調達先と細かいところまで確認し合っています。こうして設けた「キューピースペック」と呼ばれる独自の基準は、安全でおいしい商品づくりを支えています。また、「事前サンプル制度」という仕組みは、調達先からあらかじめサンプルを取り寄せ、検査を行って、合格した原料だけを受け入れるものです。さらにその合格した植物油は、私たちのグループの車両で調達先まで受け取りに行っています。植物油の基準づくり、製造、品質確認、輸送まで、すべてに私たちは関わっています。



事前サンプル制度で届けられた植物油の品質をチェック



輸送した植物油の受取。輸送担当者と工場の担当者が確認しながら行う

酢

かつて、日本で製造されている酢は米などを原料にした和風の酢が主体で、洋風調味料であるマヨネーズに合う酢の入手は困難でした。そこで私たちは、1962年に専門会社を作りました。マヨネーズに使っているのは、リンゴ果汁やモルトなどを原料にして作った専用酢。野菜やパンだけでなく、ご飯や和食などにもよく合うようにしています。



サステナビリティ

サステナビリティトップ >

トップメッセージ >

サステナビリティ
マネジメント +

資源の有効活用・循環 +

気候変動への対応 +

生物多様性の保全 +

食と健康への貢献 +

持続可能な調達 +

人権の尊重 +

ガバナンス +

安全・安心 -

品質への想い >

原料の品質 >

製造工程の品質 >

容器包装の品質 >

食の安全性評価 >

お客様に安心していただくために >

開示方針 >

各種報告書 >

対照表 >

ESGデータ集 >

各種方針 >

イニシアチブ・加盟団体 >

製造工程の品質

ルールの徹底とミス防止の仕組み ▼

マヨネーズの製造品質 ▼

ルールの徹底とミス防止の仕組み

私たちの工場では、作業者からの異物混入を防ぐため、決められた服装にし、決められた手順で製造現場に入る規定があります。また、意図的な異物混入を防ぐフードディフェンスの仕組みを導入しています。原料の配合工程においても、独自の仕組みを利用し、配合事故未然防止を徹底しています。

意図的な異物混入防止の方針

- 1.製造現場内には決められた者しか入れない
- 2.意図的な悪戯をさせない
- 3.問題ないことを後から証明できる

+従業員との対話を大切にする

安全な商品を作るためのルール >



配合事故の未然防止

私たちの工場では、働く人のミスと不安をなくし、品質を守るため、自社開発で「配合事故未然防止システム」を構築しました。原料の入荷や計量、配合などの各工程において、二次元コードを読み込むことで、その都度原料の種類や使用量、賞味期限などについて照合と記録を行うことができる仕組みです。

さらに、この記録をたどることで、「その商品に使った原料は何か」「同じ原料を使った商品は何か」などを特定することができます。私たちのトレーサビリティシステムの根幹にあるのが、この「配合事故未然防止システム」です。



マヨネーズの製造品質

おいしくて、安全で安心なマヨネーズをお届けするため、細部にまでこだわってマヨネーズを作っています。この根底にあるのが、1925年の発売以来こだわり続けてきた「良い商品をお届けする」という想いです。

マヨネーズの製造工程



1 割卵

キューピー独自の割卵機で1分間に600個の卵を割り、卵黄と卵白に分けます。卵を衛生的に扱うために、定期的に割卵機を止めて洗っています。卵黄は61℃×3.5分以上の条件で加熱殺菌します。乳化力などの卵黄の機能は保持したまま、サルモネラ、鳥インフルエンザウイルスについては安心な状態になります。



2 調合

マヨネーズの大敵は酸素。酸化しないように、真空状態で乳化します。油の粒は1000分の2～4mm。手作りよりもキューピー マヨネーズがまろやかな風味なのは、この油の粒が細かくて、均質だからです。



3 ボトルの口部をカット

マヨネーズのボトルは、密封状態で入荷され、充てんの直前に逆さにして口部をカットします。切りくずが内部に入らないようにするためです。口部をカットしたらキャップ締めまで製造ラインに覆いをし、異物が混入しないようにしています。



4 充てん

マヨネーズをろ過した後、ボトルに充てんします。



5 キャップじめ・印字

マヨネーズを充てんしたらすぐにキャップをします。このとき口部の空気を窒素で置換し酸化を防止しています。その後キャップに賞味期限と、充てん時刻を意味する記号を印字します。これにより製造年月日と充てん時刻がわかり、その商品を作ったときの製造状況などを調べることができます。



6 包装・箱詰め

できあがった商品を袋に入れ、箱に詰めます。このとき重量を量り、箱に決められた本数が入っているか、全数確認します。



7 出荷

グループのトラックを使って工場から出荷します。

サステナビリティ

サステナビリティトップ >

トップメッセージ >

サステナビリティ
マネジメント +

資源の有効活用・循環 +

気候変動への対応 +

生物多様性の保全 +

食と健康への貢献 +

持続可能な調達 +

人権の尊重 +

ガバナンス +

安全・安心 -

品質への想い >

原料の品質 >

製造工程の品質 >

容器包装の品質 >

食の安全性評価 >

お客様に安心していただくために >

開示方針 >

各種報告書 >

対照表 >

ESGデータ集 >

各種方針 >

イニシアチブ・加盟団体 >

容器包装の品質

キューピーグループ 容器包装選定の基本方針 ▼

品質評価 ▼

マヨネーズの酸化防止 ▼

キューピーグループ 容器包装選定の基本方針

キューピーグループ 容器包装選定の基本方針

1. 食品の容器として適切であること
2. 環境汚染物質を発生させないこと
3. 省資源・省エネルギーに努め、多重包装はなくすこと
4. リサイクルへの適正を向上させ、促進すること
5. 環境に配慮した包装技術の確立に努めること

品質評価

食品の容器包装は、時には何カ月も内容物を守り、品質を保持するという大切な役割を果たしています。同時に、使いやすさも容器包装の重要な要素です。

内容物の配合や特性に加え、輸送や店頭での陳列、ご家庭での使用場面などを想定して容器の設計を行います。設計通りに作られているか、実際の使い勝手に問題ないかなど、さまざまな方法で容器の品質を確認しています。

また、機能性評価や安全性評価は容器包装メーカーと連携しながら、課題解決と品質の維持向上に努めています。

おいしさを守る



容器の肉厚を精密に測り、品質を守るために必要な厚みがあるか、部位ごとの厚みのばらつきは問題ないか



赤い浸透液を使って微細なシール不良がないかなど、「容器の密封性が保たれているか」を評価します。

社会・環境活動の歴史 >

キューピーグループ
オフィシャルブログ >

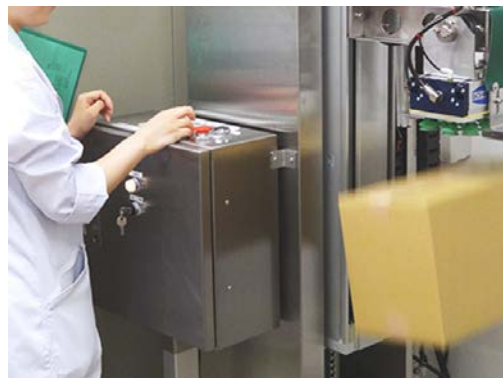
グループ各社の
サステナビリティ活動 >

などを評価します。

商品の中身を守る



上から圧力を加え、どの程度の荷重に耐えられるかなどを評価します。



流通での荷扱いや店頭での陳列を想定した高さから商品を落下させ、変形や破損がないかなどを評価します。

安全に快適にお使いいただく



マヨネーズのアルミシールの開封しやすさを評価します。



ドレッシングのプルリングを引っ張り、同様に、開封しやすさを評価します。

マヨネーズの酸化防止

酸素はマヨネーズの植物油を酸化させ、風味を劣化させてしまいます。キューピー マヨネーズでは酸化を防ぐために、容器包装にもさまざまな工夫をしています。



口部はアルミシールで酸素を遮断しています(1988年から)。

ポリエチレン層の間に酸素を通しにくい層を挟み込み、酸素を遮断しています(1972年から)。さらにキューピーハーフでは酸素吸収層も挟み込んでいます(2005年から)。

サステナビリティ

サステナビリティトップ >

トップメッセージ >

サステナビリティ
マネジメント +

資源の有効活用・循環 +

気候変動への対応 +

生物多様性の保全 +

食と健康への貢献 +

持続可能な調達 +

人権の尊重 +

ガバナンス +

安全・安心 -

品質への想い >

原料の品質 >

製造工程の品質 >

容器包装の品質 >

食の安全性評価 >

お客様に安心していただくために >

開示方針 >

各種報告書 >

対照表 >

ESGデータ集 >

各種方針 >

イニシアチブ・加盟団体 >

食の安全性評価

食の安全評価への取り組み ▼

理化学的評価 ▼

微生物学的評価 ▼

放射性物質検査 ▼

食の安全評価への取り組み

キューピーグループには、科学的データに基づいて食の安全を支える「食品安全科学センター」という部門があります。

お客様に安全・安心な商品をお届けするために、各工場の品質保証部門と連携し、日々商品や原料について理化学分析・微生物検査などを行っています。また、食の安全に関する情報を集め、審議、評価を行って、リスク低減にも努めています。

理化学的評価

化学的有害物質の分析

原料や商品の安全性を確認するために、残留農薬や動物用医薬などの定期検査を行っています。使用する機器は、ガスクロマトグラフ質量分析計や液体クロマトグラフ質量分析計などの最新の分析機器です。



1.成分の抽出・調製



2.分析機器による測定



3.分析結果の解析

食物アレルギー検査

ベビーフードなどの商品は、国で定められた方法で定期検査を行い、商品に表示していない特定原材料(アレルギー)が混入していないことを確認しています。



1. サンプルの分注



2. サンプルの測定

微生物学的評価

マヨネーズは保存料などは使わず、食塩と酢の力で日持ちさせています。また、加熱殺菌して日持ちさせている商品もあります。原料にはどのような微生物がいるかを評価し、どのような配合にすれば安全か、どのくらいの温度と時間で加熱殺菌すれば良いか、などを調べます。常に最新の情報を確認しながら新規技術開発にも取り組み、より迅速な検査ができるようにしています。



1. 一般的な微生物検査



2. 遺伝子検査



3. それぞれに特有なたんぱく質検出による微生物同定※

※ 微生物の種類を特定すること。

放射性物質検査

私たちの商品には、原料の産地を確認するなどの徹底した管理体制のもと、安全性が確保された原料を使用しています。さらに、私たちは、ゲルマニウム半導体検出器やNaIスペクトロサーベイメーターなどを用い、放射性物質を定期的に検査して問題ないことを確認しています。また、行政などの情報も随時確認することで、お客様に安全な商品をお届けしています。



1. サンプルの調製



2. 放射性物質測定器にセッティング



3. データ解析

サステナビリティ

サステナビリティトップ >

トップメッセージ >

サステナビリティ
マネジメント +

資源の有効活用・循環 +

気候変動への対応 +

生物多様性の保全 +

食と健康への貢献 +

持続可能な調達 +

人権の尊重 +

ガバナンス +

安全・安心 -

品質への想い >

原料の品質 >

製造工程の品質 >

容器包装の品質 >

食の安全性評価 >

お客様に安心していただくために >

開示方針 >

各種報告書 >

対照表 >

ESGデータ集 >

各種方針 >

イニシアチブ・加盟団体 >

お客様に安心していただくために

消費者志向自主宣言

お客様相談室での対応

商品の表示への取り組み

消費者志向自主宣言

キューピーでは、お客様をはじめとしたステークホルダーの皆様から最も信頼していただけるよう努めています。

> 消費者志向自主宣言

お客様相談室での対応

お客様からのご意見やご要望はとても貴重です。お客様相談室ではそうしたご意見に迅速に、的確に、そして誠意を持って対応することをめざし、一人ひとりのお客様にご満足いただけるよう心がけています。

さらに、ご意見の内容を把握して社内でも共有し、商品やサービスの改善を推進していくこともお客様相談室の役割です。

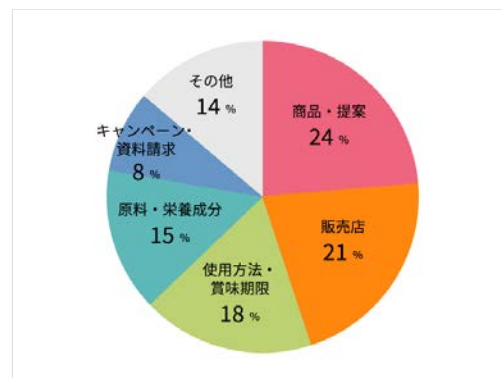
お客様相談室におけるお問合せ・ご指摘数の推移

お問い合わせ・ご指摘数の推移



※ 2020年度の Pasta ソース カルボナーラ 自主回収実施件数は除く

2024年度 お問い合わせ内容



お客様の声の活用

お客様からは、商品の見直しなどの参考になるご指摘、ご要望を日々いただいています。
そうしたお申し出を社内で共有し、商品やサービスの改善に繋げています。



1 お客様の声のデータベース化

お客様からいただいたお申し出を、その内容により、「お問い合わせ」と「ご指摘」に区分けし、データベース化します。



2 全件の聴き取り・分析

ご意見を全件聴き取り、その内容を分析し、関連部門に情報を共有します。改善の必要な内容を議案として提出します。



3 お客様の声委員会で審議

定期的開催される「お客様の声委員会」は、品質保証本部長を委員長として、お客様相談室をはじめ、さまざまな部門の責任者が参加して開催される会議です。ここで改善に必要な案件を審議決裁します。



4 開発部門で検討

改善を行う商品について、さまざまな角度から方向性や設計などを研究開発部門・商品開発部門で検討します。



5 研究部門で試作

専門家や容器メーカー様などの協力のもと、試作・テストを繰り返し、商品づくりを進めます。進捗は都度「お客様の声委員会」に報告し、お客様のご意見と照らし合わせながら内容を確認します。



6 商品化

商品の使いやすさや表示のわかりやすさなど厳しいチェックを経て、お客様の声を生かした新しい商品が完成します。

商品の表示への取り組み

食品の表示は、お客様が商品を選択し、安心してお使いいただく上で、なくてはならない情報です。その中には、法令で義務付けられている義務表示と、任意表示の2種類があります。

義務表示

義務表示については、法令に則った間違いない表示にするため、食品法令に関する専門部署を設けています。

任意表示

お客様によりわかりやすい情報を提供するために、私たちが独自に表示しています。

表示の見方

商品ごとの各表示の掲載項目についてご紹介します。



➡ マヨネーズの表示の見方



➡ ベビーフードの表示の見方



➡ ドレッシングの表示の見方

お客様の声に関する情報



お客様相談室

お客様相談室では、過去のお問い合わせをQ&Aとしてまとめたり、お客様の声を生かした商品改善例の掲載を行っています。

サステナビリティ

サステナビリティトップ

トップメッセージ

サステナビリティ
マネジメント

資源の有効活用・循環

気候変動への対応

生物多様性の保全

食と健康への貢献

持続可能な調達

人権の尊重

ガバナンス

安全・安心

品質への想い

原料の品質

製造工程の品質

容器包装の品質

食の安全性評価

お客様に安心していただくために

開示方針

各種報告書

対照表

ESGデータ集

各種方針

イニシアチブ・加盟団体

マヨネーズの表示の見方

マヨネーズの裏面表示

裏面の各部を選択すると、拡大画像および各部の説明をご覧いただけます。

※ ご不明な点は、お客様相談室までお問い合わせください。

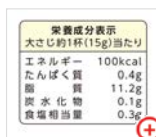
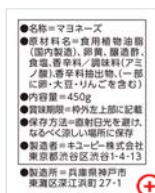
※ パッケージの変更により、お客様のお手元にある商品表示と異なる場合があります。

実際の商品



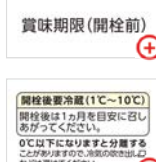
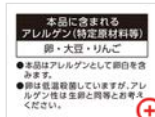
裏面表示

一括表示



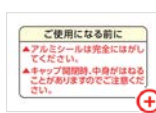
栄養成分表示

アレルギー アイコン

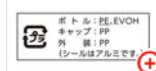


賞味期限

お客様相談室の フリーダイヤル



ご使用になる 前に



リサイクル表示

JASマーク



公正マーク



ベルマーク

ベビーフードの表示の見方

ドレッシングの表示の見方

ドレッシングの表示の見方 ▶

サステナビリティ

サステナビリティトップ >

トップメッセージ >

サステナビリティ
マネジメント +

資源の有効活用・循環 +

気候変動への対応 +

生物多様性の保全 +

食と健康への貢献 +

持続可能な調達 +

人権の尊重 +

ガバナンス +

安全・安心 -

品質への想い >

原料の品質 >

製造工程の品質 >

容器包装の品質 >

食の安全性評価 >

お客様に安心していただくために >

開示方針 >

各種報告書 >

対照表 >

ESGデータ集 >

各種方針 >

イニシアチブ・加盟団体 >

ドレッシングの表示の見方

ドレッシングの裏面表示

裏面の各部を選択すると、拡大画像および各部の説明をご覧いただけます。

※ ご不明な点は、お客様相談室までお問い合わせください。

※ パッケージの変更により、お客様のお手元にある商品表示と異なる場合があります。

実際の商品

裏面表示



一括表示

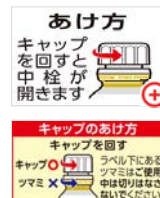
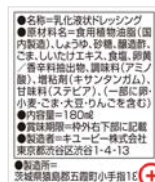
栄養成分表示

その他
お伝えしたいこと

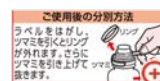
アレルゲン

アイコン

お客様相談室の
フリーダイヤル



中栓の開け方



中栓の
分別方法



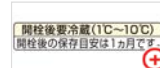
リサイクル表示



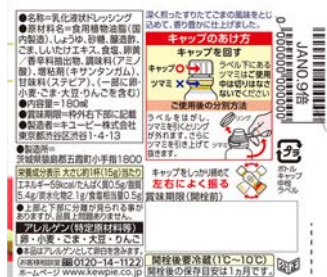
ドレッシングの
振り方



賞味期限



ご使用中の
注意事項



マヨネーズの表示の見方 >

ベビーフードの表示の見方 >

サステナビリティ

サステナビリティトップ >

トップメッセージ >

サステナビリティ
マネジメント +

資源の有効活用・循環 +

気候変動への対応 +

生物多様性の保全 +

食と健康への貢献 +

持続可能な調達 +

人権の尊重 +

ガバナンス +

安全・安心 +

開示方針 >

各種報告書 >

対照表 >

ESGデータ集 >

各種方針 >

イニシアチブ・加盟団体 >

社会・環境活動の歴史 >

キューピーグループ
オフィシャルブログ >

グループ各社の
サステナビリティ活動 >

開示方針

基本的な考え方

開示情報

お問い合わせ

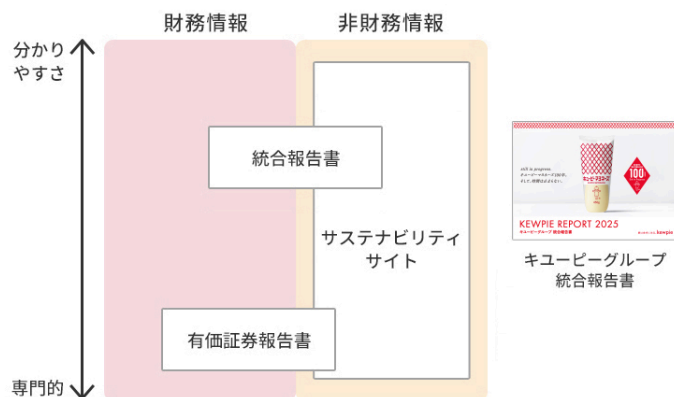
報告書の変遷

基本的な考え方

キューピーグループでは、サステナビリティの考え方と取り組みをウェブサイトにも網羅的に報告して、ステークホルダーの皆様にお伝えしています。この報告は、GRIサステナビリティ・レポート・スタンダードを参照して構成しています。

その他、株主・投資家を含むすべてのステークホルダーの皆様に向けて財務・非財務情報を統合し企業価値創造のための中長期戦略と各施策をご報告する「キューピーグループ統合報告書」を作成しています。

サステナビリティ情報のコミュニケーションツール



開示情報

対象組織：キューピー株式会社および連結子会社・持分法適用会社合計82社

対象期間：2024年度（2023年12月1日から2024年11月30日）

※一部の情報には対象期間以外の活動を含みます。

報告サイクル：年次報告として毎年更新

公開：2025年5月

参照ガイドライン：

GRIサステナビリティ・レポート・ガイドライン スタンダード

環境省 環境報告ガイドライン

国連グローバル・コンパクト

ISO26000

SASB スタンダード

お問い合わせ

当社のサステナビリティ情報に関するお問い合わせは、下記までご連絡ください。

キューピー株式会社 広報・サステナビリティ本部 サステナビリティ推進部

東京都渋谷区渋谷1-4-13 Tel:03-3486-3331

報告書の変遷

2022年度～	サステナビリティサイト、統合報告書
2020年度～	サステナビリティサイト、統合報告書、コミュニケーションブック
2019年度	CSRサイト、統合報告書、コミュニケーションブック
2006年度～	社会・環境報告書、ウェブサイト
2005年度	環境・社会報告書
2001年度～	環境報告書

サステナビリティ

サステナビリティトップ >

トップメッセージ >

サステナビリティ
マネジメント +

資源の有効活用・循環 +

気候変動への対応 +

生物多様性の保全 +

食と健康への貢献 +

持続可能な調達 +

人権の尊重 +

ガバナンス +

安全・安心 +

開示方針 >

各種報告書 >

対照表 >

ESGデータ集 >

各種方針 >

イニシアチブ・加盟団体 >

社会・環境活動の歴史 >

キューピーグループ
オフィシャルブログ >

グループ各社の
サステナビリティ活動 >

各種報告書

報告書ダウンロード

報告書バックナンバー

キューピーグループ統合報告書 2025

株主・投資家をはじめとした全てのステークホルダーの皆様に対して、当社グループの中長期的な価値創造について、より一層の理解を深めていただくことを目的に、ビジネスの全体像、企業価値創造に向けた戦略や計画、具体的な取り組み内容などを総合的にご報告します。

統合報告書



サステナビリティ

サステナビリティトップ >

トップメッセージ >

サステナビリティ
マネジメント +

資源の有効活用・循環 +

気候変動への対応 +

生物多様性の保全 +

食と健康への貢献 +

持続可能な調達 +

人権の尊重 +

ガバナンス +

安全・安心 +

開示方針 >

各種報告書 >

対照表 >

ESGデータ集 >

各種方針 >

イニシアチブ・加盟団体 >

社会・環境活動の歴史 >

キューピーグループ
オフィシャルブログ >

グループ各社の
サステナビリティ活動 >

各種報告書

報告書ダウンロード

報告書バックナンバー

本サイトPDFは以下よりご覧いただけます。

キューピーサステナビリティサイトPDF		
2024年		キューピーサステナビリティサイト2024 (21MB)
2023年		キューピーサステナビリティサイト2023 (19.9MB)
2022年		キューピーサステナビリティサイト2022 (26MB)
2021年		キューピーサステナビリティサイト2021 (17.9MB)
2020年		キューピーサステナビリティサイト2020 (24.9MB)
2019年		キューピーサステナビリティサイト (旧CSRサイト) 2019 (7.98MB)

コミュニケーションブックは以下よりご覧いただけます。

コミュニケーションブック		
2021年		コミュニケーションブック2021 (5.28MB)
2020年		コミュニケーションブック2020 (4.2MB)
2019年		コミュニケーションブック2019 (6.9MB)

社会・環境報告書は以下よりご覧いただけます。

社会・環境報告書		
2018年	 ダイジェスト版 (3.80MB)	 フルレポート (7.12MB)
2017年		 フルレポート (7.61MB)
2016年	 ダイジェスト版 (4.84MB)	 フルレポート (7.31MB)
2015年	 ハイライト (2.52MB)	 フルレポート (3.73MB)
2014年	 ハイライト (4.25MB)	 フルレポート (2.88MB)

2013年	 ハイライト (7.60MB)	 フルレポート (4.14MB)
2012年	 ハイライト (1.06MB)	 フルレポート (4.75MB)
2011年	 ハイライト (3.31MB)	 フルレポート (4.20MB)
2010年	 ハイライト (5.82MB)	 フルレポート (8.44MB)
2009年	 ハイライト (7.87MB)	 フルレポート (5.71MB)
2008年	 ハイライト (6.73MB)	 フルレポート (6.14MB)
2007年	 ハイライト (3.83MB)	 フルレポート (3.88MB)
2006年	 冊子版 (5.15MB)	 ウェブ版 (3.31MB)
2005年	 冊子版 (2.30MB)	
2004年	 冊子版 (1.19MB)	
2003年	 冊子版 (1.19MB)	
2002年	 冊子版 (1.19MB)	
2001年	 冊子版 (1.19MB)	

サステナビリティ

サステナビリティトップ	>
トップメッセージ	>
サステナビリティ マネジメント	+
資源の有効活用・循環	+
気候変動への対応	+
生物多様性の保全	+
食と健康への貢献	+
持続可能な調達	+
人権の尊重	+
ガバナンス	+
安全・安心	+
開示方針	>
各種報告書	>
対照表	>
ESGデータ集	>
各種方針	>
イニシアチブ・加盟団体	>
社会・環境活動の歴史	>
キューピーグループ オフィシャルブログ	>
グループ各社の サステナビリティ活動	>

対照表

GRI対照表

SASB対照表

GRI対照表

この対照表は、GRI(Global Reporting Initiative)の「GRIスタンダード」を参照して作成しています。

GRI 1：基礎

利用に関する声明	キューピーグループは、GRIスタンダードを参照し、当該期間[2023年12月1日から2024年11月30日]について、本GRI内容索引に記載した情報を報告する。
利用したGRI 1	GRI 1：基礎 2021

GRI 2：一般開示事項 2021

番号	開示事項	掲載場所
2-1	組織の詳細	> 会社概要 有価証券報告書：事業の内容 有価証券報告書：関係会社の状況 有価証券報告書：主要な設備の状況 統合報告書2025：会社情報
2-2	組織のサステナビリティ報告の対象となる事業体	> 開示方針 有価証券報告書：関係会社の状況 有価証券報告書：主要な設備の状況
2-3	報告期間、報告頻度、連絡先	> 開示方針
2-4	情報の修正・訂正記述	> ESGデータ集 統合報告書2025：11年間の財務・非財務サマリー
2-5	外部保証	> ESGデータ集 > 第三者保証報告書

2-6	活動、バリューチェーン、その他の取引関係	> グループの事業 > 会社概要 > ステークホルダーとの対話 有価証券報告書：主要な設備の状況 > 持続可能な調達の推進 > 原料の品質
2-7	従業員	> 会社概要 > ステークホルダーとの対話 > 人権の尊重 > ESGデータ集 有価証券報告書：従業員の状況
2-8	従業員以外の労働者	-
2-9	ガバナンス構造と構成	> 重点課題と推進体制 > コーポレート・ガバナンス 有価証券報告書：コーポレート・ガバナンスの概要 有価証券報告書：役員の状況 コーポレートガバナンス報告書：基本的な考え方 コーポレートガバナンス報告書：機関構成・組織運営等に係る事項 統合報告書2025：コーポレート・ガバナンス
2-10	最高ガバナンス機関における指名と選出	> コーポレート・ガバナンス 統合報告書2025：コーポレート・ガバナンス
2-11	最高ガバナンス機関の議長	> コーポレート・ガバナンス 統合報告書2025：コーポレート・ガバナンス
2-12	インパクトのマネジメントの監督における最高ガバナンス機関の役割	> 重点課題と推進体制 > コーポレート・ガバナンス > リスクマネジメント > トップメッセージ 有価証券報告書：監査の状況 コーポレートガバナンス報告書：業務執行、監査・監督、指名、報酬決定等の機能に係る事項(現状のコーポレート・ガバナンス体制の概要) コーポレートガバナンス報告書：現状のコーポレート・ガバナンス体制を選択している理由 コーポレートガバナンス報告書：IV内部統制システム等に関する事項 統合報告書2025：リスクマネジメント 統合報告書2025：トップメッセージ
2-13	インパクトのマネジメントに関する責任の移譲	> 重点課題と推進体制 > 環境マネジメント > 人権尊重への取り組み > トップメッセージ 統合報告書2025：トップメッセージ

		2025 統合報告書2025：サステナビリティ マネジメント 2025 統合報告書2025：コーポレート・ガ バナンス
2-14	サステナビリティ報告における最高ガバナンス機関の役割	2025 統合報告書2025：サステナビリティ マネジメント 2025 統合報告書2025：コーポレート・ガ バナンス
2-15	利益相反	2025 統合報告書2025：サステナビリティ マネジメント 2025 統合報告書2025：コーポレート・ガ バナンス
2-16	重大な懸念事項の伝達	2025 統合報告書2025：サステナビリティ マネジメント 2025 統合報告書2025：コーポレート・ガ バナンス
2-17	最高ガバナンス機関の集会的知見	2025 統合報告書2025：サステナビリティ マネジメント 2025 統合報告書2025：コーポレート・ガ バナンス
2-18	最高ガバナンス機関のパフォーマンス評価	2025 統合報告書2025：サステナビリティ マネジメント 2025 統合報告書2025：コーポレート・ガ バナンス
2-19	報酬方針	2025 統合報告書2025：サステナビリティ マネジメント 2025 統合報告書2025：コーポレート・ガ バナンス
2-20	報酬の決定プロセス	2025 統合報告書2025：サステナビリティ マネジメント 2025 統合報告書2025：コーポレート・ガ バナンス
2-21	年間報酬総額の比率	2025 統合報告書2025：サステナビリティ マネジメント 2025 統合報告書2025：コーポレート・ガ バナンス
2-22	持続可能な発展に向けた戦略に関する声明	2025 統合報告書2025：サステナビリティ マネジメント 2025 統合報告書2025：コーポレート・ガ バナンス
2-23	方針声明	2025 統合報告書2025：サステナビリティ マネジメント 2025 統合報告書2025：コーポレート・ガ バナンス
2-24	方針声明の実践	2025 統合報告書2025：サステナビリティ マネジメント 2025 統合報告書2025：コーポレート・ガ バナンス

		> 人権尊重への取り組み > トップメッセージ  統合報告書2025：トップメッセージ
2-25	マイナスのインパクトの是正プロセス	> 安全・安心 > 人権尊重への取り組み > お客様に安心していただくために > 健康経営・労働安全衛生
2-26	助言を求める制度および懸念を提起する制度	> コーポレート・ガバナンス > 人権尊重への取り組み
2-27	法規制遵守	> 環境マネジメント > ESGデータ集 > 人権尊重への取り組み
2-28	会員資格を持つ団体	> イニシアチブ・加盟団体
2-29	ステークホルダー・エンゲージメントへのアプローチ	> ステークホルダーとの対話 > 重点課題と推進体制 > 人権尊重への取り組み
2-30	労働協約	> 健康経営・労働安全衛生

GRI 3：マテリアルな項目 2021

番号	開示事項	掲載場所
3-1	マテリアルな項目の決定プロセス	> 重点課題と推進体制
3-2	マテリアルな項目のリスト	> 重点課題と推進体制 > トップメッセージ  統合報告書2025：価値創造プロセス  統合報告書2025：トップメッセージ

GRI201：経済パフォーマンス 2016

番号	開示事項	掲載場所
3-3	マテリアルな項目のマネジメント	> 重点課題と推進体制 > リスクマネジメント > 環境マネジメント > トップメッセージ  統合報告書2025：トップメッセージ
201-1	創出、分配した直接的経済価値	 有価証券報告書：連結財務諸表  統合報告書2025：11年間の財務・非財務サマリー

201-2	気候変動による財務上の影響、その他のリスクと機会	> 重点課題と推進体制 > リスクマネジメント > 環境マネジメント > CO ₂ 排出量の削減 > 生物多様性の保全活動
201-3	確定給付型年金制度の負担、その他の退職金制度	 有価証券報告書：退職給付関係
201-4	政府から受けた資金援助	開示していません

GRI202：地域経済でのプレゼンス 2016

番号	開示事項	掲載場所
202-1	地域最低賃金に対する標準の新入社員給与の比率(男女別)	開示していません
202-2	地域コミュニティから採用した上級管理職の割合	開示していません

GRI203：間接的な経済的インパクト 2016

番号	開示事項	掲載場所
3-3	マテリアルな項目のマネジメント	> 重点課題と推進体制 > リスクマネジメント > 環境マネジメント > トップメッセージ  統合報告書2025：トップメッセージ
203-1	インフラ投資および支援サービス	> 社会貢献活動 > キューピーみらいたまご財団 
203-2	著しい間接的な経済的インパクト	> 食と健康への貢献

GRI204：調達慣行 2016

番号	開示事項	掲載場所
204-1	地元サプライヤーへの支出の割合	開示していません

GRI205：腐敗防止 2016

番号	開示事項	掲載場所
205-1	腐敗に関するリスク評価を行っている事業所	＞ リスクマネジメント
205-2	腐敗防止の方針や手順に関するコミュニケーションと研修	＞ キューピーの約束 GRI 205 内部統制システム構築の基本方針 ＞ リスクマネジメント GRI 205 有価証券報告書：内部統制システムの運用状況
205-3	確定した腐敗事例と実施した措置	＞ ESGデータ集

GRI206：反競争的行為 2016

番号	開示事項	掲載場所
206-1	反競争的行為、反トラスト、独占的慣行により受けた法的措置	＞ ESGデータ集

GRI207：税金 2019

番号	開示事項	掲載場所
207-1	税務へのアプローチ	＞ キューピーの約束 ＞ コーポレート・ガバナンス
207-2	税務ガバナンス、管理、およびリスクマネジメント	＞ リスクマネジメント
207-3	税務に関連するステークホルダー・エンゲージメントおよび懸念への対処	＞ キューピーの約束 ＞ コーポレート・ガバナンス
207-4	国別の報告	＞ ESGデータ集

GRI301：原材料 2016

番号	開示事項	掲載場所
3-3	マテリアルな項目のマネジメント	＞ 重点課題と推進体制 ＞ リスクマネジメント ＞ 環境マネジメント

		> 持続可能な調達の推進 > トップメッセージ  統合報告書2025：トップメッセージ  有価証券報告書：サステナビリティに関する考え方及び取組
301-1	使用原材料の重量または体積	> 環境マネジメント > ESGデータ集
301-2	使用したリサイクル材料	> 重点課題と推進体制 > 食品ロスの削減・有効活用 > プラスチックの削減・再利用 > ESGデータ集  統合報告書2025：環境への配慮：プラスチック循環に向けた協働
301-3	再生利用された製品と梱包材	> 重点課題と推進体制 > プラスチックの削減・再利用 > ESGデータ集

GRI302：エネルギー 2016

番号	開示事項	掲載場所
3-3	マテリアルな項目のマネジメント	> 重点課題と推進体制 > リスクマネジメント > 環境マネジメント > CO ₂ 排出量の削減  有価証券報告書：サステナビリティに関する考え方及び取組
302-1	組織内のエネルギー消費量	> 環境マネジメント > CO ₂ 排出量の削減 > ESGデータ集 > 第三者保証報告書  統合報告書2025：環境への配慮：気候変動への対応  統合報告書2025：11年間の財務・非財務サマリー
302-2	組織外のエネルギー消費量	開示していません
302-3	エネルギー原単位	> CO ₂ 排出量の削減 > ESGデータ集
302-4	エネルギー消費量の削減	> CO ₂ 排出量の削減 > ESGデータ集 > 第三者保証報告書  統合報告書2025：11年間の財務・非財務サマリー
302-5	製品およびサービスのエネルギー必要量の削減	> CO ₂ 排出量の削減 > ESGデータ集

GRI303：水と廃水 2018

番号	開示事項	掲載場所
3-3	マテリアルな項目のマネジメント	> 重点課題と推進体制 > リスクマネジメント > 環境マネジメント > 水資源の持続的利用 有価証券報告書：サステナビリティに関する考え方及び取組
303-1	共有資源としての水との相互作用	> 重点課題と推進体制 > 環境マネジメント > 水資源の持続的利用
303-2	排水に関連するインパクトのマネジメント	> 環境マネジメント > 水資源の持続的利用 > ESGデータ集
303-3	取水	> 環境マネジメント > 水資源の持続的利用 > ESGデータ集
303-4	排水	> 環境マネジメント > 水資源の持続的利用 > ESGデータ集
303-5	水消費	> 環境マネジメント > 水資源の持続的利用 > ESGデータ集

GRI304：生物多様性 2016

番号	開示事項	掲載場所
3-3	マテリアルな項目のマネジメント	> 重点課題と推進体制 > リスクマネジメント > 環境マネジメント > 生物多様性の保全活動 > 持続可能な調達の推進 有価証券報告書：サステナビリティに関する考え方及び取組
304-1	保護地域および保護地域ではないが生物多様性価値の高い地域、もしくはそれらの隣接地域に所有、賃借、管理している事業拠点	> 生物多様性の保全活動 > ESGデータ集
304-2	活動、製品、サービスが生物多様性に与える著しいインパクト	> 生物多様性の保全活動
304-3	生息地の保護・復元	> 生物多様性の保全活動

		SHIBUYA Urban Farming Project  ESGデータ集
304-4	事業の影響を受ける地域に生息するIUCNレッドリストならびに国内保全種リスト対象の生物種	生物多様性の保全活動

GRI305：大気への排出 2016

番号	開示事項	掲載場所
3-3	マテリアルな項目のマネジメント	重点課題と推進体制 リスクマネジメント 環境マネジメント CO₂排出量の削減 有価証券報告書：サステナビリティに関する考え方及び取組
305-1	直接的なGHG排出（スコープ1）	環境マネジメント CO₂排出量の削減 ESGデータ集 第三者保証報告書
305-2	間接的なGHG排出（スコープ2）	環境マネジメント CO₂排出量の削減 ESGデータ集 第三者保証報告書
305-3	その他の間接的なGHG排出（スコープ3）	環境マネジメント CO₂排出量の削減 ESGデータ集
305-4	温室効果ガス（GHG）排出原単位	環境マネジメント CO₂排出量の削減 ESGデータ集
305-5	温室効果ガス（GHG）排出量の削減	環境マネジメント CO₂排出量の削減 ESGデータ集 統合報告書2025：11年間の財務・非財務サマリー
305-6	オゾン層破壊物質（ODS）の排出量	開示していません
305-7	窒素酸化物（NOx）、硫黄酸化物（SOx）、およびその他の重大な大気排出物	環境マネジメント CO₂排出量の削減 ESGデータ集

GRI306：廃棄物 2020

番号	開示事項	掲載場所
----	------	------

3-3	マテリアルな項目のマネジメント	> 重点課題と推進体制 > リスクマネジメント > 環境マネジメント > 資源の有効活用・循環 > 食品ロスの削減・有効活用 > プラスチックの削減・再利用 有価証券報告書：サステナビリティに関する考え方及び取組
306-1	廃棄物の発生と廃棄物関連の著しいインパクト	> 重点課題と推進体制 > 環境マネジメント > 資源の有効活用・循環 > 食品ロスの削減・有効活用 > プラスチックの削減・再利用 > ESGデータ集
306-2	廃棄物関連の著しいインパクトの管理	> 環境マネジメント > 食品ロスの削減・有効活用 > プラスチックの削減・再利用 > ESGデータ集
306-3	発生した廃棄物	> 環境マネジメント > 食品ロスの削減・有効活用 > プラスチックの削減・再利用 > ESGデータ集
306-4	処分されなかった廃棄物	> 環境マネジメント > ESGデータ集
306-5	処分された廃棄物	> 環境マネジメント > 食品ロスの削減・有効活用 > プラスチックの削減・再利用 > ESGデータ集

GRI308：サプライヤーの環境面のアセスメント 2016

番号	開示事項	掲載場所
3-3	マテリアルな項目のマネジメント	> 重点課題と推進体制 > 持続可能な調達の推進 > 人権尊重への取り組み 有価証券報告書：サステナビリティに関する考え方及び取組
308-1	環境基準により選定した新規サプライヤー	開示していません
308-2	サプライチェーンにおけるマイナスの環境インパクトと実施した措置	> 持続可能な調達の推進 > 人権尊重への取り組み > 生物多様性の保全活動 > ESGデータ集

GRI401：雇用 2016

番号	開示事項	掲載場所
3-3	マテリアルな項目のマネジメント	> 人権の尊重 > 人権尊重への取り組み > 多様な人材の活躍 > 健康経営・労働安全衛生 有価証券報告書：サステナビリティに関する考え方及び取組
401-1	従業員の新規雇用と離職	> ESGデータ集
401-2	フルタイム従業員には支給され、有期雇用の従業員やパートタイム従業員には支給されない手当	開示していません
401-3	育児休暇	> 多様な人材の活躍 > ESGデータ集

GRI402：労使関係 2016

番号	開示事項	掲載場所
402-1	事業上の変更に係る最低通知期間	開示していません

GRI403：労働安全衛生 2018

番号	開示事項	掲載場所
3-3	マテリアルな項目のマネジメント	> リスクマネジメント > 人権の尊重 > 人権尊重への取り組み > 多様な人材の活躍 > 健康経営・労働安全衛生 有価証券報告書：サステナビリティに関する考え方及び取組
403-1	労働安全衛生マネジメントシステム	> 健康経営・労働安全衛生 > ESGデータ集
403-2	危険性（ハザード）の特定、リスク評価、事故調査	> リスクマネジメント > 健康経営・労働安全衛生 > ESGデータ集
403-3	労働衛生サービス	> 健康経営・労働安全衛生

403-4	労働安全衛生における労働者の参加、協議、コミュニケーション	> 人権尊重への取り組み > 多様な人材の活躍 > 健康経営・労働安全衛生
403-5	労働安全衛生に関する労働者研修	> 健康経営・労働安全衛生
403-6	労働者の健康増進	> 健康経営・労働安全衛生
403-7	ビジネス上の関係で直接結びついた労働安全衛生の影響の防止と軽減	> 健康経営・労働安全衛生 > ESGデータ集
403-8	労働安全衛生マネジメントシステムの対象となる労働者	> 健康経営・労働安全衛生 > ESGデータ集
403-9	労働関連の傷害	> 健康経営・労働安全衛生 > ESGデータ集
403-10	労働関連の疾病・体調不良	> ESGデータ集

GRI404：研修と教育 2016

番号	開示事項	掲載場所
3-3	マテリアルな項目のマネジメント	> 人権の尊重 > 人権尊重への取り組み > 多様な人材の活躍 > 健康経営・労働安全衛生 有価証券報告書：サステナビリティに関する考え方及び取組
404-1	従業員一人あたりの年間平均研修時間	> ESGデータ集
404-2	従業員スキル向上プログラムおよび移行支援プログラム	> 多様な人材の活躍
404-3	業績とキャリア開発に関して定期的なレビューを受けている従業員の割合	> 多様な人材の活躍

GRI405：ダイバーシティと機会均等 2016

番号	開示事項	掲載場所
3-3	マテリアルな項目のマネジメント	> 人権の尊重 > 人権尊重への取り組み > 多様な人材の活躍 > 健康経営・労働安全衛生 有価証券報告書：サステナビリティに関する考え方及び取組

405-1	ガバナンス機関および従業員のダイバーシティ	> 多様な人材の活躍 > コーポレート・ガバナンス > ESGデータ集  統合報告書2025：コーポレート・ガバナンス  有価証券報告書：コーポレート・ガバナンスの概要  有価証券報告書：役員の状況
405-2	基本給と報酬の男女比	> ESGデータ集

GRI406：非差別 2016

番号	開示事項	掲載場所
3-3	マテリアルな項目のマネジメント	> 人権の尊重 > 人権尊重への取り組み  有価証券報告書：サステナビリティに関する考え方及び取組
406-1	差別事例と実施した是正措置	> 人権尊重への取り組み > コーポレート・ガバナンス

GRI407：結社の自由と団体交渉 2016

番号	開示事項	掲載場所
407-1	結社の自由や団体交渉の権利がリスクにさらされる可能性のある事業所およびサプライヤー	開示していません

GRI408：児童労働 2016

番号	開示事項	掲載場所
3-3	マテリアルな項目のマネジメント	> 人権の尊重 > 人権尊重への取り組み > 持続可能な調達の推進  有価証券報告書：サステナビリティに関する考え方及び取組
408-1	児童労働事例に関して著しいリスクがある事業所およびサプライヤー	> 人権尊重への取り組み > 持続可能な調達の推進

GRI409：強制労働 2016

番号	開示事項	掲載場所
3-3	マテリアルな項目のマネジメント	> 人権の尊重 > 人権尊重への取り組み > 持続可能な調達の推進 有価証券報告書：サステナビリティに関する考え方及び取組
409-1	強制労働事例に関して著しいリスクがある事業所およびサプライヤー	> 人権尊重への取り組み > 持続可能な調達の推進

GRI410：保安慣行 2016

番号	開示事項	掲載場所
3-3	マテリアルな項目のマネジメント	> 人権の尊重 > 人権尊重への取り組み
410-1	人権方針や手順について研修を受けた保安要員	> 人権尊重への取り組み

GRI411：先住民族の権利 2016

番号	開示事項	掲載場所
3-3	マテリアルな項目のマネジメント	> 人権の尊重 > 人権尊重への取り組み > 持続可能な調達の推進 有価証券報告書：サステナビリティに関する考え方及び取組
411-1	先住民族の権利を侵害した事例	> 人権尊重への取り組み > 持続可能な調達の推進

GRI413：地域コミュニティ 2016

番号	開示事項	掲載場所
413-1	地域コミュニティとのエンゲージメント、インパクト評価、開発プログラムを実施した事業所	> ステークホルダーとの対話 > 社会貢献活動 > キューピーみらいたまご財団

413-2	地域コミュニティに著しいマイナスのインパクト(顕在化しているもの、潜在的なものを及ぼす事業所	開示していません
-------	--	----------

GRI414：サプライヤーの社会面のアセスメント 2016

番号	開示事項	掲載場所
3-3	マテリアルな項目のマネジメント	> 人権尊重への取り組み > 持続可能な調達の推進 有価証券報告書：サステナビリティに関する考え方及び取組
414-1	社会的基準により選定した新規サプライヤー	開示していません
414-2	サプライチェーンにおけるマイナスの社会的インパクトと実施した措置	> 人権尊重への取り組み > 持続可能な調達の推進 > ESGデータ集

GRI415：公共政策 2016

番号	開示事項	掲載場所
415-1	政治献金	> ESGデータ集

GRI416：顧客の安全衛生 2016

番号	開示事項	掲載場所
416-1	製品・サービスのカテゴリーに対する安全衛生インパクトの評価	> 安全・安心 > コーポレート・ガバナンス
416-2	製品・サービスの安全衛生インパクトに関する違反事例	> 安全・安心 > コーポレート・ガバナンス

GRI417：マーケティングとラベリング 2016

番号	開示事項	掲載場所
3-3	マテリアルな項目のマネジメント	> 安全・安心 > お客様に安心していただくために

417-1	製品・サービスの情報とラベリングに関する要求事項	> 安全・安心 > お客様に安心していただくために > ステークホルダーとの対話
417-2	製品・サービスの情報とラベリングに関する違反事例	開示していません
417-3	マーケティング・コミュニケーションに関する違反事例	開示していません

GRI418：顧客プライバシー 2016

番号	開示事項	掲載場所
418-1	顧客プライバシーの侵害および顧客データの紛失に関して具体化した不服申立	開示していません

サステナビリティ

サステナビリティトップ	>
トップメッセージ	>
サステナビリティ マネジメント	+
資源の有効活用・循環	+
気候変動への対応	+
生物多様性の保全	+
食と健康への貢献	+
持続可能な調達	+
人権の尊重	+
ガバナンス	+
安全・安心	+
開示方針	>
各種報告書	>
対照表	>
ESGデータ集	>
各種方針	>
イニシアチブ・加盟団体	>
社会・環境活動の歴史	>
キューピーグループ オフィシャルブログ	>
グループ各社の サステナビリティ活動	>

対照表

GRI対照表

SASB対照表

SASB対照表

Sustainability Accounting Standards Board (SASB) は、投資家のニーズを満たすために重要な持続可能性情報の開示を促進する、独立した基準設定組織です。

下表は、SASBの持続可能な産業分類システム (SICS) で定義されている加工食品業界の基準を参照し、該当箇所を示すものです。

タイトル	SASBコード	指標	掲載場所
エネルギー管理	FB-PF-130a.1	(1) エネルギーの総使用量 (2) 系統電力からの電気の割合 (3) 再生可能エネルギー割合	> 環境マネジメント > 気候変動への対応 > ESGデータ集  有価証券報告書：サステナビリティに関する考え方及び取組  統合報告書2025：11年間の財務・非財務サマリー
水管理	FB-PF-140a.1	(1) 総取水量 (2) 水の総使用量、ベースライン水ストレスが高いまたは極端に高い地域におけるそれぞれの割合	> 環境マネジメント > 水資源の持続的利用 > ESGデータ集
	FB-PF-140a.2	水量および/または水質の許可、標準、規制に関連するコンプライアンス違反の件数	2024年度はコンプライアンス違反はありません
	FB-PF-140a.3	水管理リスクの説明とリスクを軽減する戦略と実践の議論	> 水資源の持続的利用  2024年度TCFD報告  2024年度TNFD報告
食品安全	FB-PF-250a.1	国際食品安全イニシアチブ (GFSI) 監査における (1) 非適合率、および (2) (a) メジャーおよび (b) マイナーな不適合に関連する是正措置率	> 品質への想い

	FB-PF-250a.2	国際食品安全イニシアチブ(GFSI)に承認された食品安全認証プログラムによって認証されたティア1サプライヤー施設からの調達原料割合	開示していません
	FB-PF-250a.3	(1)受け取った食品安全違反の通知総数、(2)是正した割合	2024年度において食品安全違反通知はありません
	FB-PF-250a.4	(1)発行されたリコール数および(2)リコールされた食品の合計量	➤ リスクマネジメント
健康・栄養	FB-PF-260a.1	健康・栄養の属性を促進するためにラベルづけおよび/または販売された製品からの収益	➤ 食と健康への貢献
	FB-PF-260a.2	栄養・健康に対する消費者の懸念に関連する製品と原料を特定、管理するプロセスの議論	➤ 食と健康への貢献 ➤ 安全・安心
製品ラベリングとマーケティング	FB-PF-270a.1	(1)子どもに対して行われた広告宣伝の割合、および(2)食事ガイドラインに適合した製品を宣伝する、子どもに対して行われた広告宣伝の割合	開示していません
	FB-PF-270a.2	(1)遺伝子組み換え生物(GMO)を含む (2)非GMO、とラベルが付いた製品の収益	開示していません
	FB-PF-270a.3	業界または規制によるラベルおよび/またはマーケティングコードの違反事例数	2024年度において違反事例はありません
	FB-PF-270a.4	表示および/またはマーケティング慣行に関連する法的手続きの結果としての金銭的損失の総額	開示していません
パッケージングライフサイクル管理	FB-PF-410a.1	(1)パッケージングの総重量 (2)リサイクルおよび/または再生可能な材料から作られた割合、および (3)リサイクル可能、再利用可能、および/または堆肥化可能な割合	➤ プラスチックの削減・再利用 ➤ ESGデータ集

	FB-PF-410a.2	ライフサイクルを通じて パッケージングの環境へ の影響を減らす戦略の議 論	> 環境マネジメント > プラスチックの削減・再 利用
原料サプライチ ェーン的环境お よび社会的影響	FB-PF-430a.1	第三者機関の環境基準お よび/または社会基準に認 証されている、調達された 食品成分の割合、および基 準別の割合	> 持続可能な調達の推進 > ESGデータ集
	FB-PF-430a.2	サプライヤーの社会的お よび環境的責任の監査に おける(1)不適合率および (2)(a)メジャーおよび(b) マイナーな不適合に関連 する是正措置率	開示していません
原料調達	FB-PF-440a.1	ベースライン水ストレス が高いまたは極端に高い 地域から調達した食品原 料の割合	PDF 2024年度TCFD報告 PDF 2024年度TNFD報告
	FB-PF-440a.2	優先的な食品原料のリス トと、環境および社会的配 慮による調達リスクの議 論	> 持続可能な調達の推進 PDF 2024年度TCFD報告 PDF 2024年度TNFD報告
活動指数	FB-PF-000.A	販売された製品の重量	開示していません
	FB-PF-000.B	生産施設の数	> 会社概要

サステナビリティ

サステナビリティトップ >

トップメッセージ >

サステナビリティ
マネジメント +

資源の有効活用・循環 +

気候変動への対応 +

生物多様性の保全 +

食と健康への貢献 +

持続可能な調達 +

人権の尊重 +

ガバナンス +

安全・安心 +

開示方針 >

各種報告書 >

対照表 >

ESGデータ集 >

各種方針 >

イニシアチブ・加盟団体 >

社会・環境活動の歴史 >

キューピーグループ
オフィシャルブログ >

グループ各社の
サステナビリティ活動 >

ESGデータ集

事業活動におけるESG(環境・社会・ガバナンス)データ集は以下よりご覧いただけます。

 [キューピーESGデータ集 2025\(909KB\)](#)

CO₂排出量(Scope1,2)については、第三者検証を実施し、検証機関から保証書を取得しています。

 [2023年度温室効果ガス排出量 検証報告書\(1.37MB\)](#)

 がついている資料をご覧いただくには [Adobe Reader](#)  が必要です。

キューピーグループ ESGデータ 一覧

環境

更新日：2025年7月31日

環境関連投資								
		単位	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	備考
環境保全コスト（投資）		百万円	177	172	404	85	105	キューピー単体
環境保全コスト（費用）		百万円	622	611	682	636	640	キューピー単体
環境保全対策に伴う経済効果		百万円	589	811	821	1,163	1,150	キューピーグループ 国内生産工場
環境マネジメント								
		単位						備考
第三者認証 (ISO14001)	取得事業所	-	15事業所/68事業所					キューピーグループ 国内生産工場
	取得率	%	22.1					キューピーグループ 国内生産工場
環境関連法規制違反件数		件	0	0	0	0	0	キューピーグループ 国内生産工場
環境法令違反による罰金件数		件	0	0	0	0	0	キューピーグループ 国内生産工場
重大環境事故件数		件	0	0	0	0	0	キューピーグループ 国内生産工場

環境データは、特に記載のない限りキューピー株式会社および連結子会社を対象とし、実績はキューピー年度（国内：12月から翌年11月、海外：10月から翌年9月）を対象

キューピーグループ ESGデータ 一覧

環境

更新日：2025年7月31日

資源の有効活用・循環								
		単位	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	備考
廃棄物排出量	総量	千トン	45.9	41.6	39.8	33.5	34.0	キューピーグループ 国内生産工場
	原単位	kg/ 生産数量 トン	59.4	54.0	52.4	48.1	48.3	
廃棄物等総排出量		千トン	69.2	66.4	65.1	57.2	56.0	キューピーグループ 国内生産工場
廃棄物最終処分量（単純埋立）		千トン	2.0	1.7	1.6	1.6	1.7	キューピーグループ 国内生産工場
再資源化率		%	97.0	97.4	97.5	97.2	96.9	キューピーグループ 国内生産工場
食品残さ削減率（2015年度比）		%	30.9	39.0	46.6	59.6	60.6	キューピーグループ 国内生産工場
野菜未利用部有効活用率 主要野菜：キャベツなど（当年）		%	40.0	62.1	77.5	82.7	85.3	キューピーグループ 国内生産工場
商品廃棄量削減率（2015年度比）		%	11.6	61.3	74.8	75.5	65.9	キューピー・アヲハタ営業部門
プラスチック排出量削減率（2018年度比）		%	-	10.8	13.8	20.9	22.3	国内キューピーグループ
持続可能な調達								
		単位	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	備考
持続可能なパーム油 の調達	調達率	%	60	95	100	100	100	RSPOブックアンドクレーム方式への切り 替えを完了し、あわせてマスパランス方 式での受け入れの認証を取得
生物多様性								
		単位	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	備考
持続可能な紙 の調達 (容器包材、印刷冊子、 販促物、事務用品)	調達率	%	-	-	-	-	98.4	国内キューピーグループ
生物多様性保護政策の有無			有：キューピーグループ 生物多様性方針(2022年12月策定)					
所有、賃貸、管理している土地で、生物多様性の保護地域 内部、もしくは保護地域に隣接している場所の有無			無					
大気への排出								
		単位	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	備考
NOx排出量		トン	40.9	39.8	37.9	33.7*	33.1	キューピーグループ 国内生産工場
SOx排出量		トン	8.5	8.3	8.1	6.7	6.1	キューピーグループ 国内生産工場

環境データは、特に記載のない限りキューピー株式会社および連結子会社を対象とし、実績はキューピー年度（国内：12月から翌年11月、海外：10月から翌年9月）を対象とする。

「*」マークは、算定定義見直しなどによりデータの一部を修正しています。

キユーピーグループ ESGデータ 一覧

環境

更新日：2025年7月31日

水資源の持続的利用								
		単位	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	備考
エリア別 取水量	日本	千m ³	8,301	8,091	8,075	7,367	7,012	
	日本原単位	m ³ / 生産数量ト	10.8	10.5	10.6	10.6	10.0	
	グローバル	千m ³	815*	451*	690*	694	731	
	グローバル原単位	m ³ / 生産数量ト	4.2*	2.4*	3.8	3.9*	3.7	
	中国	千m ³	225	237	190	185	213	
	アジア(中国以外)	千m ³	195*	173*	458	464	475	
	北米・欧州	千m ³	395	41	42	44	43	
エリア別 排水量	日本	千m ³	6,002	6,269	6,241	5,815*	5,644	
	日本原単位	m ³ / 生産数量ト	7.8	8.2	8.2	8.4	8.0	
	グローバル	千m ³	837	269	167	193	233	
	グローバル原単位	m ³ / 生産数量ト	4.4	1.5	0.9	1.1	1.2	
	中国	千m ³	161	180	99	120	151	
	アジア(中国以外)	千m ³	308	57	56	58	64	
	北米・欧州	千m ³	368	32	12	15	19	
水源別 取水量	淡水合計	千m ³	9116*	8,542	8,765	8,061	7,743	
		%	100	100	100	100	100	
	上水	千m ³	1,369	1,258	1,288	1,110	1,091	
		%	15.0*	14.7	14.7	13.8	14.1	
	工業用水	千m ³	1,161	922	912	822	924	
		%	12.7*	10.8	10.4	10.2	11.9	
	河川	千m ³	127*	95	366	366	358	
		%	1.4*	1.1	4.2	4.5	4.6	
	地下水	千m ³	6,459	6,268	6,199	5,763	5,370	
		%	70.9*	73.4	70.7	71.5	69.3	
	雨水	千m ³	0	0	0	0	0	
		%	0	0	0	0	0	
排出先別 排水量	排水合計	千m ³	6,839	6,537	6,407	6,009	5,877	
		%	100	100	100	100	100	
	下水道	千m3	3,313	3,084	2,987	2,711	2,624	
		%	48.4	47.2	46.6	46.6	44.7	
	河川放流	千m3	3,460	3,273	3,246	3,106	3,069	
		%	50.6	50.0	50.8	51.7	52.2	
	海域放流	千m3	67	185	175	191	184	
		%	1.0	2.8	2.7	3.2	3.1	
水使用量(原単位)削減率 (2020年度比)		%	-	2.5	1.7	2.1	7.8	キユーピーグループ 国内生産工場

環境データは、特に記載のない限りキユーピー株式会社および連結子会社を対象とし、実績はキユーピー年度（国内：12月から翌年11月、海外：10月から翌年9月）を対象とする。

キユーピーグループ ESGデータ 一覧

環境

更新日：2025年7月31日

CO ₂ 排出削減 Scope1,2									
			単位	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	備考
CO ₂ 排出量	国内	Scope 1	千トン-CO ₂	65.5	64.5	63.6	53.6	51.7	キューピーグループ 生産工場・オフィス
		Scope 2	千トン-CO ₂	100.3	97.5	93.6	85.2	82.3	
		Scope 1+2	千トン-CO ₂	165.8	162.0	157.2	138.7	133.9	
		原単位	Kg-CO ₂ ／ 生産数量トン	210.2	205.2	206.7	196.2	190.1	
	海外	Scope 1	千トン-CO ₂	14.1	1.3	5.0	4.9	2.8	キューピーグループ 生産工場
		Scope 2	千トン-CO ₂	32.3	29.6	30.8	23.1	25.6	
		Scope 1+2	千トン-CO ₂	46.4	30.9	35.8	28	28.4	
		原単位	Kg-CO ₂ ／ 生産数量トン	241.5	167.6	201.9	150.9	145.0	
エネルギー関連									
			単位	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	備考
電力購入量	国内	Mwh	226,292	221,861	219,987	210,105	206,180	キューピーグループ 生産工場・オフィス	
	海外	Mwh	40,342	33,668	31,404	28,410	34,806	キューピーグループ 生産工場	
再生可能エネルギー量	国内	Mwh	4,155	4,461	4,749	6,445	7,094	キューピーグループ 生産工場・オフィス	
	海外	Mwh	2,362	2,668	3,539	5,515	5,661	キューピーグループ 生産工場	

環境データは、特に記載のない限りキユーピー株式会社および連結子会社を対象とし、実績はキユーピー年度（国内：12月から翌年11月、海外：10月から翌年9月）を対象とする。

キユーピーグループ ESGデータ 一覧

環境

更新日：2025年7月31日

CO ₂ 排出量 Scope3								
	単位	算出方法	対象排出原単位等	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
Scope 3 合計	千トン-CO ₂			314.3	293.9	1,229.1	1,485.0	1,734.3
1. 購入した製品・サービス	千トン-CO ₂	重量あたり原単位	原材料・資材購入重量	215.4	167.8	987.2	1,126.2	1,337.0
2. 資本財	千トン-CO ₂	投資金額あたり原単位	設備投資額	20.3	22.4	96.7	46.6	48.4
3. Scope1, 2に含まれない燃料及びエネルギー関連活動	千トン-CO ₂	CFP-DB、SC-DB	エネルギー種別の使用量	4.4	8.1	5.8	24.2	29.8
4. 輸送、配送（上流）	千トン-CO ₂	トンキロ法/輸送時の排出原単位	荷主輸送/調達物ごとの輸送シナリオ活動量	37.8	33.4	45.1	127.7	168.2
5. 事業活動から出る廃棄物	千トン-CO ₂	重量あたり原単位	排出物重量	2.3	0.5	10.2	21.8	20.7
6. 出張	千トン-CO ₂	従業員数あたり原単位	従業員数	0.3	0.3	1.4	1.4	1.4
7. 雇用者の通勤	千トン-CO ₂	従業員数・勤務日数あたり原単位	従業員数・営業日数	1.1	1.1	4.9	2.4	2.3
8. リース資産（上流）	千トン-CO ₂	Scope1,2に算入済	Scope1,2に算入済	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし
9. 輸送、配送（下流）	千トン-CO ₂	輸送時の排出原単位	出荷重量、製品輸送はシナリオ	4.2	9.9	20.7	22.4	24.7
10. 販売した製品の加工	千トン-CO ₂	製品ごとの間接消費エネルギー	製品群ごとの販売数量	1.7	0.0	35.8	72.6	72.5
11. 販売した製品の使用	千トン-CO ₂	製品ごとの間接消費エネルギー	製品群ごとの販売数量	9.8	1.8	該当なし	該当なし	該当なし
12. 販売した製品の廃棄	千トン-CO ₂	重量あたり原単位	製品に使用した包材重量	16.8	14.0	21.2	39.8	29.4
13. リース資産（下流）	千トン-CO ₂	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし
14. フランチャイズ	千トン-CO ₂	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし
15. 投資	千トン-CO ₂	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし

環境データは、特に記載のない限りキユーピー株式会社および連結子会社を対象とし、実績はキユーピー年度（国内：12月から翌年11月、海外：10月から翌年9月）を対象とする。

【対象範囲】2019年～キユーピー単体、2022年～国内主要グループ会社（キユーピー、アヲハタ、キユーピータマゴ、サラダクラブ、キユーピー醸造、デリア食品、ケイバック、コープ食品）、2023年～キユーピーグループ（国内・海外合算）

キューピーグループ ESGデータ 一覧

社会

更新日：2025年7月31日

従業員								
		単位	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	備考
グループ従業員数		人	25,271	15,885	15,785	15,453	14,830	キューピーグループ ※2021年度より「キューソー物流システム」は持分法適用関連会社へ移行
グループ常時雇用者数	合計	人	16,003	10,719	10,696	10,642	10,517	キューピーグループ
	男	人	9,838	5,348	5,280	5,299	5,253	
	女	人	6,165	5,371	5,416	5,343	5,264	
グループ平均臨時雇用者数		人	9,268	5,166	5,089	4,811	4,313	キューピーグループ
グループ外国人従業員数		人	38	39	39	40	40	キューピーグループ社員のみ ※臨時従業員は含んでおりません
キューピー従業員数	合計	人	2,995	2,931	2,946	2,831	2,766	
キューピー常時雇用者数	合計	人	2,426	2,394	2,408	2,332	2,327	
	男	人	1,308	1,296	1,271	1,232	1,232	
	女	人	1,118	1,098	1,137	1,100	1,095	
キューピー平均臨時雇用者数	合計	人	569	537	538	499	439	
	男	人	179	169	176	182	179	
	女	人	390	368	362	317	260	
キューピー外国人従業員数		人	18	18	19	21	19	国内グループ社員のみ ※臨時従業員は含んでおりません
キューピー新入社員数	合計	人	53	24	24	34	46	キューピー籍新卒総合職のみ
	男	人	35	13	14	21	26	
	女	人	18	11	10	13	20	
キューピー離職率 (新卒者の3年未満の離職率)		%	20.4	10.2	6.0	15.1	16.7	キューピー単体新卒総合職のみ
キューピー平均勤続年数	男女平均	年	15.3	16	16.2	16.2	16.1	
	男	年	18	18.6	18.8	18.4	17.9	
	女	年	12.2	13	13.4	13.7	14.0	
キューピー平均年齢	男女平均	年	40.5	41.2	41.6	41.7	42.0	
	男	歳	43.3	43.9	44.3	44.1	43.9	
	女	歳	37.1	38	38.6	39.1	39.8	
キューピー平均年間給与	男女平均	円	5,875,527	6,131,534	6,131,717	6,393,356	6,878,377	
	男	円	7,151,609	7,473,442	7,519,575	7,697,220	8,238,994	
	女	円	4,382,580	4,547,641	4,580,294	4,933,028	5,347,528	
キューピー中途採用		人	126	62	98	118	143	キューピー籍社員 ※臨時従業員から社員への転換者を含む
		%	24.6	30.6	35.7	42.4	54.5	
キューピー定年再雇用希望者		人	25	27	36	33	34	※2016年定年延長（60歳→63歳）2017年度の2名は60歳時点で定年退職を選択しシニア社員を希望した社員 ※2016年定年延長（60歳→63歳）希望者以外の定年退職無し
キューピー定年再雇用率		%（%）	78（100）	73（100）	86（100）	72（100）	83（100）	（）内は希望者の再雇用率 ※2016年定年延長（60歳→63歳）希望者以外の定年退職無し

「社会」に関するデータは、特に記載のない限りキューピー株式会社を対象とする。

キユーピーグループ ESGデータ 一覧

社会

更新日：2025年7月31日

ダイバーシティ							
	単位	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	備考
女性リーダー数	人	65	72	82	94	104	キユーピー単体
	人	121	132	145	164	181	国内食品事業全体
女性役員比率	%	18.8	21.4	28.6	21.4	20.0	キユーピー単体 社外役員、社外監査役、監査役含む
女性管理職比率	%	10.2	10.9	12.5	14.5	15.9	キユーピー単体
	%	8.5	9.1	10.0	11.4	12.6	国内食品事業全体
障がい者雇用率	%	3.34	3.39	3.37	3.26	3.05	国内食品事業全体 ※2024年6月1日現在
研修関連							
	単位	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	備考
社員研修費用（総額）	百万円	189	172	144	82	91	キユーピーグループ従業員 人材育成センターで行われた研修費 など
社員研修費用（従業員一人当たり）	円	-	-	-	12,000	13,000	キユーピーグループ従業員 人材育成センターで行われた研修費 など
人権研修参加者	人	7,964	14,463	14,793	14,913	3月開示予定	キユーピーグループ従業員 研修の名目のためアンケート数は除 く
総研修時間	時間	-	-	-	18,662	23,750	キユーピーグループ従業員
労働							
	単位	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	備考
年間総労働時間（従業員一人当たり）	時間／年	1,912.9	1,937.6	1,895.7	1,879.3	1,837.7	キユーピー単体一般職のみ
	時間／年	1,992.5	1,995.9	1,967.6	1,967.0	1,908.7	国内食品事業一般職のみ
平均残業時間（従業員一人当たり）	時間／月	16.1	16.6	16.2	16.9	17.0	キユーピー単体一般職のみ
	時間／月	18.9	18.7	18.7	17.9	19.6	国内食品事業一般職のみ
年次有給休暇取得日数	日	11.1	12.2	14.1	14.4	13.3	キユーピー単体 ※平均取得日数を記載
	日	9.5	10.6	11.9	13.8	12.7	国内食品事業社員のみ ※平均取得日数を記載
育児休業取得者	合計	人	221	223	188	158	キユーピー単体 社員
	男	人	70	73	66	34	
	女	人	151	150	122	124	
育児短時間勤務者	合計	人	187	195	192	213	キユーピー単体 社員
	男	人	0	1	0	1	
	女	人	187	194	192	212	
育児休業復職率	%	100	100	100	100	100	キユーピー単体
介護休業利用者	人	78	87	118	112	141	キユーピーグループ
介護休業利用者	人	13	11	12	7	15	キユーピーグループ
ボランティア休暇取得者	人	0	1	0	25	41	キユーピー単体
休業災害件数	件	13*	17*	10*	11*	11*	キユーピーグループ国内68事業所
休業災害度数率	%	0.64*	0.87*	0.52*	0.59*	0.60*	キユーピーグループ国内68事業所 ※度数率=労働災害による死傷者数/ 延べ実労働時間×1,000,000
休業災害強度率	%	0.025*	0.037*	0.032*	0.035*	0.014*	キユーピーグループ国内68事業所 ※強度率=労働損失日数/延べ実労働 時間×1,000

「社会」に関するデータは、特に記載のない限りキユーピー株式会社を対象とする。

「*」マークは、算定定義見直しなどによりデータの一部を修正しています。

キユーピーグループ ESGデータ 一覧

社会

更新日：2025年7月31日

社会貢献活動								
		単位	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	備考
食育活動	開催数	回	62	39	56	106	170	マヨネーズ教室、SDG s 教室 オンライン含む
	参加者数	人	2,938	1,972	4,588	5,617	9,447	
講演会	開催数	回	56	58	99	100	123	
	参加者数	人	3,000	2,013	4,013	4,635	5,282	
工場見学・見学施設来場者数		人	21,016	24,857	25,417	44,266	64,385	五箇・富士吉田（2020年まで）・挙母・鳥 栖・神戸・マヨデラス・中河原・泉佐野・階 上・オンライン含む
マッチングギフトQ P e a c e	支援団体数	団体	12	10	11	10	10	n a k a t o /イシカリデリカ/キタカミデリ カ/キユービー/キユーピーたまご/キユー ビー醸造/グリーンメッセージ/ケイ・エスエ ス/ケイ・システム/ケイバック/コブ食品/ サラダクラブ/セトデリカ/ディスペンバック /デリア食品/トウ・アドキユービー/トウ・
	支援総額	万円	650	649	667	662	656	キユービー/トウ・ソリューションズ/トスデ リカ/ハンシンデリカ/階上キユービー/三英 食品販売/旬菜デリ/中島産商店/鳥栖キユー ビー/薫花・富士吉田キユービー（2021年ま で）
キユーピーみらいたまご財団	助成団体数	団体	132	102	131	150	177	
	助成総額	万円	3,981	3,800	4,052	4,614	5,088	

「社会」に関するデータは、特に記載のない限りキユーピー株式会社を対象とする。

キユーピーグループ ESGデータ 一覧

ガバナンス

更新日：2025年7月31日

取締役会の独立性									
			単位	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	備考
取締役	社内取締役	男性	人	6	6	7	6	5	2025年2月28日現在
		女性		0	0	0	0	0	
		合計		6	6	7	6	5	
	独立社外取締役	男性		2	1	1	2	2	
		女性		1	2	2	2	2	
		合計		3	3	3	4	4	
	合計			9	9	10	10	9	
独立社外取締役比率			%	33.3	33.3	30.0	40.0	44.4	
開催回数			回	12	12	12	12	2026年2月 開示予定	
監査役会									
			単位	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	備考
監査役	社内監査役	男性	人	2	2	2	2	2	2025年2月28日現在
		女性		0	0	0	0	0	
		合計		2	2	2	2	2	
	独立社外監査役	男性		1	1	2	2	2	
		女性		2	2	1	1	1	
		合計		3	3	3	3	3	
	合計			5	5	5	5	5	
開催回数			回	13	13	13	13	2026年2月 開示予定	

キューピーグループ ESGデータ 一覧
ガバナンス

更新日：2025年7月31日

指名・報酬委員会							
	単位	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	備考
指名・報酬委員会	人	7	7	7	8	7	2025年2月28日現在
社内取締役		3	3	3	3	3	
社外取締役・監査役		4	4	4	5	4	
役員報酬							
		2025年度				備考	
		支給人数 (人)	支給額 (百万円)	賞与 (百万円)	総支給額 (百万円)		
取締役	取締役（社外取締役を除く）	8	166	108	274	2025年2月28日現在	
	社外取締役	3	37	－	37		
	合計	11	222	74	296		
監査役	監査役（社外監査役を除く）	2	42	－	42		
	社外監査役	3	30	－	30		
	合計	5	73	－	73		
合計		18	285	108	393		
株主権							
		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	備考
買収防衛策の有無		有	有	無	無	無	
株主・投資家・アナリスト向けの説明会の開催							
	単位	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	備考
定時株主総会	回/年	1	1	1	1	1	
アナリスト向け決算説明会	回/年	2	2	2	2	2026年2月 開示予定	
コンプライアンス							
	単位	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	備考
ヘルプライン（内部通報制度）への通報・相談件数	件	20	28	37	33	2026年2月 開示予定	
全従業員の意識調査アンケート回答率	%	-	84.5	-	78.6	2026年2月 開示予定	2年おきに実施
支払法人税額							
	単位	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	備考
連結会計総額	百万円	8,329	6,774	5,851	9,083	2026年2月 開示予定	
政治献金支出額口							
	単位	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	備考
支出額	百万円	0.25	0.24	0.11	0.00	2026年2月 開示予定	

温室効果ガス排出量 検証報告書

2024 年 7 月 19 日

キューピー株式会社 御中

一般社団法人日本能率協会
地球温暖化対策センター
上級経営管理者 丸尾 智雅



1. 検証の対象及び目的

キューピー株式会社（以下「事業者」という。）が作成した算定対象※¹における温室効果ガス（GHG）排出量算定結果「2023 年度算定報告書」（以下「算定報告書」という。）に記載の 2023 年度（2022 年 12 月 1 日から 2023 年 11 月 30 日まで）の以下の GHG 排出量情報に関して、事業者は、一般社団法人日本能率協会 地球温暖化対策センター（以下「当協会」という。）に対し、限定的保証を目的とした検証を依頼した。

1) スコープ 1 GHG 排出量

算定対象における都市ガス、LPG、A 重油、LNG、灯油、軽油の使用に伴って直接的に排出される CO₂ 排出量

2) スコープ 2 GHG 排出量

算定対象における電力、熱の使用に伴って間接的に排出される CO₂ 排出量

検証の目的は、事業者の GHG 排出量情報が算定方法※²に従って、正確に測定、算出されているかについて、独立の立場から結論を表明することである。算定報告書を作成し GHG 排出量情報を報告する責任は事業者にあり、当協会の責任は、独立の立場から算定報告書に記載された GHG 排出量情報に対する結論を表明することにある。

2. 検証手続き

当協会は、ISO14064-3:2019 (Greenhouse gases - Part 3: Specification with guidance for the verification and validation of greenhouse gas statements)の要求事項に従って検証を実施し、以下の事項を実施した。

- 算定報告書に記載の GHG 排出量を決定するために用いられた情報に関する算定方法、排出量算定システム、及び、関連資料の確認
- 算定報告書の作成に関わる主な担当者へのインタビュー
- GHG 排出量の正確性を確認するためのサンプリングによる根拠となる資料の確認

3. 検証の結論

算定報告書に記載された GHG 排出量情報は、算定方法に従って、すべての重要な点において正確に測定、算出されていないと認められるような事項は発見されなかった。

検証された温室効果ガス排出量 (t-CO ₂ e)	
スコープ 1	53,564
スコープ 2 (調整後排出係数) ※3	85,158

NOTE:

※1：算定対象

日本国内における、キューピー(株)の各拠点、アヲハタ(株)本社、深谷ペジタブルコミュニケーション、グループ施設、及び子会社 14 社の生産拠点（合計 97 拠点）

※2：算定方法

温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度を参照し事業者が作成した「算定手順」

※3：算定には、J-クレジット制度に基づく再生可能エネルギー（熱）のクレジット償却分の控除を含む

以上

サステナビリティ

サステナビリティトップ	>
トップメッセージ	>
サステナビリティ マネジメント	+
資源の有効活用・循環	+
気候変動への対応	+
生物多様性の保全	+
食と健康への貢献	+
持続可能な調達	+
人権の尊重	+
ガバナンス	+
安全・安心	+
開示方針	>
各種報告書	>
対照表	>
ESGデータ集	>
各種方針	>
イニシアチブ・加盟団体	>
社会・環境活動の歴史	>
キューピーグループ オフィシャルブログ	>
グループ各社の サステナビリティ活動	>

各種方針

> グループ規範(倫理規範・行動規範)

> キューピーグループ 経営の基本方針

> キューピーグループ サステナビリティ基本方針

サステナビリティに関連する方針 (基本原則・ガイドライン・宣言含む)		サステナビリティ重点課題					
		食と健康への貢献	資源の有効活用・循環	気候変動への対応	生物多様性の保全	持続可能な調達	人権の尊重
環境	> キューピーグループ 環境方針		●	●		●	
	 キューピーグループ 容器包装選定の基本方針(152KB)		●	●	●	●	
	> キューピーグループ プラスチック方針		●	●	●	●	
	> キューピーグループ 生物多様性方針		●	●	●	●	
調達	> 持続可能な調達のための基本方針		●		●	●	●
	 キューピーグループ サプライヤーガイドライン(655KB)				●	●	●
	 キューピーグループ グリーン購入基本原則(760KB)		●			●	
	 キューピーグループ 紙調達ガイドライン(217KB)			●	●	●	●
人権	 キューピーグループ 人権方針(367KB)						●

安全・ 安心	> キューピーグループ ユ ニバーサルデザイン原則	●					
ガバナ ンス	> キューピーグループ 反 贈賄基本方針					●	
	> キューピーグループ プ ライバシーポリシー					●	
	 マルチステークホル ダー方針(361KB)						●
宣言	> 消費者志向自主宣言	●					
	> キューピーグループ 健 康宣言	●					
	 パートナースhip構 築宣言(152KB)	●		●		●	●

サステナビリティ

サステナビリティトップ	>
トップメッセージ	>
サステナビリティ マネジメント	+
資源の有効活用・循環	+
気候変動への対応	+
生物多様性の保全	+
食と健康への貢献	+
持続可能な調達	+
人権の尊重	+
ガバナンス	+
安全・安心	+
開示方針	>
各種報告書	>
対照表	>
ESGデータ集	>
各種方針	>
イニシアチブ・加盟団体	>
社会・環境活動の歴史	>
キューピーグループ オフィシャルブログ	>
グループ各社の サステナビリティ活動	>

イニシアチブ・加盟団体

イニシアチブへの賛同・参加

加盟団体

イニシアチブへの賛同・参加

国連グローバル・コンパクト (UNGC)

キューピーは、2025年2月に「国連グローバル・コンパクト (UNGC)」へ署名、参加しました。

UNGCとは、各企業・団体が責任ある創造的なリーダーシップを発揮することによって、社会の良き一員として行動し、持続可能な成長を実現するための世界的な枠組み作りに参加する自発的な取り組みです。人権、労働、環境、腐敗防止の4分野10原則※を支持し、その実現に向けた取り組みを推進していきます。

> [国連グローバル・コンパクト](#)



※【国連グローバル・コンパクトの4分野10原則】

〈人権〉	
原則1	国際的に宣言されている人権の保護を支持、尊重し、
原則2	自らが人権侵害に加担しないよう確保すべきである
〈労働〉	
原則3	結社の自由と団体交渉の実効的な承認を支持し、
原則4	あらゆる形態の強制労働の撤廃を支持し、
原則5	児童労働の実効的な廃止を支持し、
原則6	雇用と職業における差別の撤廃を支持すべきである
〈環境〉	
原則7	環境上の課題に対する予防原則的アプローチを支持し、
原則8	環境に関するより大きな責任を率先して引き受け、
原則9	環境にやさしい技術の開発と普及を奨励すべきである
〈腐敗防止〉	

TCFD(気候関連財務情報開示タスクフォース)

キューピーグループは「TCFD(気候関連財務情報開示タスクフォース)」に2021年から賛同し、あわせて「TCFDコンソーシアム」に参画しています。

TCFDは、G20からの要請を受け、金融安定理事会(FSB)が2015年に設立したタスクフォースです。これに賛同する企業や金融機関などが連携する場がTCFDコンソーシアムです。

＜TCFD [🔗](#)

＜TCFD コンソーシアム [🔗](#)



TNFD(自然関連財務情報開示タスクフォース)フォーラム

キューピーグループは「TNFD(自然関連財務情報開示タスクフォース)フォーラム」に2024年4月に参画しました。

TNFDは、民間企業や金融機関が自然資本および生物多様性に関するリスクや機会を適切に評価し、開示するためのフレームワークを構築する機関として発足しました。TNFDフォーラムとは、TNFDのビジョンとその取り組みに賛同し、TNFDフレームワークの開発作業を支援することを目的とした、TNFDをサポートする有志連合です。

＜TNFDフォーラム [🔗](#)



経団連生物多様性宣言イニシアチブ

キューピーは「経団連生物多様性宣言イニシアチブ」に2024年から賛同しています。

経団連生物多様性宣言イニシアチブは、「経団連生物多様性宣言・行動指針(改定版)」が掲げる7項目のうち複数の項目に取り組む、または全体の趣旨に賛同する企業・団体の活動方針や活動事例を、特設ウェブサイトで内外に向けて、発信・紹介するものです。

＜経団連生物多様性宣言イニシアチブ [🔗](#)

GPN(グリーン購入ネットワーク)

キューピーは「GPN(グリーン購入ネットワーク)」に1996年から加盟しています。

GPNは、環境負荷の小さい製品やサービスの市場形成を促し、持続可能な社会経済の構築に寄与するため、グリーン購入活動を促進し、グリーン購入に関する普及啓発や情報提供、調査研究などを行っているネットワークです。

＜GPN [🔗](#)



RSPO(持続可能なパーム油のための円卓会議)

キューピーグループは「RSPO(持続可能なパーム油のための円卓会議)」に2018年から加盟しています。
RSPOは、世界的に信頼される認証基準の策定と、ステークホルダー(利害関係者)の参加を通じ、持続可能なパーム油の生産と利用を促進することを目的として、WWFを含む7つの関係団体を中心となり2004年に設立した非営利団体です。

[> RSPO](#) 

JaSPON(持続可能なパーム油のためのネットワーク)

キューピーグループは「JaSPON(持続可能なパーム油のためのネットワーク)」に2019年から加盟しています。
JaSPONは、パーム油生産における社会や環境面のさまざまな問題を解決することをめざし、日本市場における持続可能なパーム油の調達と消費を加速させる目的で小売、消費財メーカー、NGOなどによって設立されたネットワークです。

[> JaSPON](#) 

環境省ウォータープロジェクト

キューピーは「環境省ウォータープロジェクト」に2022年から参加しています。

環境省ウォータープロジェクトは、2014年に「水循環基本法」に基づき発足した、健全な水循環の維持または回復を目的とした取り組みの促進などを推進する官民連携プロジェクトです。

[> 環境省ウォータープロジェクト](#) 



環境省 プラスチック・スマートキャンペーン

キューピーは「環境省 プラスチック・スマートキャンペーン」に2020年から参加しています。

プラスチック・スマートとは、環境省が実施している海洋プラスチックごみの削減に向けたキャンペーンの名称です。個人・自治体・NGO・企業・研究機関などのさまざまな主体が連携・協働して取り組んでいる「プラスチックとの賢い付き合い方」を全国的に推進し、発信しています。

[> 環境省 プラスチック・スマートキャンペーン](#) 



CLOMA(クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス)

キューピーは「CLOMA(クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス)」に2020年から参加しています。

CLOMAは、地球環境の新たな課題である海洋プラスチックごみの問題解決に向けて、プラスチック製品のより持続可能な使用並びにプラスチック廃棄物の削減につながる革新的な代替品の開発および導入普及を図り、業種を超えた幅広い関係者の連携を強めてイノベーションを加速するため2019年1月に設立されたプラットフォームです。

[> CLOMA](#) 



キューピーは「あふの環2030プロジェクト」に2020年から参加しています。

「あふの環2030プロジェクト」は、2030年のSDGs達成をめざし、今だけでなく次の世代も豊かに暮らせる未来を創るべく農林水産省が立ち上げたプロジェクトです。

[＞あふの環プロジェクト](#) 



食環境戦略イニシアチブ(健康的で持続可能な食環境戦略イニシアチブ)

キューピーは「食環境戦略イニシアチブ(健康的で持続可能な食環境戦略イニシアチブ)」に2021年3月から参画しています。

食環境戦略イニシアチブは、厚生労働省が立ち上げ、産学官などの連携による推進体制により、食塩の過剰摂取、若年女性のやせ、経済格差に伴う栄養格差などを重大な社会課題と捉え、活力ある持続可能な社会の実現をめざしています。

[＞食環境戦略イニシアチブ](#) 

[＞食環境戦略イニシアチブにおけるキューピーの公開目標](#) 

加盟団体

協会・団体名	役職
一般財団法人 食品産業センター	副会長
食品産業中央協議会	監事
全国マヨネーズ・ドレッシング類協会	会長
全国ドレッシング類公正取引協議会	会長
公益社団法人 日本缶詰びん詰レトルト食品協会	副会長
日本介護食品協議会	会長
フレイル予防推進会議	-

サステナビリティ

サステナビリティトップ	>
トップメッセージ	>
サステナビリティ マネジメント	+
資源の有効活用・循環	+
気候変動への対応	+
生物多様性の保全	+
食と健康への貢献	+
持続可能な調達	+
人権の尊重	+
ガバナンス	+
安全・安心	+
開示方針	>
各種報告書	>
対照表	>
ESGデータ集	>
各種方針	>
イニシアチブ・加盟団体	>
社会・環境活動の歴史	>
キユーピーグループ オフィシャルブログ	>
グループ各社の サステナビリティ活動	>

社会・環境活動の歴史

対象：キユーピーグループ 本年表は、当時の活動内容を掲載しています		
西暦	社会活動	環境活動
2025年 ※ 5月末時点	経営方針刷新に伴いキユーピーグループ サステナビリティ基本方針を改訂	
	キユーピーグループ 人権方針を改定(性的思考、性自認を追加)	
	組織再編により、広報・サステナビリティ本部にサステナビリティ推進部を設置	
	「健康経営優良法人2025」認定	2024年度TCFD報告書を開示
	国連グローバル・コンパクトに署名 グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパンに加入	2024年度TNFD報告書を開示
	アヲハタ「えるぼし認定(2段階目)」取得	サラダクラブ・ケイパック五霞工場で太陽光発電を開始
	2025モチベーションチームアワード 優秀賞を受賞(キユーピー 研究開発本部 未来創造研究所の取り組み)	江崎グリコ、キユーピー、KRS、T2の幹線輸送の共同検証開始
		鹿嶋市、リファインバース、三菱ケミカル、東洋製罐グループ、キユーピー、カスミがプラスチック容器の循環を目指す包括連携協定を締結
		使用済みプラスチックの再資源化に向けてキユーピーがアールプラスジャパンに資本参加
		キユーピーとユニバーサル・スタジオ・ジャパンが環境に配慮した卵殻アップサイクル・ステッカー「たまからシール」を制作
	キユーピーグループ 持続可能な調達のための基本方針およびキユーピーグループ サプライヤーガイドラインを改訂	
	FTSE4Good Index Seriesに初選定	
2024年	キユーピーグループ 環境ビジョン2050を策定	
	「健康経営優良法人2024」認定	2023年度TCFD報告書を開示

	渋谷未来デザイン特別正会員として入会	業務用商品ほしえぬパスタソースパキッテシリーズ容器サイズ変更によりプラスチック使用量25%削減
	フレイル予防推進会議に参画	キューピー あえるパスタソースシリーズ外袋を紙パッケージに変更
		キューピー3分クッキング 野菜をたべよう!スープの素外袋を紙パッケージに変更
		キューピーが第45回食品産業優良企業等表彰 環境部門において農林水産大臣賞を受賞(マヨネーズ残さをバイオガス発電に有効活用)
		キューピーグループecoラベル運用開始
		CDP「気候変動」と「水セキュリティ」の2分野で「A-」の評価を獲得
		経団連生物多様性宣言イニシアチブ参画
		TNFDフォーラム参画
		キューピーと日清オイリオグループが使用済み油付きPETボトルの資源循環に向けて協働、回収を開始
		渋谷未来デザインとの共催でSHIBUYA Urban Farming Project設立
		キューピーと味の素がマヨネーズボトルの資源循環に向けて協働、回収を開始
		市販用ドレッシング類の180mlサイズ全25品に再生PET樹脂を30%含むボトルを採用
		サラダクラブ 三原工場で太陽光発電を開始
		キューピーが2024日本パッケージングコンテストにおいて食品包装部門賞を受賞(国内調味料初100%再生PET樹脂のドレッシングボトル)
		キューピータマゴが食品産業新聞社主催食品産業技術功労賞サステナビリティ部門を受賞(卵に関する取り組み)
2023年	パートナーシップ構築宣言	
	マルチステークホルダー方針を策定	

	北京・杭州・広州の3工場が「食品科学普及教育基地」に認定	2022年度TCFD報告書を開示
	「サステナブルな食」の新ブランドGREEN KEWPIEを発表	業務用商品ニューエグスターボトルのプラスチック使用量を削減することで軽量化
	全国47都道府県「ご当地ペイザンヌサラダ」の取り組みを始動	業務用商品キューピー、ほしえぬブランド1000ml・500mlボトル容器入り商品軽量化によりキャップのプラスチック使用量を約9%削減
	「健康経営優良法人2023」認定	南通丘比、キューピータマゴ三田工場・尾張工場、サラダクラブ遠州工場(第2期)、広州丘比、キューピーマレーシア、コープ東北で太陽光発電を開始
		Italiante バジルソースボトルタイプの賞味期間延長
		キューピー(五霞工場、中河原工場、泉佐野工場、神戸工場)とケイパックで食品残さによるバイオマス発電を実現
		ヴェルデ トーストスプレッドシリーズ環境配慮型容器の切り替えによりプラスチック使用量を約10.9%削減(シリーズすべてに採用)
		キューピー テイスティドレッシング、機能性表示食品ドレッシング再生プラスチックを100%使用したボトルを採用(国内調味料初:キューピー調べ)
		ヴェルデ パッケージシリーズ容器の一部(内容物が入っている部分)にバイオマスプラスチックを配合することで、石油由来プラスチック使用量を40%削減
		キューピーがSDGs・災害食大賞@2023 ローリングストック部門において最優秀賞受賞(キューピー やさしい献立シリーズ)
		キューピーが令和5年度リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰においてリデュース・リユース・リサイクル推進協議会会長賞を受賞(マヨネーズ残さをバイオガス発電に有効活用)
2022年	キューピーグループ サステナビリティ基本方針を策定	

サステナビリティに向けた重点課題に持続可能な調達、人権の尊重を追加し、サステナビリティ目標を見直し	
キューピーグループ3社(キューピータマゴ・デリア食品・キューピー醸造)の公式サイト内に「サステナビリティページ」を新設	
キューピーグループ サステナビリティ基本方針を改訂、あわせてキューピーグループ生物多様性方針を策定	
サステナビリティに向けた重点課題を見直し生物多様性の保全を追加	
「健康経営優良法人2022」認定	TCFDフレームワークに基づく情報を開示
ABC Cooking Studio×キューピー【サラダとタマゴの食と健康キッチン】共同プロジェクト	野菜廃棄物ゼロ化全7工場で完了 (サラダクラブ中河原工場・伊丹工場・鳥栖工場)
キューピーが第6回食育活動表彰 教育関係者・事業者部門【企業の部】において、農林水産大臣賞を受賞	ヴェルデ ピーナッツホイップ、チョコホイップ 容器薄肉化によりプラスチック使用量を約9.3%削減
野菜の魅力を体験できる複合型施設「深谷テラス ヤサイな仲間たちファーム」を開業	キューピー3分クッキング 野菜をたべよう!スープの素シリーズ3品を年月表示
オンラインと出前事業でSDGs教室を開始	アラハタ まるごと果実シリーズ瓶軽量化
キューピー、デリア食品、ポテトデリカが第72回大会日本食品保蔵科学会 産業技術功労賞を受賞(冷圧フレッシュ製法®)	ヴェルデ トーストスプレッドシリーズ 容器薄肉化によりプラスチック使用量を約10.9%削減
日本食品工学会第23回年次大会 技術賞を受賞冷圧フレッシュ製法®)	サラダクラブ パッケージサラダトレー 約10%軽量化によるプラスチック使用量削減
2020日本パッケージングコンテスト 包装部門賞 食品包装部門賞を受賞(キューピー 平飼い卵マヨネーズ)	サラダクラブ 加熱用カット野菜 炒めるキャベツ鮮度保持延長技術により業界最長消費期限を実現
2020日本パッケージングコンテスト 包装技術賞 アクセシブルデザイン包装賞を受賞(レンジでチンするハッピーレシビ)	サラダクラブ パッケージサラダフィルム規格変更(寸法の縮小化・薄肉化)によるプラスチック使用量削減
2020日本パッケージングコンテスト ジャパンスター賞 公益社団法人日本包装技術協会会長賞を受賞(ヴェルデ ピーナッツホイップ、チョコホイップ)	渋谷本社および仙川キューポート使用電力を実質再生可能エネルギー由来へ100%切り替え
2022年度グッドデザイン賞を受賞(H O B O T A M A シリーズ)	キューピー神戸工場(オンサイトPPA)、北京丘比、カタカミデリカ(オンサイトPPA)で太陽光発電を開始
	キューピー ベビーおやつ 野菜入りソフト おせんべいの包材変更によりプラス

		チック使用量を約35%削減
		サステナアワード2021 みどりの食料システム推進賞を受賞(卵の有効活用動画)
		プラントベースフード HOBOTAMA (ほぼたま)の市販用発売
		サラダクラブ カットレタス増量企画により産地廃棄(フードロス)削減支援を実施
		キューピー あえるパスタソースシリーズ「年月」表示へ 切り替え、包材のスリム化によりプラスチック使用量を約7%削減
		キューピー やさしい献立シリーズ 31品 賞味期間延長
		サラダクラブ 素材パウチシリーズ全ての包材・インキを植物由来のバイオマスパウチおよびバイオマスインキへ切り替え完了
		パーム油においてRSPOブックアンドクレーム方式への切り替えを完了し、マスのバランスの切り替えを開始
2021年	サステナビリティに向けた重点課題(食と健康への貢献、資源の有効活用・循環、気候変動への対応)とサステナビリティ目標を見直し	
	オンライン離乳食教室をキューピー鳥栖工場で開始	キューピー 広州工場オール電化設備を導入
	共同研究講座「キューピー・東京家政大学 タマゴのおいしさ研究所」を開設	キューピー ベビーおやつ たまごたっぷりぼうろパッケージのプラスチック使用量を約25%削減
	「健康応援BOOK」を公開	野菜廃棄物ゼロ化4工場で完了(サラダクラブ五霞工場)
	アヲハタ4期連続で「子育てサポート企業」に認定	キューピー テイस्टィドレッシング全品に再生プラスチック30%を含むボトルを採用
	キューピー食育活動「マヨネーズ教室」「食をテーマにした講演会」を対面とオンラインのハイブリッド化 開始	TCFD提言への賛同を表明 TCFDコンソーシアムへ参画
	キューピーグループ人権方針を策定	サラダクラブ サステナビリティページを開設
	未来を創る子どもたちの生きる力を育む、楽しく学んで試せるサイト「食生活アカデミー」を開設	旬菜デリ青梅工場、キューピータマゴ飯能工場、キューピーベトナムで太陽光発電を開始

	子どもが野菜をおいしく、楽しく食べられるように応援するサイト「子どもと野菜をたのしもう」を開設	
	各世代で意識したい食生活のポイントとおすすめレシピを紹介するサイト「みんなの食と健康応援」を開設	
2020年	組織再編により、経営推進本部にサステナビリティ推進部(旧CSR部)を設置	
	サステナビリティ担当取締役を委員長とするサステナビリティ委員会(旧CSR委員会)を設置	
	CSRサイトをサステナビリティサイトへ名称変更	
	健康経営優良法人2020(ホワイト500)3年連続認定	キューピータイランド(第2期)、旬菜デリ昭島工場で太陽光発電を開始
	AIを活用した原料検査装置でキューピーが第2回日本オープンイノベーション大賞農林水産大臣賞を受賞	野菜廃棄物ゼロ化3工場で完了(サラダクラブ三原工場・サラダクラブ真庭工場)
	東京農業大学内にキューピー「エッグイノベーション」寄付研究部門を開設	第7回「食品産業もったいない大賞」農林水産省食料産業局長賞をキューピーとキューピータマゴが受賞(卵殻と卵殻膜の価値探求と食と健康への貢献)
	キューピーが知的財産権制度活用優良企業として令和2年度「知財功労賞」特許庁長官表彰を受賞	再生プラスチックをキューピー ドレッシング スティックタイプの外装に採用
	松本市・松本大学と共同研究の成果を発表 健康的な食生活提案	サラダクラブ 素材パウチシリーズ12品に植物由来のプラスチックを採用 全品の賞味期間延長と年月表示
	渋谷区と共同で食生活と健康の関連を調査開始	環境賞「プラスチック・スマート」キャンペーンに参加
	初のオンライン社会科見学をキューピー挙母工場・キューピー神戸工場で実施	CLOMA (Japan Clean Ocean Material Alliance) に加盟
	マヨテラスでオンライン見学を開始	
2019年	「サステナビリティ目標」を設定	
	健康経営優良法人2019(ホワイト500)2年連続認定	野菜廃棄物ゼロ化完了(サラダクラブ遠州工場)
	マヨネーズ教室(出前出張)累計参加人数10万人達成	キューピードレッシング スティックタイプの外装に再生プラスチック使用
	創業100周年イベント「キューピー 笑顔を届ける音楽会」を全国各10カ所の幼稚園・保育園と介護施設で開催	キューピー、サンスター、日本パレットレンタルに3者によるトラックと船舶を組み合わせた3社共同輸送(関西・九州間)を開始

	山形県と包括連携協定を締結(地域の活性化と市民の生活の質向上を目的とした地域創生の推進)	第6回「食品産業もったいない大賞」農林水産省食料産業局長賞をキューピーとグリーンメッセージが受賞 (野菜の未利用部を活用した資源循環の推進)
	AIを活用した食品の原料検査装置の取り組みにおいて、キューピーが「IT JapanAward 2019」準グランプリを受賞	令和元年度リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰 農林水産大臣賞をキューピーとキューピータマゴが受賞 (卵殻の付加価値化と社会貢献への挑戦)
	ディープラーニングを活用した食品のAI原料検査装置の取り組みにおいてキューピーが、「ディープラーニングビジネス活用アワード(日経xTECH主催)」大賞を受賞	キューピータイランド(第1期)で太陽光発電を開始
2018年	「CSRの基本的な考え方」と「CSRの重点課題(健康寿命の延伸、子どもの心と体の健康支援、資源の有効活用と持続可能な調達、CO2排出量削減、ダイバーシティの推進)」を策定	
	キューピーグループの持続可能な調達のための基本方針の策定	
	健康経営優良法人2018(ホワイト500)認定	キューピーで初めて「年月表示」を開始(市販用介護食キューピー やさしい献立シリーズ レトルトパウチ)
	プラチナくるみん認定	キューピードレッシングのガラス瓶容器をプラスチックボトル化(原料調達、容器製造、容器輸送までにおいて、温室効果ガス(GHG)を約20%削減)
	広島市と包括連携協定を締結(地産地消や食育、健康増進の取り組みなどを推進)	キューピー、ライオン、日本パレットレンタルの異業種3社による共同幹線輸送を開始
	「あいち みんなのサラダ」プロジェクト実行委員会設立(愛知県民の野菜摂取量増加を応援)	平成30年度リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰をキューピーとグリーンメッセージが内閣総理大臣賞を受賞 (野菜の未利用部を活用した資源循環の推進)
		平成30年度グリーン物流パートナーシップ優良事業者表彰 国土交通大臣表彰を受賞
		RSPO※に加盟 (※ RSPO:持続可能なパーム油のための円卓会)
2017年	キューピータイランド(第1期)で太陽光発電を開始	
	株主総会にてCSRの展示を実施	

	CSR委員会を設置 環境委員会を食育・社会貢献を含むCSR全体を推進する組織に改編	
	キューピー神戸工場でオープンキッチン(工場見学)を開始	グリーンファクトリーセンター白河(第2期)で太陽光発電を開始
	一般財団法人 キューピーみらいたまご財団設立(2019年4月に公益財団法人に移行)	キューピー富士吉田工場 平成28年度関東地区電気使用合理化委員会委員長表彰 「事業所 最優秀賞」を受賞 ※2021年譲渡
	第1回 地域の居場所づくりサミット開催(一般財団法人 キューピーみらいたまご財団)	工場で発生する野菜残さで染めたエプロン(FOOD TEXTILE)をマヨネーズ教室で採用
		野菜残さのサイレージ化を開始(グリーンメッセージ)
2016年	渋谷区との「シブヤ・ソーシャル・アクション・パートナー協定」を締結	キューピー マヨネーズ(一部容量)とキューピーハーフの賞味期間を延長(食品ロス削減)
		「キューピーの森」第三期活動開始
		「エネルギー1/2」をコンセプトとしたキューピー神戸工場の操業開始
		遠州デリカ※で太陽光発電を開始 ※ 現サラダクラブ遠州工場
2015年	社会・環境推進部をCSR部に改組	
		長距離輸送(500km以上)のモーダルシフトの推進開始
		パッケージサラダ(一部商品)消費期限延長
		グリーンファクトリーセンター(第1期)、キューピー富士吉田工場(※2021年譲渡)に太陽光発電を開始
2014年	仙川キューポート内に見学施設「マヨテラス」をオープン	エコプロダクツ2014年の環境省「Fun to Share」ブース内に卵殻活用事例を展示
		キューソー流通システム所沢物流センター、キューピー醸造滋賀工場に太陽光発電設備導入
		九都県市「容器包装ダイエット宣言」に参加。関東圏スーパー75店舗のキャンペーンで容器軽量化を行った商品を紹介
		ポテトピール(主にじゃがいもの皮と芽)の飼料化開始(養豚用)

		キューピー醸造 滋賀工場で太陽光発電を開始
2013年	お茶の水女子大学に寄附研究部門「食と健康」を設立	加藤産業様、キューソー流通システム、キューピー連携のグリーン物流の普及拡大により、グリーン物流パートナーシップ会議特別賞を受賞
	ダンスコンクールの協賛開始	キューソー流通システム松戸営業所・伊丹第三営業所、ケイパックに太陽光発電設備導入
	「広島県とアヲハタとの包括的連携に関する協定」を締結	「キューピーの森」第二期活動開始
		ケイパック本社工場で太陽光発電を開始
2012年	社会・環境推進部と広報室を再編し、広報・CSR本部を設置	
	幼児向け絵本の製作・発行(年1冊ずつ2016年まで実施)	キューピー ファインケミカル本部五霞工場で太陽光発電を開始
	アヲハタ ジャム工場内に見学施設「アヲハタ ジャムデッキ」をオープン	
2011年	第32回食品産業優良企業等表彰 CSR部門で「農林水産大臣賞」を受賞	
	公益財団法人ベルマーク教育助成財団が行う東日本大震災被災地の教育援助活動に対し5年間の寄付を開始	
2010年	三國清三シェフを講師に迎えた「家族でわくわくクッキング」を開始	
2009年	社会・環境推進室と法務・知的財産室を再編し、CSR推進本部を設置、社会・環境推進室を社会・環境推進部に改組	
	キッザニア甲子園に「マヨネーズ工場」パビリオン出展	営業車にハイブリッドカー「プリウス」を導入
2008年	マッチングギフト制度「Q P e a c e」開始	段ボールの印刷に使用するインクを39色から標準色18色に集約
	「社会と環境について語るブログ」が環境goo大賞(ブログ部門)受賞	
2007年	フードバンク活動への支援開始	キューピー富士吉田工場でISO14001の認証取得 ※2021年譲渡
	「社会と環境について語るブログ」開始	水源涵養を目的として森林保全活動「キューピーの森」を山梨県富士吉田市で開始
2006年	「社会・環境報告書」の発行を開始(社会性の記述を増やし、冊子版とウェブ版を発行)	

	渋谷音楽祭への協賛開始	「チーム・マイナス6%」に参加
		八都府市「容器包装ダイエツト宣言」に参加
2005年	CSR担当役員任命、環境対策室を社会・環境推進室に改組	
	「環境・社会報告書」の発行を開始（「環境報告書」に社会活動に関する内容を付加）	
		中河原工場でISO14001の認証取得
2004年	キューピーニュースが第4回消費者教育教材資料表彰（主催：財団法人消費者教育支援センター）の優秀賞を受賞	鳥栖工場でISO14001の認証取得
2003年		キューピー全工場で廃棄物の再資源化率100%達成
2002年	マヨネーズ教室を開始	キューピー全工場の廃棄物焼却炉を廃止
	東京水産大学（現 東京海洋大学）大学院に「ヘルスフード科学（中島董一郎記念）寄附講座」を設立	五霞工場で廃棄物の再資源化率100%達成
2001年		「環境報告書」の発行開始
		五霞工場でISO14001の認証取得
		グループ環境マネジメントマニュアルを制定
2000年		マヨネーズ容器、段ボール箱の減量化、仕切り板廃止などを実施
		伊丹工場でISO14001の認証取得
		NPO法人「霧多布湿原ナショナルトラスト」への協賛および寄付を開始
1998年		容器包装の環境影響評価基準を制定
		グリーン購入の基本原則を制定、OA用紙ガイドラインを作成・運用開始
		環境保全のための基本方針を制定（部門ごとの目標を設定し活動）
1997年		環境担当役員、環境対策室を設置
		環境委員会（委員長：環境担当役員）を全社組織に改組
		卵殻膜を素材としたうまみ調味料を発売（商品名「卵醬」） ※ 現在は販売しておりません

1993年		安全・環境に関するグループ各社相互点検システムを確立
1992年		容器減量化を推進(ドレッシングびんを丸形・軽量びん化など)
1991年		環境問題検討委員会を設置(委員長:生産本部長)
		卵殻膜を加工、化粧品原料として発売
1984年	「食」をテーマとする講演会活動を開始	
1981年		卵殻を食品用カルシウムとして発売(膜除去技術の確立により実現、商品名「カルホープ」)
1980年	「那覇ママさんコーラスまつり」(現「全沖縄おかあさんコーラス大会」)の協賛開始	
1978年	日本合唱連盟・朝日新聞社主催の「全日本ママさんコーラス大会」(現「全日本おかあさんコーラス大会」)の協賛開始	
1975年	食生活に関するビデオの配布開始	
1973年	食と健康の知識の普及をはかる「キューピーニュース」発行	
1971年		活性汚泥による排水処理設備を導入(1975年に全工場に整備)
1969年		卵殻の破砕・乾燥設備を導入(旧仙川工場)
1963年		廃棄物削減を合理化の一環として取り組み開始
1962年	「キューピー 3分クッキング」放映開始	
1961年	オープンキッチン(工場見学)を開始	
1960年	財団法人ベルマーク教育助成財団への協賛開始	
1956年		卵殻を天日で干し、土壌改良材として農家に販売を開始

サステナビリティ

サステナビリティトップ >

トップメッセージ >

サステナビリティ
マネジメント +

資源の有効活用・循環 +

気候変動への対応 +

生物多様性の保全 +

食と健康への貢献 +

持続可能な調達 +

人権の尊重 +

ガバナンス +

安全・安心 +

開示方針 >

各種報告書 >

対照表 >

ESGデータ集 >

各種方針 >

イニシアチブ・加盟団体 >

社会・環境活動の歴史 >

キューピーグループ
オフィシャルブログ >

グループ各社の
サステナビリティ活動 >

グループ各社のサステナビリティ活動

アヲハタ株式会社

ジャム類(ジャム、マーマレードなど)、産業用加工品類(フルーツ・プレパレーション:主としてヨーグルト・アイス用フルーツソース)などの食料品の製造および販売をしている会社です。

[アヲハタ株式会社 サステナビリティ](#) 

株式会社サラダクラブ

キューピーと三菱商事が設立したパッケージサラダの製造・販売をしている会社です。

[株式会社サラダクラブ サステナビリティ](#) 

キューピータマゴ株式会社

液卵・乾燥卵などの加工食品の原料から、茹卵・たまごサラダ・厚焼たまご・オムレツなどの商品を製造・販売している会社です。

[キューピータマゴ株式会社 サステナビリティ](#) 

デリア食品株式会社

サラダ・惣菜、米飯、麺類、漬物、コミュニケーションフードの製造および販売をしている会社です。

[デリア食品株式会社 サステナビリティ](#) 

株式会社ポテトデリカ

「じゃがいも」を原料としたポテトサラダなどのお惣菜を開発・製造している会社です。

株式会社ポテトデリカ サステナビリティ 

キューピー醸造株式会社

醸造酢、穀物酢、果実酢の製造販売。漬物、惣菜向け調味酢、調味液の製造販売。食品添加物（品質保持用）などの製造販売をしている会社です。

キューピー醸造株式会社 サステナビリティ 

株式会社ケイパック

マヨネーズ・ドレッシングを中心とした小袋調味料の製造および販売をしている会社です。

株式会社ケイパック 環境対策 